

病 院 年 報

令和 4 年度

ANNUAL
REPORT 2022

Japanese Red Cross Fukushima Hospital



日本赤十字社 福島赤十字病院



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

病 院 年 報

令和 4 年度

福島赤十字病院

福島赤十字病院

Japanese Red Cross Fukushima Hospital

理念

Philosophy

わたしたちは、いのちと健康、尊厳を守るため、より良い医療を目指します。

We aim at the better medical care to follow a life health and dignity

基本方針

Policy

1. 患者さま中心の医療

Patient-centered medical care

患者さまの人権と意思を尊重し、説明と同意に基づいた患者さま中心の医療に努めます

2. 良質な医療の提供

Providing quality medical care

良質な医療を提供するため、医療技術の向上および施設の充実を図ります

3. 地域医療機関との連携

Cooperation with the medical institution of the area

地域医療支援病院として、地域の医療機関と緊密な医療連携を行います

4. 救急医療の充実

Enhancement of emergency medical care

二次救急医療指定機関として、救急患者さまには24時間対応し、質の高い救急医療を行います

5. 災害時の救護活動

Disaster relief at the time of disaster

災害拠点病院として、災害時の救護活動に努め、被災者に寄り添った支援を行います

6. 原子力災害対応機能の充実

Enhancement of medical service for nuclear disaster

原子力災害拠点病院として、原子力災害に対する対応や医療活動を行います

7. 健全な経営の維持

Maintenance of the sound management

健全な経営を維持し、高度な医療の提供に努めます

患者さまの権利

福島赤十字病院は患者さまの次の権利を尊重します。

- 良質な医療を公平に受ける権利
- 個人の尊厳が守られる権利
- 医療上の個人情報(プライバシー)が守られる権利
- 診療上必要な情報を得、説明を受ける権利
- 自らの意思に基づき医療行為を選択する権利
- 他の医師等の意見(セカンドオピニオン)を求める権利

発刊にあたり



福島赤十字病院
院長 鈴木 恭一

令和4年度の福島赤十字病院を振り返ると、実にさまざまなことがありました。

最も印象に残るのは3年目となる新型コロナウイルス感染症対応です。医師や看護師、医療技師、薬剤師、事務職員など院内全てのスタッフがコロナ患者の対応に関わってくれました。内科系医師だけでなく外科系医師も、若手もベテランもコロナ診療に向き合ってくれました。もしも一部の診療科や一部のスタッフだけに負担を負わせていたならば、3年を超えての対応は維持できなかったと思います。その意味で病院すべての職員に感謝しています。

9月1日に精神科病棟を閉鎖しました。医療資本(医師、看護師など)に限りがある状況での止むを得ない判断でしたが、患者様や地域の医療機関にはご迷惑をお掛けしました。残った精神科医師をサポートしながら、緩和ケアなど医療水準を維持するとともに、身体合併症を持つ精神疾患患者の入院治療は継続して行きます。これは地域から求められている当院の使命です。

12月に宿日直許可を取得しました。それを基に当院医師の時間外労働時間を計算すると、すべての医師がA水準(時間外上限960時間以下)となる見込みです。B水準では勤務間インターバル9時間などの制約が義務化され、現在の当院の医師数では日常業務が立ち行かなくなります。何よりも過労死レベルを超えるB水準での勤務は、医師のみならず患者さまにとっても望ましいものではありません。

年が明けて3月には外来完全予約制の導入を検討しました。2024年4月から「医師の働き方改革」が導入されることもあり、取り組む必要のある制度と認識しています。その際に併せて認識すべきは、具合が悪くて来た患者さんを「予約制だから」と言って追い返す病院には決してなってはならないということです。職員の勤務環境を守りながら「患者さま中心の医療」を維持するためのシステム作りを今後も検討していきます。

人は誰でも多かれ少なかれ判断ミスをしますが、致命的な判断ミスをするとは組織は莫大な損害を被ります。致命的な判断ミスにより社会的に批判を浴びた企業を、私たちはこれまで幾度となく見てきました。こうした致命的な判断ミスが生まれる背景として、「経営理念」や「行動規範」がないこと、有っても空文化している事が指摘されています。当院では、「患者さま中心の医療」「良質な医療の提供」「地域医療機関との連携」「救急医療の充実」という基本方針を、今後も全員で堅持していきます。

令和6年3月

目次

福島赤十字病院 令和4年度 病院年報

I 一年の動き

1. 令和4年度の動き	1
2. 災害救護訓練	4
3. 院友会	5

II 病院の概況

1. 病院の沿革	7
2. 病院概要	10
3. 組織図	15
4. 職員数	16
5. 福島赤十字病院会議及び委員会	17
6. 救護班名簿	18

III 統計

1. 令和4年度実績表	21
2. 入院 診療科別・月別 患者数、稼働額、単価	22
3. 外来 診療科別・月別 患者数、稼働額、単価	25
4. 診療科別・行為別稼働額	28
5. 入院患者数	30
6. 新入院患者数	31
7. 外来患者数	32
8. 診療科別稼働額	33
9. 入院・外来単価(自費収益を含まない)	34
10. 手術件数(手術室)	35
11. 平均在院日数	36
12. 病床稼働率(退院を含む)	37
13. 紹介率・逆紹介率(病院全体)	37
14. 分娩件数	37
15. 診療科別救急車受入件数	38
16. 損益推移	39
17. 比較損益計算書	40

IV 活動実績

1. 内科	41
2. 消化器内科	41
3. 糖尿病・代謝内科	44
4. 循環器内科	44
5. 脳神経内科	46
6. 精神科	47
7. 小児科	47
8. 外科	48
9. 心臓血管外科	51
10. 呼吸器外科	52
11. 整形外科	53
12. 脳神経外科	54
13. 皮膚科	56
14. 形成外科	57
15. 泌尿器科	57
16. 産婦人科	58
17. 眼科	60
18. 耳鼻咽喉科	60
19. 放射線科	62
20. 麻酔科	64
21. リウマチ・膠原病内科	65
22. 病理診断科	66
23. 救急科	67
24. リハビリテーション科	68
25. 薬剤部	71
26. 医療技術部[栄養課、臨床工学技術課]	75
27. 看護部	78
28. 検査部	106
29. 事務部[総務課、経営企画課、医療情報システム課、会計課、用度施設課、 医事課、健診課、患者サービス推進室]	108
30. 医療安全推進室	119
31. 感染管理室	121
32. 診療支援室	122
33. 地域医療連携室	123
34. 福島赤十字訪問看護ステーション	126

V 会議・委員会活動

1. 会議	129
2. 病院運営に関する委員会	132
3. 医療安全管理に関する委員会	140
4. 診療に関する委員会	146
5. 教育・研究に関する委員会	153
6. 労務および安全管理に関する委員会	154

VI 研究発表

1. 学会・研究会・研修会	157
2. 論文発表	161

I

一年の動き



1. 令和4年度の動き

令和4年度は、新型コロナウイルスの影響により多くの院内・院外のイベントが中止となった。

<当院の動き>

令和4(2022)年

4月

●辞令交付式[1日]

新たに33名の新規採用職員を迎えた。



辞令交付式の様子



新規採用職員

●新規採用職員オリエンテーション[1日、4日～5日]



オリエンテーションの様子



●院友会総会・新人歓迎会 → 新型コロナウイルスによる影響のため中止

5月

●看護の日イベント → 新型コロナウイルスによる影響のため中止

例年、「看護の日」と「赤十字運動月間」にあわせて、正面玄関付近をメイン会場にイベントを開催しているが、新型コロナウイルスの影響もあり、中止となった。

●病院機関誌『日赤通り広報版vol.55』発行[1日]

●病院機関誌『日赤通り院内版vol.101』発行[27日]

6月

●永年勤続功労表彰[1日]

勤続30年：9名 勤続20年：7名 勤続10年：17名





1. 令和4年度の動き

<当院の動き>

8月

- 福島わらじまつり「ダンシングソーだナイト」 → 新型コロナウイルスによる影響のため不参加
- 院内防災訓練実施[12日]



10月

- 福島日赤ボランティア会感謝状贈呈[27日]



11月

- 病院機関誌『日赤通り広報版vol.56』発行[30日]

令和5(2023)年

1月

- 仕事始め・院長年頭挨拶[4日]



- 病院機関誌『日赤通り広報版vol.57』発行[30日]



1. 令和4年度の動き

<当院の動き>

2月

- 病院機関誌『日赤通り院内版vol.102』発行[3日]
- 外部講師による「トレーナー研修会」実施[25日]



3月

- 病院機能評価本審査受審[15日～16日]



- 辞令交付式[31日]



2. 災害救護訓練

令和4年度災害救護関連訓練・研修会 参加実績

令和5年4月1日現在

	日 程	名 称	会 場	主 催	参加者
1	6月13日(月)～ 6月14日(火)	統括DMAT研修	福岡県福岡市	厚生労働省	遠藤 豪一
2	7月9日(土)	福島県支部災害救護訓練	福島県支部	支部・病院・血液C	支部・病院・ 血液C職員
3	7月20日(水)～ 7月22日(金)	災害派遣医療チーム研修	福島県福島市	厚生労働省	(受講者) 山口 広夢 (タスク) 葛岡 大輔
4	7月23日(土)～ 7月24日(日)	日赤原子力災害対応基礎研修	福島赤十字病院	本社	(受講者) 阪本 貴之、 山口 広夢、 明田 充弘、 佐藤 隆昭、 (講師) 中村耕一郎、 海藤 隆紀 (スタッフ) 葛岡 大輔
5	8月7日(日)	原子力災害医療基礎研修	Web	福島赤十字病院	(講師) 中村耕一郎、 海藤 隆紀 (スタッフ) 葛岡 大輔
6	10月12日(水)～ 10月14日(金)	災害派遣医療チーム研修	東京都立川市	厚生労働省	酒井 亮
7	11月16日(水)～ 11月17日(木)	こころのケア指導者養成研修会	本社	本社	葛岡 大輔
8	11月21日(月)	自衛隊航空機実機研修	相馬原駐屯地	厚生労働省	葛岡 大輔
9	12月1日(木)	多数傷病者対応訓練	双葉郡富岡町	福島県、双葉消防	鳴瀬 悠、 奈良輪弘美、 山口 広夢、 吉田 憲治、 菊地 洋平
10	12月17日(土)	東北ブロックDMAT技能維持 研修	宮城県仙台市	厚生労働省	渡部 研一、 渡邊あゆみ、 鈴木 安英、 武田 良平、 橋本 健一、 野田 誠
11	令和5年 1月21日(土)～ 1月22日(日)	日赤災害医療コーディネート 研修会	本社	本社	遠藤 豪一
12	1月26日(木)	国民保護共同図上訓練	会津若松市	福島県	渡部 研一、 渡邊あゆみ、 鈴木 安英、 武田 良平、 橋本 健一、 野田 誠
13	2月19日(日)	都道府県災害医療コーディ ネーター研修	東京都	厚生労働省	市川 剛



3. 院友会

<概 要>

福島赤十字病院院友会は当院に勤務する職員及び常勤の嘱託・臨時職員を対象に、職員同士の親睦を図ることを目的としている。会長は院長、副会長は副院長、事務部長、看護部長が務め、監事は会長が任命する。その他役員は各部署から毎年1名ずつ選出され、年間を通して季節に応じたイベントを企画運営している。

イベントの他、院友会員の体育および文化サークルの活動を通して親睦と福利厚生を推進を図ることを目的に“体育・文化サークル活動助成金”を交付している。(助成金交付対象サークル：バレーボール部、フットサル部、バスケットボール部)

<令和4年度役員>

会 長 鈴木 恭一(院長)

副会長 大和田尊之(副院長)、出羽 明子(副院長)、野田 誠(事務部長)、鈴木 佳子(看護部長)

幹 事 浅間 宏之(医局)、近野 直人(3A)、渡邊 里菜(3B)、高橋 沙綾(4F)、
丹治 悠磨(5A)、佐藤亜梨沙(5B)、五十嵐恵子(6A)、阿部亜莉沙(6B)、
渡邊ちひろ(7F)、渡邊 政子(外来)、八巻 美沙(OP・中材)、古賀 彩織(薬剤部)、
安部みなみ(検査部)、玉根 勇樹(放射線)、相田 悦子(リハビリ)、
塩澤 将太(医療技術部)、渡邊 真衣(事務部)、佐藤 隆昭(事務部)

<令和4年度活動報告>

日時	内容	場所
6月21日(火)	1年目職員紹介動画掲載	システム掲示板
12月23日(金)	クリスマスカタログギフトを配布	—
その他のイベントについては、新型コロナウイルスの影響により中止		

<令和4年度決算報告>

収入の部	支出の部	翌年度繰越額
78円(預金利息のみ)	3,156,794円	6,366,290円

II

病院の概況

1. 病院の沿革

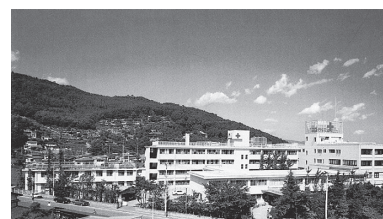
< 年 月 >	< 沿 革 >
昭和18年 8月	日本赤十字社福島支部福島療院として福島市舟場町に発足(病床数32床) 飯坂海軍病院の分院として診療が行われる <診療科目：内科、小児科、耳鼻咽喉科、理学診療科>
昭和19年 1月	20床増床(病床数52床)
4月	福島赤十字病院と改称
昭和25年10月	入院患者に対する完全給食を開始
昭和28年 2月	30床増床(病床数82床)
昭和30年 7月	20床増床(病床数102床)
昭和33年 6月	産婦人科部設置
10月	18床増床(病床数120床)
昭和34年 5月	整形外科部設置
12月	30床増床(病床数150床)
昭和37年 1月	皮膚科部、眼科部設置
2月	現在地(福島市入江町)へ新築移転 <鉄筋コンクリート造4階建、延床面積4,740㎡> (病床数200床／一般170床・結核30床) 入院患者に対する基準寝具開始
6月	秩父宮妃殿下御慰問
昭和38年 6月	総合病院の承認を受ける
9月	救急病院の指定を受ける
昭和39年 9月	福島市外3町村委託による伝染病棟50床併設(病床数250床)
昭和40年 7月	精神科・神経科部設置
昭和42年12月	東病棟増築、100床(精神)を増床(病床数350床)
昭和43年 4月	循環器科部、呼吸器科部設置
昭和44年 9月	精神病床100床のうち40床を一般病棟に変更
昭和52年 8月	エネルギーセンター棟を新設
昭和54年 5月	放射線科部設置
9月	胃腸科部、泌尿器科部設置
12月	新館棟を増築、50床増床(病床数400床)
昭和56年11月	脳神経外科部設置
昭和57年 4月	病院駐車場として国有地(福島大学跡地)を取得
昭和59年 3月	脳血管系疾患の収容病床として20床増床(病床数420床)
昭和60年 5月	麻酔科部設置
昭和61年 1月	外来診療会計コンピュータ稼働
昭和63年 7月	三笠宮寛仁親王妃殿下御慰問
平成元年 9月	病床23床増床(救急特例病床17床、CCU 6床) (病床数443床)
平成5年12月	心臓血管外科部設置
平成6年 2月	本館棟等増改築工事完了
6月	医事会計システム更新 富士通(株) HOPE/X
平成8年 4月	胃腸科部を消化器科部と名称変更
8月	結核病床30床を廃止(病床数413床)
11月	災害拠点病院の指定を受ける
平成10年10月	皇太子殿下並びに皇太子妃殿下御視察
12月	訪問看護ステーション設置
平成11年 3月	伝染病床50床を廃止(病床数363床)
4月	第二種感染症医療機関の指定を受ける(6床) (病床数369床／一般303床・精神60床・感染6床)
平成12年 4月	福島県精神科救急医療施設の指定を受ける 居宅介護支援事業所設置



昭和18年 8月 舟場町に開院



昭和37年 2月 入江町に新築移転



昭和56年11月 新館棟増築



平成6年 2月 本館棟増改築

< 年 月 >	< 沿 革 >
平成13年 4月	デイサービスセンター、在宅介護支援センター設置
9月	医事会計システム更新 富士通(株) HOPE/X-W V1
平成14年 7月	地域医療連携室開設
平成15年 4月	呼吸器外科部設置
平成16年 3月	臨床研修病院(協力型)の指定を受ける
6月	1号館、2号館3病棟改修工事完了
10月	臨床研修病院(管理型)の指定を受ける
平成18年 3月	病理検査室設置
	精神病床10床を減床(病床数359床/一般303床・精神50床・感染6床)
6月	医療安全推進室設置
平成19年 3月	病院機能評価Ver.4.0の認定を受ける
9月	医事会計システム更新 富士通(株) HOPE/X-W V4 オーダーリングシステム導入 富士通(株) EGMAIN-FX V2 導入オーダー：患者基本、処方、検体検査、入退院、病棟移動、給食、病名、診療予約、 検歴参照
平成20年 1月	教育研修推進室設置
4月	医療技術部設置
12月	血管造影撮影室増築
平成21年 3月	デイサービスセンター、在宅介護支援センター運営終了
4月	DPC(診断群分類別包括制度)対象病院の指定を受ける
平成22年 4月	糖尿病・代謝科部設置
平成23年 3月	東日本大震災発生 救護班延べ77個班を派遣
7月	平成23年7月新潟・福島豪雨発生 救護班1個班を派遣
9月	地域医療支援病院の認定を受ける
平成24年 3月	ホールボディカウンター及びホールボディカウンター室を設置
	病院機能評価Ver.6.0一般にて更新
4月	新病院建設準備室設置
	ホールボディカウンターによる内部被ばく検査を開始
平成25年 4月	神経内科部設置
5月	医療用画像管理システム(PACS)導入 追加オーダー：放射線
平成26年 7月	HCUを設置
9月	自動精算機／POSレジシステム導入 医事会計システム更新 富士通(株) HOPE/X-W V6 オーダーリングシステム更新 富士通(株) EGMAIN-GX V4 追加オーダー：細菌検査、生理検査、病理検査、内視鏡検査、注射(外来)、リハビリ
10月	診療科名称を変更(24科) 福島県認知症疾患医療センターの指定を受ける
平成27年 1月	循環器センター・末梢血管病センターを設置
3月	現病院土地との交換により新病院予定地(福島市八島町87番1・88番)取得
5月	名称から「総合病院」を削除
平成28年 4月	救急科部設置
	心療内科を廃止
	精神科病棟11床を減少(病床数348床/一般303床、精神39床、感染6床)
	熊本地震発生 救護班2個班、病院支援職員2個班、こころのケア班1個班を派遣
9月	福島赤十字病院 施設整備事業(移転新築工事)起工式
平成29年 4月	開設者を日本赤十字社福島県支部長から日本赤十字社社長に変更 原子力災害拠点病院の指定を受ける
7月	嚥下・ボイスセンター・鼻・副鼻腔センターを設置

< 年 月 >	< 沿 革 >
平成30年 6 月	病院機能評価 3rdG:Ver.1.1一般病院 2 の認定を受ける
7 月	外来診療電子カルテ運用開始
8 月	平成30年 7 月豪雨発生 こころのケア班 1 個班を派遣
9 月	平成30年北海道胆振東部地震発生 救護班 2 個班、こころのケア班 1 個班を派遣 福島赤十字病院 移転新築工事竣工式・定礎式
平成31年 1 月	新病院へ移転・開院(福島市八島町) <病院棟 鉄骨造地上 7 階建(免震構造)・塔屋 1 階、延床面積21,760.04㎡ 駐車場棟 鉄骨造地上 2 階(2 層 3 段)(耐震構造)延床面積3,092.40㎡> (病床数296床／一般280床・精神10床・感染症 6 床) 神経内科部を脳神経内科部と名称変更 血管外科・心臓外科を心臓血管外科と名称変更 入院診療電子カルテ運用開始
3 月	福島赤十字指定居宅介護支援事業所を廃止
平成31年/令和元年	
4 月	リウマチ膠原病内科を新設
7 月	新病院におけるドクターヘリの初受け入れ
9 月	台風19号による洪水被害への支援活動で DMAT(2 班)、救護班(16班)、 こころのケア班(5 班)を派遣
令和 2 年 2 月	クルーズ船(ダイヤモンド・プリンセス号)へDMAT: 2 班 救護班: 1 班を派遣
5 月	旧病院の解体工事完了
7 月	旧病院駐車場を福島市へ売却
11 月	初となるオンラインによる行幸啓を実施
令和 3 年 3 月	病院敷地内に原子力災害時拠点施設を新築
9 月	医事会計システム更新 富士通(株) HOPE/X-W V11 電子カルテシステム更新 富士通(株) EGMAIN-GX V8



平成31年 1 月 福島赤十字病院新築・移転

2. 病院概要

(令和4年3月31日現在)

(1) 施設の概要

名 称	福島赤十字病院 Japanese Red Cross Fukushima Hospital
所 在 地	〒960-8530 福島市八島町7番7号 7-7 Yasima-cho, Fukushima-city, Fukushima 960-8530 JAPAN TEL (024) 534-6101 (代表) FAX (024) 531-1721 http://www.fukushima-med-jrc.jp/
敷地面積	17,740.71㎡
延床面積	24,916.95㎡
開設年月日	昭和18年8月1日
開設者	日本赤十字社社長 大塚 義治
管理者	院長 鈴木 恭一
付帯設備	福島赤十字訪問看護ステーション Japanese Red Cross Fukushima Hospital Visiting-nurse station

(2) 診療科目 Medical Departments

内 科	糖尿病・代謝内科	呼吸器内科	循環器内科
Internal Medicine	Diabetes and Metabolism	Respiratory	Cardiology
消化器内科	精神科	小児科	外 科
Gastroenterology	Psychiatry	Pediatrics	General surgery
心臓血管外科	呼吸器外科	整形外科	脳神経外科
Cardiovascular surgery	Thoracic Surgery	Orthopaedic	Neurosurgery
皮膚科	形成外科	泌尿器科	産婦人科
Dermatology	Plastic and Reconstructive Surgery	Urology	Obstetrics and Gynecology
眼 科	耳鼻咽喉科	放射線科	麻酔科
Ophthalmology	Otolaryngology	Radiology	Anesthesiology
脳神経内科	リハビリテーション科	救急科	病理診断科
Neurology	Rehabilitation Medicine	Emergency Medicine	Diagnostic Pathology
リウマチ・膠原病内科			
Rheumatology			

(全25科)

(3) 病床数

	許可病床数	実働病床数
一 般 病 床	280床	276床
精 神 病 床	10床	10床
感 染 症 病 床	6床	6床
計	296床	292床

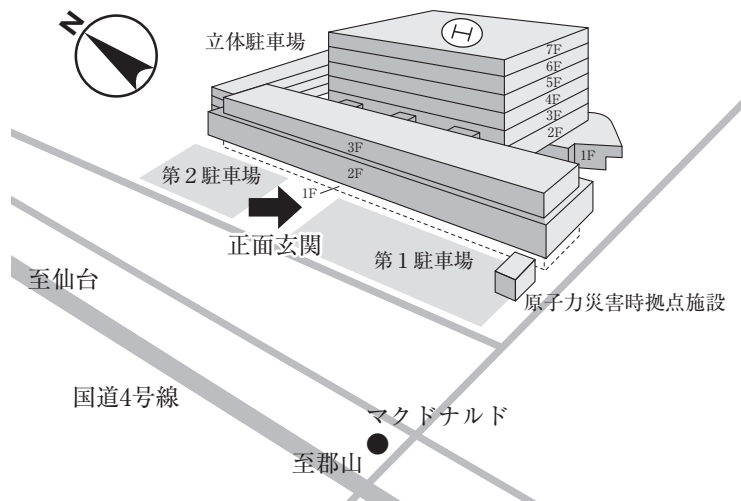
(内訳：実働病床数)

3 A病棟 20床(HCU 8床)	3 B病棟 34床	4 病棟 40床
5 A病棟 49床	5 B病棟 46床	6 A病棟 47床(感染症病床 6床)
6 B病棟 46床	7 病棟 10床	

(内訳：部屋別)

1 人部屋	2 人部屋	4 人部屋	計
66	3	55	124

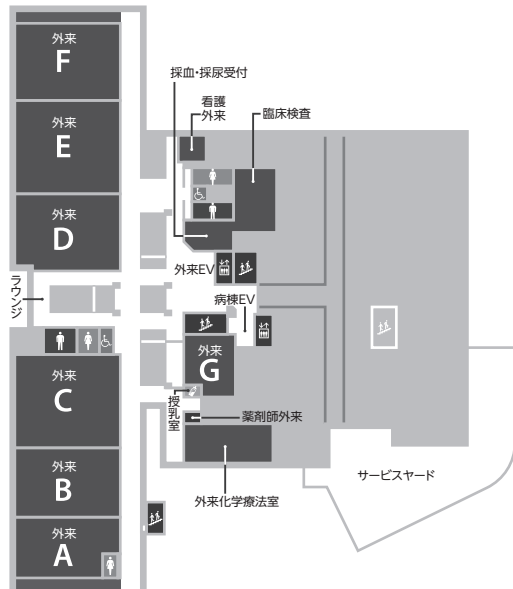
(4) 病院全体配置図



PH階	ヘリポート
7階	7病棟(精神科・10床)、総合リハビリテーション室
6階	6A病棟(47床(感染症6床)) 6B病棟(46床)
5階	5A病棟(49床) 5B病棟(脳卒中センター・46床)
4階	4病棟(レディースフロア・40床)、医局、事務・管理部門
3階	3A病棟(HCU12床、救急12床)、3B病棟(循環器センター・34床)、手術室、血管造影室・IVRセンター、中央材料室、病理検査室、MEセンター
2階	外来、看護外来、薬剤師外来、外来化学療法室、臨床検査、薬剤部、用度施設課、栄養課、霊安室
1階	総合案内、総合受付、再来受付、会計、FAXコーナー、ER(救急外来)、健診センター、医療福祉相談室、地域医療連携室、入退院支援センター、多目的ホール、売店・カフェ、放射線部、内視鏡センター、生理検査、防災センター

(5) 外来配置図

2階



1階



平成31年3月現在

(6)位置及び案内



(7) 機関指定

機関指定	
健康保険法指定医療機関	地域医療支援病院
臨床研修指定医療機関	国民健康保険法指定医療機関
生活保護法指定医療機関	結核予防法指定医療機関
更生医療指定医療機関 (整形外科・脳神経外科・耳鼻咽喉科)	身体障害者福祉法指定医療機関
原子爆弾被害者に対する指定医療機関	戦傷病者特別援護法指定医療機関
育成医療(児童福祉法)指定医療機関	養育医療(母子保健法)指定医療機関
地方公務員災害補償法指定医療機関	労働者災害補償保険法指定医療機関
救急告示病院	国家公務員災害補償法指定医療機関
災害拠点病院(地域災害医療センター)	第二次救急指定病院
原子力災害拠点病院	福島県特定不妊治療費助成事業指定医療機関
開放型病院	第二種感染症指定医療機関

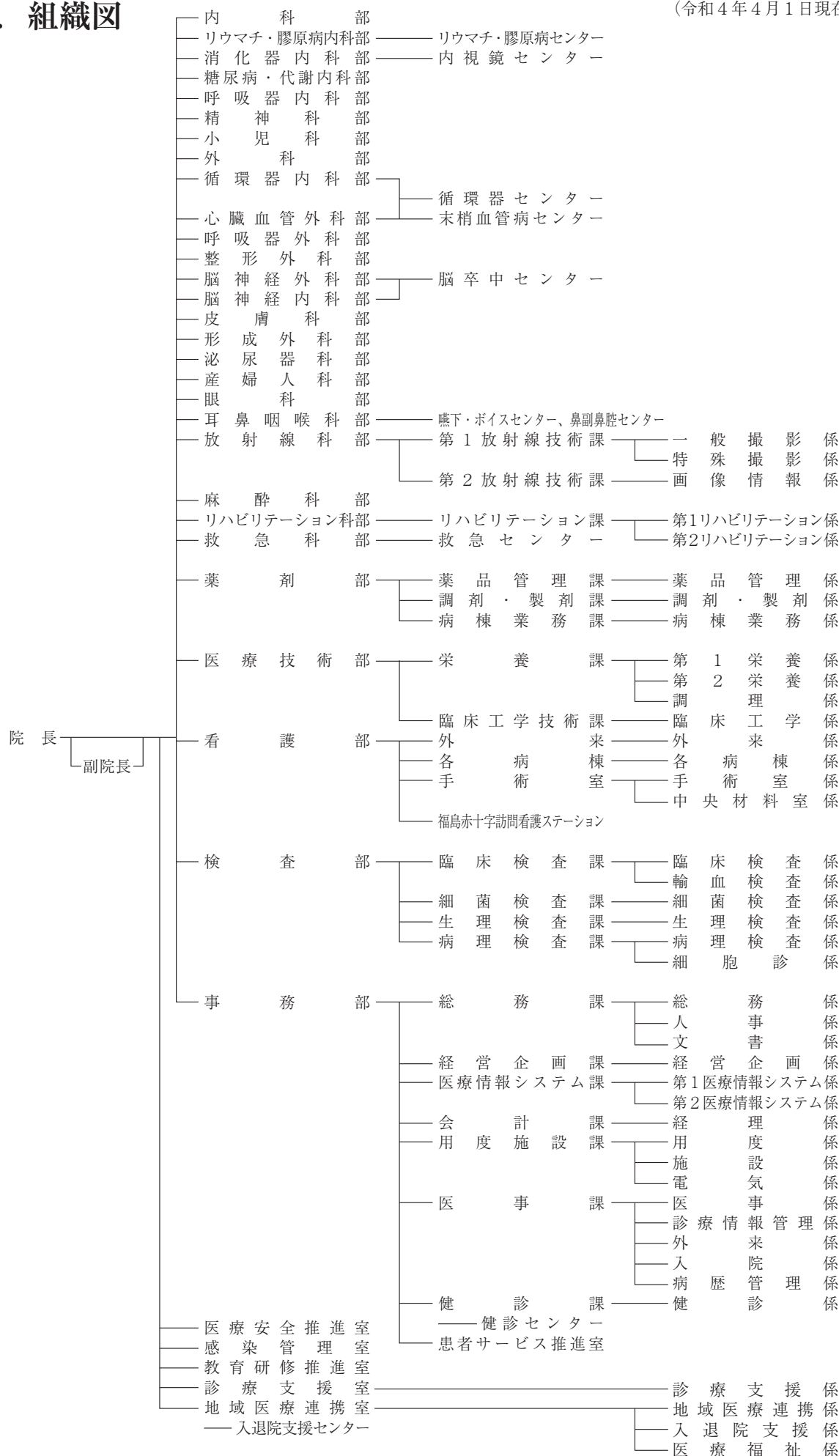
(8)施設基準の届出状況

基本診療料 特掲診療料 別	施設基準名	受理番号	算定開始 年月日
基本診療料	一般病棟入院基本料 7 対 1	(一般入院)第2317号	令和2年10月1日
	総合入院体制加算 3	(総合3)第10号	令和2年10月1日
	救急医療管理加算	(救急加算)第11号	令和2年4月1日
	超急性期脳卒中加算	(超急性期)第22号	令和2年4月1日
	診療録管理体制加算 1	(診療録1)第53号	平成31年1月1日
	医師事務作業補助体制加算 1 20対 1	(事補1)第142号	令和3年7月1日
	急性期看護補助体制加算 25対 1	(急性看護)第353号	令和2年5月1日
	看護職員夜間配置加算 1 16対 1	(看護夜配)第65号	令和3年4月1日
	重症者等療養環境特別加算	(重)第290号	平成31年1月1日
	緩和ケア診療加算	(緩和)第14号	令和3年12月1日
	栄養サポートチーム加算	(栄養チ)第79号	令和4年7月1日
	医療安全対策加算 1	(医療安全1)第195号	平成31年1月1日
	感染防止対策加算 1	(感染対策1)第106号	令和5年5月5月
	患者サポート体制充実加算	(患者サポ)第161号	平成31年1月1日
	重症患者初期支援充実加算	(重症初期)第2号	令和4年4月1日
	報告書管理体制加算	(報告管理)第1号	令和4年4月1日
	褥瘡ハイリスク患者ケア加算	(褥瘡ケア)第16号	平成31年1月1日
	ハイリスク妊娠管理加算	(ハイ妊娠)第100号	平成31年1月1日
	ハイリスク分娩管理加算	(ハイ分娩)第76号	平成31年1月1日
	地域連携分娩管理加算	(地域分娩)第1号	令和4年4月1日
	呼吸ケアチーム加算	(呼吸チ)第25号	平成31年1月1日
	後発医薬品使用体制加算 1	(後発使1)第37号	平成31年1月1日
	病棟薬剤業務実施加算 1	(病棟薬1)第35号	平成31年1月1日
	データ提出加算	(データ提)第117号	平成31年1月1日
	入退院支援加算	(入退支)第319号	令和2年7月1日
	認知症ケア加算	(認知)第106号	令和元年10月1日
	せん妄ハイリスク患者ケア加算	(せん妄ケア)第28号	令和2年8月1日
	地域医療体制確保加算	(地医確保)第1号	令和2年4月1日
	ハイケアユニット入院医療管理料 1	(ハイケア1)第13号	平成31年1月1日
特掲診療料	外来栄養食事指導料の注2	(外栄食指)第3号	令和2年4月1日
	心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタリング加算	(遠隔)第6号	令和2年4月1日
	がん性疼痛緩和指導管理料	(がん疼)第256号	平成31年1月1日
	がん患者指導管理料イ	(がん指イ)第114号	平成31年1月1日
	がん患者指導管理料ロ	(がん指ロ)第109号	平成31年1月1日
	がん患者指導管理料ハ	(がん指ハ)第24号	平成31年1月1日
	がん患者指導管理料ニ	(がん指ニ)第4号	令和2年7月1日
	外来緩和ケア管理料	(外緩和)第3号	令和3年10月1日
	乳腺炎重症化予防ケア・指導料	(乳腺ケア)第23号	平成31年1月1日
	婦人科特定疾患治療管理料	(婦特管)第42号	令和2年4月1日
	小児科外来診療料	(小外診)第138号	令和2年4月1日
	院内トリアージ実施料	(トリ)第55号	平成31年1月1日
	夜間休日救急搬送医学管理料の注3に掲げる救急搬送看護体制加算	(救搬看護)第38号	令和2年4月1日
	ニコチン依存症管理料	(ニコ)第804号	平成31年1月1日
	療養・就労両立支援指導料の注3に掲げる相談支援加算	(両立支援)第3号	令和2年12月1日
	開放型病院共同指導料	(開)第51号	平成31年1月1日
	肝炎インターフェロン治療計画料	(肝炎)第35号	平成31年1月1日
	ハイリスク妊産婦連携指導料 1	(ハイ妊連1)第11号	平成31年1月1日
	ハイリスク妊産婦連携指導料 2	(ハイ妊連2)第6号	平成31年1月1日
	薬剤管理指導料	(薬)第287号	平成31年1月1日
	検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料	(電情)第85号	平成31年1月1日
	持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定	(持血測1)第37号	令和元年8月1日
	在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注2に掲げる遠隔モニタリング加算	(遠隔持陽)第26号	令和2年8月1日
	医療機器安全管理料 1	(機安1)第98号	平成31年1月1日

基本診療料 特掲診療料 別	施設基準名	受理番号	算定開始 年月日
特掲診療料	HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	(HPV)第152号	平成31年1月1日
	検体検査管理加算(Ⅱ)	(検Ⅱ)第81号	平成31年1月1日
	時間内歩行試験及びシヤトルウォーキングテスト	(歩行)第34号	平成31年1月1日
	ヘッドアップテイルト試験	(ヘッド)第25号	平成31年1月1日
	神経学的検査	(神経)第66号	平成31年1月1日
	コンタクトレンズ検査料	(コン1)第377号	平成31年1月1日
	小児食物アレルギー負荷検査	(小検)第32号	平成31年1月1日
	画像診断管理加算1	(画1)第46号	平成31年1月1日
	CT撮影及びMRI撮影	(C・M)第499号	平成31年1月1日
	冠動脈CT撮影加算	(冠動C)第27号	平成31年1月1日
	心臓MRI撮影加算	(心臓M)第23号	平成31年1月1日
	BRCA 1/2 遺伝子検査	(BRCA)第23号	令和3年4月1日
	在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料の注2	(在看)第30号	令和2年12月1日
	抗悪性腫瘍剤処方管理加算	(抗悪処方)第42号	平成31年1月1日
	外来化学療法加算1	(外化1)第146号	平成31年1月1日
	連携充実加算	(外化連)第4号	令和2年4月1日
	無菌製剤処理料	(菌)第146号	平成31年1月1日
	心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)	(心Ⅰ)第67号	令和元年10月1日
	脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)	(脳Ⅰ)第364号	平成31年1月1日
	運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	(運Ⅰ)第450号	平成31年1月1日
	呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	(呼Ⅰ)第361号	平成31年1月1日
	がん患者リハビリテーション料	(がんリハ)第140号	平成31年1月1日
	レーザー機器加算	(手光機)第235号	平成31年1月1日
	喉頭形成手術(甲状軟骨固定器具を用いたもの)	(喉頭形成)第2号	令和2年11月1日
	乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)	(乳セ1)第39号	平成31年1月1日
	乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)	(乳セ2)第41号	平成31年1月1日
	経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	(経特)第23号	令和2年4月1日
	経皮的中隔心筋焼灼術	(経中)第19号	平成31年1月1日
	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	(ペ)第183号	平成31年1月1日
	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)	(ペリ)第11号	平成31年1月1日
	大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	(大)第97号	平成31年1月1日
	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	(早大腸)第30号	平成31年1月1日
	腹腔鏡下仙骨腫固定術	(腹仙骨固)第7号	平成31年1月1日
	医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術	(胃瘻造)第84号	平成31年1月1日
	輸血管理料Ⅱ	(輸血Ⅱ)第94号	平成31年1月1日
	輸血適正使用加算	(輸適)第78号	平成31年1月1日
	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	(造設前)第75号	平成31年1月1日
	胃瘻造設時嚥下機能評価加算	(胃瘻造嚥)第57号	平成31年1月1日
	麻酔管理料(Ⅰ)	(麻管Ⅰ)第191号	平成31年1月1日
	保険医療機関間の連携による病理診断	(連携診)第15号	令和元年6月1日
	保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製	(連組織)第6号	令和元年6月1日
	病理診断管理加算1	(病理診1)第20号	平成31年1月1日
	悪性腫瘍病理組織標本加算	(悪病組)第14号	平成31年1月1日
	二次性骨折予防継続管理料1	(二骨管1)第15号	令和4年6月1日
	二次性骨折予防継続管理料3	(二骨継3)第21号	令和4年6月1日
	下肢創傷処置管理料	(下創管)第2号	令和4年9月1日
	外来腫瘍化学療法診療料1	(外来診1)第17号	令和4年4月1日
	前立腺針生検法(MRI撮影及び超音波検査融合画像によるもの)	(前立腺)第4号	令和4年9月1日
	内喉頭筋内注入術(ボツリヌス毒素によるもの)	(内筋ボ)第1号	令和4年5月1日
	入院時食事療養費/生活療養(Ⅰ)	(食)第1020号	平成31年1月1日
	酸素の購入単価	(酸素)第13568号	令和3年4月1日 (毎年届出)

3. 組織図

(令和4年4月1日現在)



4. 職員数

(令和5年3月31日現在)

(1) 病院

(単位：人)

	常勤職員	非常勤職員	実人員計	換算人員計
医 師	53	38	91	60.9
研 修 医	16		16	16.0
薬 剤 師	16	1	17	16.2
診療放射線技師	15		15	15.0
臨床検査技師	22	2	24	22.7
臨床工学技士	7		7	7.0
管理栄養士	5		5	6.0
栄 養 士	7		7	6.0
理学療法士	12		12	13.0
作業療法士	4		4	4.0
言語聴覚士	4		4	4.0
視能訓練士	4		4	4.0
臨床心理士	1		1	1.0
社会福祉士	5		5	6.0
精神保健福祉士	1		1	1.0
保 健 師	6		6	6.0
助 産 師	18		18	18.0
看 護 師	262	14	276	271.2
准 看 護 師	3	2	5	4.1
事務職員	63	1	64	63.8
技 術 員	1		1	1.0
調 理 師	5		5	5.0
ボイラー技士等	0		0	0.0
看護助手	27	2	29	28.3
放射線助手		1	1	0.6
業 務 員	6		6	6.0
小 計	563	61	624	586.8

(2) 付帯事業

(単位：人)

	常勤職員	非常勤職員	実人員計	換算人員計
訪問看護ステーション職員	5		5	5.0
計	5	0	5	5.0

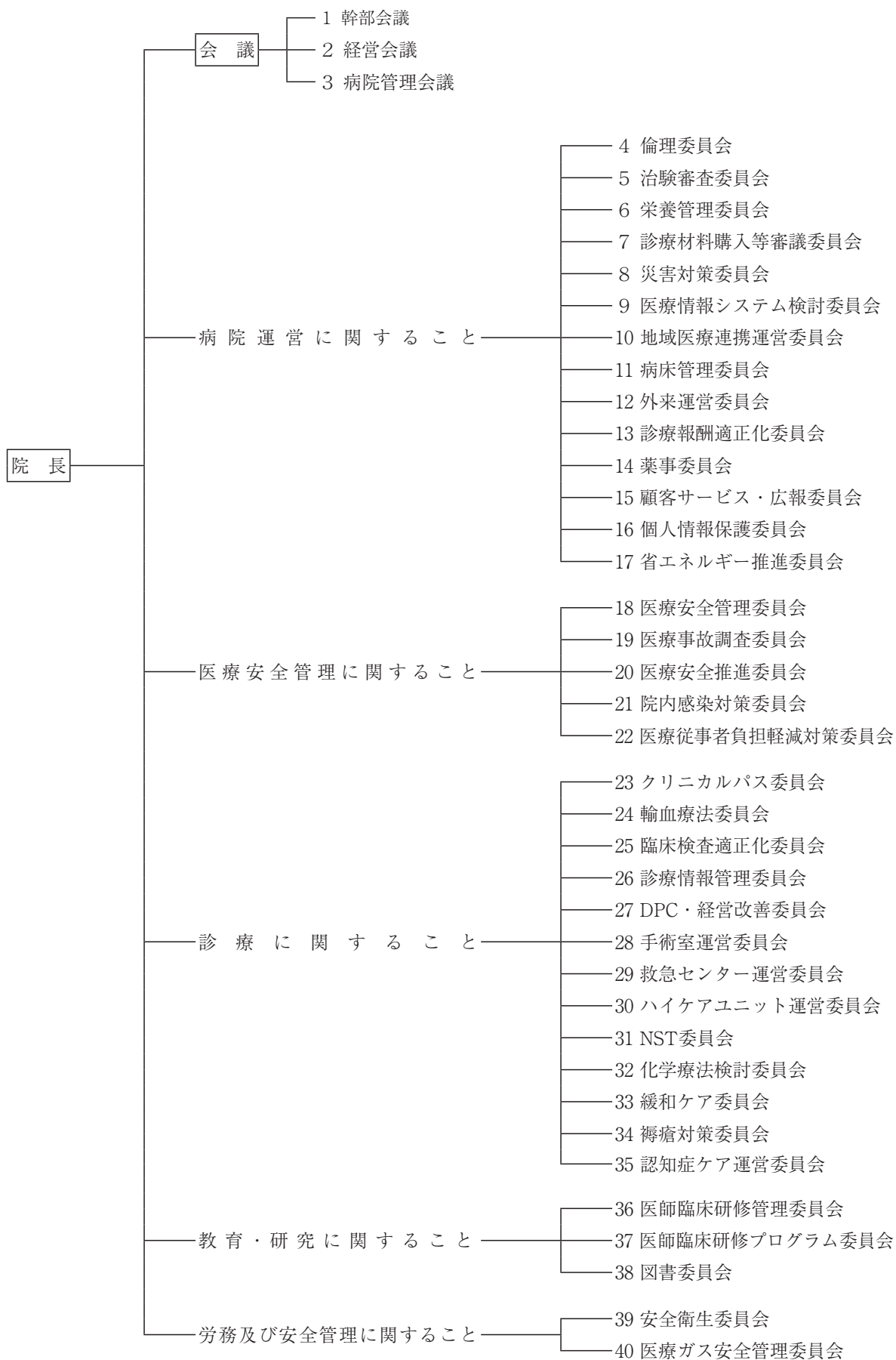
(3) 合計

(単位：人)

	常勤職員	非常勤職員	実人員計	換算人員計
(1) + (2)	568	61	629	608.9

5. 福島赤十字病院会議及び委員会

令和5年1月1日現在



6. 救護班名簿

(令和4年12月1日現在)

(1) 常備救護班

	第1救護班	所属	第2救護班	所属	第3救護班	所属	第4救護班	所属
医 師	菅野有紀子	医局 (消化器内科部長)	浅間 宏之	医局 (消化器内科部)	阪本 貴之	医局 (循環器内科部)	大須賀文彦	医局 (外科部)
看 護 師 長	武井 明美	5 A病棟	武田 里美	3 B病棟	安達 明美	7 病棟	小林 洋子	外来
看 護 師	三浦 愛	6 A病棟	今野 暁子	6 B病棟	成尾ありさ	外来	齋藤 幸恵	4 病棟
	渡邊 義文	5 B病棟	斎藤 駿	手術室	山口 広夢	3 A病棟	國分 朋子	5 B病棟
主 事	菅野 正幸	総務課	池田 久光	用度施設課	菊田 基晴	医事課	金原 昭世	医事課
	幕田 高平	検査部	佐藤 勝行	放射線科	佐藤 藍里	リハビリテーション科	村上 風太	臨床工学技術課

	第5救護班	所属	第6救護班	所属	第7救護班	所属	第8救護班	所属
医 師	井上 卓哉	医局 (呼吸器外科部)	佐藤 法義	医局 (整形外科部)	大原 美希	医局 (産婦人科部)	多田 靖宏	医局 (耳鼻咽喉科部)
看 護 師 長	菅野いずみ	6 B病棟	泉 弘子	手術室	鈴木 牧子	6 A病棟	柳田 美穂	4 病棟
看 護 師	清和 彩子	6 A病棟	佐藤 裕子	7 病棟	萩原 暁美	外来	本田 祐子	手術室
	野坂 雄史	5 A病棟	武田 良平	3 B病棟	長沢 恵	5 B病棟	田島 一樹	3 B病棟
主 事	菅野 直樹	地域医療連携室	奈良輪大輔	医療情報システム課	山名慎一郎	会計課	佐藤 隆昭	医療情報システム課
	三浦 義喜	検査部	明田 充弘	放射線科	橋本 楓	リハビリテーション科	小河原貴之	栄養課

薬 剤 師	市橋 淳	緑上 淳一	渡部 寿康	川村 早苗	酒井 亮	佐藤 南	井上可奈子	大竹麻衣子
	寺内優紀恵	菊池 洋平	古賀 彩織	安齋 英里	佐藤 綾香	武藤 芳和	黒田 彩佳	矢葺 優佳
	猪股 育美							

助 産 師	赤井みゆき	橘 智寿子	齋藤 幸恵	金成 美和
-------	-------	-------	-------	-------

こころのケア 指 導 者	岩崎 陸子	看護部	武田 里美	3 B病棟	柳田 美穂	4 病棟	佐藤 裕子	7 病棟
	高根 晴美	地域医療連携室	菅野 直樹	地域医療連携室	葛岡 大輔	総務課		

(2) 統括DMAT(1人)

職種	氏名	所属	登録日	有効期限
医 師	遠藤 豪一	外科	2011.07.14	2027.03

(3) 日本DMAT隊員(24人)

職種	氏名	所属	登録日	有効期限
医 師	市川 剛	脳神経外科	2010.12.09	2026.03
	渡部 研一	循環器内科	2014.02.06	2024.03
	中村耕一郎	脳神経内科	2016.01.28	2026.03
看 護 師	奈良輪弘美	看護部	2009.09.17	2025.03
	泉 弘子	手術室	2011.07.14	2027.03
	原田 瑞穂	3 A病棟(HCU)	2011.07.14	2027.03
	渡邊あゆみ	外来(ER)	2014.02.06	2024.03
	鈴木 安英	3 A病棟(HCU)	2014.02.06	2024.03
	金成 美和	4 病棟	2015.01.16	2025.03
	萩原 暁美	外来	2016.01.28	2026.03
	梅宮 誠	手術室	2016.01.28	2026.03
	吉野公弥子	3 A病棟(HCU)	2016.01.28	2026.03
	武田 良平	3 B病棟	2019.02.28	2024.03
	田島 一樹	3 B病棟	2019.09.27	2025.03
	鈴木 直人	手術室	2019.09.27	2025.03
業務調整員	山口 広夢	3 A病棟(HCU)	2022.07.23	2027.03
	渡部 寿康	薬剤部	2009.09.17	2025.03
	久保 芳宏	支部事業推進課	2011.07.14	2027.03
	橋本 健一	臨床工学技術課	2014.02.06	2024.03
	野田 誠	事務部	2014.02.06	2024.03
	野地 幸次	用度施設課	2016.01.28	2026.03
	葛岡 大輔	総務課	2016.01.28	2026.03
	野崎 謙司	支部事業推進課	2019.09.27	2025.03
	松本 琢也	支部総務課	2020.01.11	2025.03

(4) 福島県DMAT隊員(7人)

職種	氏名	所属	受講年月	備考
看護師	朝倉 恵実	5 B 病棟	2014.08.03	
	北村 慶	3 A 病棟(HCU)	2019.12.01	
業務調整員	三浦 有樹	医事課	2017.10.14	
	酒井 亮	薬剤部	2019.12.01	
	山名慎一郎	会計課	2019.12.01	
	佐藤 隆昭	医療情報システム課	2019.12.01	
	渡辺 源貴	血液センター総務課	2019.12.01	

(5) 福島県災害医療コーディネーター(1人)

職種	氏名	所属	任命日	任期
事務職	久保 芳宏	支部事業推進課	2017.03.23	2021.03.22(再任予定)

(6) 日赤原子力災害医療アドバイザー(2人)

職種	氏名	所属	任命日	任期
医師	中村耕一郎	脳神経内科	2019.04.01	2023.03.31
診療放射線技師	海藤 隆紀	放射線科部	2015.10.01	2023.03.31

(7) 日赤災害医療コーディネーター(4人)

職種	氏名	所属	任命日	任期
医師	遠藤 豪一	外科	2017.04.01	2023.03.31
	渡部 研一	循環器内科	2018.04.01	2022.03.31(再任予定)
	市川 剛	脳神経外科	2018.04.01	2022.03.31(再任予定)
	中村耕一郎	脳神経内科	2020.04.01	2022.03.31(再任予定)

(8) 日赤災害医療コーディネートスタッフ(13人)

職種	氏名	所属	任命日	任期
看護師	安達 明美	7 病棟	2018.04.01	2022.03.31(再任予定)
	渡邊あゆみ	外来(ER)	2018.04.01	2022.03.31(再任予定)
	奈良輪弘美	看護部	2020.04.01	2022.03.31(再任予定)
	鈴木 安英	3 A 病棟	2020.04.01	2022.03.31(再任予定)
	泉 弘子	手術室	2021.04.01	2023.03.31
	武田 里美	3 B 病棟	2021.04.01	2023.03.31
事務職	久保 芳宏	支部事業推進課	2013.10.01	2022.03.31(再任予定)
	野田 誠	総務課	2017.04.01	2023.03.31
	渡部 寿康	薬剤部	2020.04.01	2022.03.31(再任予定)
	野地 幸次	用度施設課	2020.04.01	2022.03.31(再任予定)
	松本 琢也	支部総務課	2020.04.01	2022.03.31(再任予定)
	野崎 謙司	支部事業推進課	2020.04.01	2022.03.31(再任予定)
	葛岡 大輔	総務課	2021.04.01	2023.03.31

(9) 原子力災害医療派遣チーム研修修了者(13人)

職種	氏名	所属	修了日	備考
医師	市川 剛	脳神経外科部	2018.10.29	
	中村耕一郎	脳神経内科部	2020.02.24	
看護師	齋藤 幸恵	4 病棟	2018.10.29	
	志賀 慶子	手術室	2018.10.29	
	清和 彩子	6 A 病棟	2021.12.12	
	岩崎 睦子	支部事業推進課	2021.12.12	
診療放射線技師	玉根 勇樹	放射線科部	2018.10.29	
	海藤 隆紀	放射線科部	2020.02.24	

職種	氏名	所属	修了日	備考
診療放射線技師	明田 充弘	放射線科部	2020.11.23	
薬剤師	酒井 亮	薬剤部	2020.02.24	
事務職	渡辺 源貴	血液センター総務課	2018.10.29	
	山名慎一郎	会計課	2020.02.24	
	葛岡 大輔	総務課	2020.11.23	

(10) 原子力災害時医療中核人材研修修了者(12人)

職種	氏名	所属	修了日	備考
医師	中村耕一郎	脳神経内科部	2017.11.10	
看護師	成澤 裕美	支部事業推進課	2016.01.15	
	小林 洋子	外来	2017.01.20	
	岩崎 睦子	支部事業推進課	2017.07.28	
	鈴木 牧子	6 A 病棟	2018.08.03	
	黒沢真由美	訪問看護ステーション	2018.08.03	
	柳田 美穂	4 病棟	2019.08.02	
	清和 彩子	6 A 病棟	2019.08.02	
診療放射線技師	海藤 隆紀	放射線科部	2017.07.28	
	玉根 勇樹	放射線科部	2019.08.02	
	明田 充弘	放射線科部	2020.10.09	
事務職	葛岡 大輔	総務課	2021.08.25	

III

統計

1. 令和4年度実績表

単位：人(患者延数、1日平均)、日(在院日数)、千円(診療稼働額)、円(診療単価)

	入 院			外 来			合 計
	患者延数	1日平均	在院日数	診療稼働額	診療単価	診療稼働額合計	
内 科	141	0.4	22.5	5,239	37,158	62,078	67,317
リウマチ・膠原病内科	2,980	8.2	16.6	154,034	51,689	131,647	285,681
消化器内科	15,709	43.0	10.4	865,729	55,110	386,683	1,252,412
糖尿病・代謝内科	1,444	4.0	14.8	61,176	42,365	86,149	147,325
小 児 科	164	0.4	3.9	8,127	49,554	39,040	47,167
外 科	8,023	22.0	15.3	511,416	63,744	158,176	669,592
整形外科	15,007	41.1	20.8	941,595	62,744	74,222	1,015,817
脳神経外科	6,991	19.2	12.3	502,091	71,820	73,688	575,779
皮膚科	95	0.3	12.4	3,758	39,561	24,571	28,329
泌尿器科	1,266	3.5	4.9	75,092	59,315	54,542	129,634
産婦人科	5,193	14.2	6.3	421,465	81,160	108,931	530,395
眼 科	1,391	3.8	1.1	136,131	97,865	59,181	195,311
耳鼻咽喉科	1,434	3.9	5.0	101,363	70,685	39,990	141,353
麻酔科	12	0.0	2.0	1,068	89,013	2,058	3,126
精神科	530	1.5	23.5	13,773	25,988	36,259	50,032
心臓血管外科	1,208	3.3	10.6	153,590	127,144	19,654	173,243
循環器内科	11,599	31.8	13.9	769,436	66,336	161,857	931,293
形成外科	150	0.4	9.4	10,693	71,285	37,718	48,411
脳神経内科	4,586	12.6	17.0	232,231	50,639	56,430	288,661
放射線科	0	0.0	0.0	0	0	591	591
呼吸器外科	4,514	12.4	13.9	350,762	77,705	221,646	572,408
救急科	0	0.0	0.0	0	0	12,543	12,543
合 計	82,437	225.9	11.3	5,318,769	64,519	1,847,652	7,166,421

2. 入院 診療科別・月別 患者数、稼働額、単価

(1) 入院患者数

(単位：人)

	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内 科	141	0	21	33	29	0	0	14	30	14	0	0	0
リウマチ・膠原病内科	2,980	159	294	242	243	206	248	258	299	311	267	210	243
消化器内科	15,709	1,212	1,152	1,156	1,412	1,326	1,273	1,341	1,265	1,313	1,413	1,275	1,571
糖尿病・代謝内科	1,444	139	103	103	118	94	132	161	142	78	142	146	86
小児科	164	4	6	22	19	16	17	8	16	15	14	3	24
外科	8,023	751	636	526	692	601	649	506	567	908	816	596	775
整形外科	15,007	1,417	1,192	1,260	1,180	1,043	1,109	1,178	1,322	1,494	1,211	1,285	1,316
脳神経外科	6,991	659	743	629	552	581	348	441	631	655	567	547	638
皮膚科	95	4	8	28	6	0	2	0	30	17	0	0	0
泌尿器科	1,266	93	103	102	124	82	102	87	55	125	150	117	126
産婦人科	5,193	425	455	526	551	414	351	419	466	350	396	366	474
眼科	1,391	135	102	128	123	67	128	131	127	118	92	118	122
耳鼻咽喉科	1,434	135	110	100	127	168	99	144	125	102	100	98	126
麻酔科	12	6	0	2	0	0	2	0	2	0	0	0	0
精神科	530	119	71	146	137	57	0	0	0	0	0	0	0
心臓血管外科	1,208	104	91	111	105	100	100	117	70	127	96	105	82
循環器内科	11,599	1,041	1,127	955	1,063	659	970	1,053	1,099	861	938	886	947
形成外科	150	12	6	11	54	2	17	6	0	3	0	6	33
脳神経内科	4,586	348	391	383	477	396	390	388	343	424	432	322	292
放射線科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
呼吸器外科	4,514	393	400	404	475	371	257	325	323	352	388	376	450
救急科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	82,437	7,156	7,011	6,867	7,487	6,183	6,194	6,577	6,912	7,267	7,022	6,456	7,305
1日平均	225.9	238.5	226.2	228.9	241.5	199.5	206.5	212.2	230.4	234.4	226.5	230.6	235.6

(2) 入院稼働額

(単位：千円)

	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内科	5,239	0	786	1,462	1,092	0	0	476	844	578	0	0	0
リウマチ・膠原病内科	154,034	7,612	16,642	12,069	11,336	8,955	12,787	13,556	14,211	18,496	14,134	11,104	13,133
消化器内科	865,729	66,994	60,392	63,705	76,261	73,046	67,832	74,489	72,816	72,841	81,886	70,764	84,702
糖尿病・代謝内科	61,176	5,095	4,344	4,098	4,669	4,047	5,503	7,355	6,994	3,740	6,008	5,740	3,583
小児科	8,127	186	255	1,073	964	736	885	303	642	751	779	174	1,377
外科	511,416	48,272	36,957	33,471	41,525	37,812	38,927	32,041	39,735	62,373	49,252	41,052	49,998
整形外科	941,595	84,972	72,182	83,097	76,783	57,588	69,843	73,821	85,370	92,739	82,718	81,717	80,765
脳神経外科	502,091	44,842	49,580	44,754	51,463	38,365	23,456	32,069	44,257	46,945	33,950	40,664	51,746
皮膚科	3,758	146	346	1,138	253	0	120	0	1,240	515	0	0	0
泌尿器科	75,092	5,026	5,562	5,359	5,020	4,698	5,725	5,564	4,994	7,519	8,524	8,678	8,424
産婦人科	421,465	34,171	33,293	39,592	38,852	35,866	29,979	32,469	38,097	28,224	35,339	32,279	43,304
眼科	136,131	13,000	10,038	12,701	11,734	6,865	12,461	12,932	12,844	10,995	8,813	11,607	12,140
耳鼻咽喉科	101,363	8,251	6,841	7,824	9,904	9,681	7,975	11,627	9,133	9,016	6,679	6,123	8,308
麻酔科	1,068	382	0	221	0	0	228	0	237	0	0	0	0
精神科	13,773	3,007	2,090	3,903	3,358	1,417	0	0	0	0	0	0	0
心臓血管外科	153,590	17,493	10,895	13,711	12,703	9,906	11,544	10,567	9,662	19,034	12,829	14,330	10,916
循環器内科	769,436	62,964	71,892	69,180	61,464	40,745	77,001	69,948	67,152	57,601	64,060	59,868	67,559
形成外科	10,693	1,541	404	965	2,806	62	1,332	557	0	226	0	315	2,485
脳神経内科	232,231	16,718	17,905	19,409	23,828	18,181	18,397	21,174	18,306	23,484	23,446	16,565	14,817
呼吸器外科	350,762	30,495	27,399	28,685	34,540	29,866	23,909	29,912	25,648	27,606	28,193	30,689	33,820
合計	5,318,769	451,170	427,804	446,417	468,553	377,837	407,905	428,860	452,183	482,684	456,611	431,669	487,077

(3)入院単価

(単位：円)

	平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内 科	37,158	-	37,444	44,309	37,657	-	-	34,021	28,144	41,292	-	-	-
リウマチ・膠原病内科	51,689	47,876	56,607	49,870	46,651	43,469	51,561	52,542	47,528	59,474	52,936	52,875	54,044
消化器内科	55,110	55,276	52,424	55,108	54,009	55,088	53,285	55,547	57,562	55,477	57,952	55,501	53,916
糖尿病・代謝内科	42,365	36,654	42,177	39,784	39,564	43,052	41,693	45,685	49,254	47,949	42,307	39,313	41,666
小 児 科	49,554	46,610	42,535	48,792	50,714	46,017	52,086	37,819	40,131	50,089	55,665	58,063	57,373
外 科	63,744	64,278	58,109	63,632	60,007	62,916	59,981	63,322	70,079	68,693	60,358	68,879	64,513
整 形 外 科	62,744	59,966	60,555	65,950	65,070	55,214	62,979	62,666	64,576	62,074	68,306	63,593	61,372
脳神経外科	71,820	68,046	66,729	71,151	93,230	66,032	67,403	72,718	70,138	71,671	59,877	74,340	81,106
皮 膚 科	39,561	36,578	43,213	40,648	42,140	-	59,785	-	41,348	30,310	-	-	-
泌 尿 器 科	59,315	54,044	53,999	52,538	40,484	57,298	56,125	63,952	90,794	60,149	56,825	74,171	66,861
産 婦 人 科	81,160	80,403	73,172	75,270	70,511	86,632	85,409	77,492	81,753	80,641	89,241	88,194	91,359
眼 科	97,865	96,293	98,415	99,224	95,398	102,465	97,355	98,714	101,137	93,182	95,797	98,368	99,506
耳鼻咽喉科	70,685	61,120	62,189	78,241	77,984	57,626	80,554	80,745	73,066	88,391	66,791	62,477	65,938
麻 酔 科	89,013	63,715	-	110,585	-	-	113,925	-	118,425	-	-	-	-
精 神 科	25,988	25,265	29,432	26,732	24,509	24,851	-	-	-	-	-	-	-
心臓血管外科	127,144	168,202	119,727	123,526	120,979	99,059	115,436	90,317	138,028	149,875	133,635	136,474	133,122
循環器内科	66,336	60,484	63,791	72,440	57,822	61,829	79,383	66,428	61,103	66,900	68,294	67,572	71,340
形 成 外 科	71,285	128,458	67,353	87,722	51,957	31,103	78,327	92,878	-	75,340	-	52,496	75,289
脳神経内科	50,639	48,041	45,793	50,676	49,953	45,913	47,172	54,572	53,371	55,387	54,274	51,445	50,744
呼吸器外科	77,705	77,596	68,498	71,002	72,716	80,502	93,030	92,036	79,407	78,425	72,663	81,619	75,155
全 体 平 均	64,519	63,048	61,019	65,009	62,582	61,109	65,855	65,206	65,420	66,421	65,026	66,863	66,677

3. 外来 診療科患別・月別 患者数、稼働額、単価

(1) 外来患者数

(単位：人)

	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内 科	4,868	432	362	406	399	397	417	358	431	390	438	388	450
リウマチ・膠原病内科	6,293	472	552	458	551	544	562	457	588	542	522	467	578
消化器内科	16,843	1,363	1,238	1,413	1,340	1,458	1,406	1,474	1,475	1,492	1,379	1,311	1,494
糖尿病・代謝内科	9,445	780	765	813	695	887	810	779	815	776	796	712	817
小 児 科	3,375	225	245	261	277	345	271	295	298	339	260	254	305
外 科	7,118	558	595	618	564	573	612	670	633	578	577	550	590
整形外科	11,210	979	973	1,029	941	922	982	974	894	948	816	749	1,003
脳神経外科	5,611	506	517	526	492	520	529	476	453	451	355	336	450
皮膚科	4,505	387	386	349	392	401	403	372	397	371	358	315	374
泌尿器科	4,890	396	350	397	362	348	390	422	381	417	465	449	513
産婦人科	10,666	915	885	975	928	889	873	904	853	896	807	820	921
眼 科	7,638	650	620	685	646	498	684	709	626	650	600	565	705
耳鼻咽喉科	4,212	359	343	423	391	336	329	357	322	310	347	313	382
麻酔科	917	66	63	75	68	67	79	85	86	77	77	81	93
精神科	6,869	684	669	702	664	762	681	643	574	473	365	330	322
心臓血管外科	2,152	167	153	196	197	155	212	169	191	189	154	164	205
循環器内科	15,914	1,365	1,292	1,320	1,298	1,374	1,362	1,356	1,333	1,363	1,241	1,222	1,388
形成外科	2,790	211	240	258	227	211	233	244	228	220	212	233	273
脳神経内科	6,387	561	499	578	518	539	561	536	537	530	490	470	568
放射線科	16	2	0	1	1	2	0	0	0	1	5	1	3
呼吸器外科	6,241	460	683	509	498	530	541	522	644	546	412	430	466
救急科	418	22	12	37	49	56	36	39	48	39	38	19	23
合 計	138,378	11,560	11,442	12,029	11,498	11,814	11,973	11,841	11,807	11,598	10,714	10,179	11,923
1 日 平 均	571.8	550.5	673.1	546.8	547.5	590.7	598.7	538.2	621.4	579.9	563.9	565.5	518.4

(2) 外来稼働額

(単位：千円)

	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内科	62,078	6,231	4,418	4,968	5,012	5,078	4,934	4,703	5,505	4,552	5,901	4,733	6,043
リウマチ・膠原病内科	131,647	10,711	11,347	9,449	11,528	10,467	11,762	10,160	11,800	11,895	10,301	10,399	11,827
消化器内科	386,683	31,049	31,354	36,658	32,817	35,428	31,454	28,501	35,289	31,428	29,784	30,664	32,256
糖尿病・代謝内科	86,149	7,285	7,225	7,425	6,427	7,154	7,348	7,102	7,460	7,363	7,329	6,617	7,414
小児科	39,040	2,758	3,018	2,861	3,425	4,125	3,346	3,134	3,563	3,661	3,086	3,038	3,026
外科	158,176	13,032	14,025	12,054	14,273	13,252	13,159	13,982	12,748	12,255	13,538	13,026	12,831
整形外科	74,222	5,856	6,851	5,877	6,041	5,362	6,797	6,635	6,619	6,634	6,054	4,811	6,686
脳神経外科	73,688	6,995	6,573	7,095	5,986	6,541	6,410	6,266	6,747	5,976	4,462	4,172	6,464
皮膚科	24,571	1,738	1,597	1,874	1,754	2,075	2,465	2,226	1,653	2,015	2,702	1,870	2,604
泌尿器科	54,542	4,511	4,135	4,206	3,862	3,881	3,587	4,900	4,416	4,881	5,701	4,657	5,806
産婦人科	108,931	8,453	7,903	9,068	9,112	9,584	8,869	9,292	9,623	9,840	8,960	8,430	9,797
眼科	59,181	4,723	5,148	5,180	5,288	3,692	4,861	5,284	5,398	4,962	4,639	4,718	5,286
耳鼻咽喉科	39,990	3,399	3,388	4,011	3,648	2,900	3,179	3,310	3,082	3,007	3,304	3,135	3,627
麻酔科	2,058	123	124	174	186	136	184	188	185	186	172	178	223
精神科	36,259	3,613	3,584	3,990	3,661	3,635	3,429	3,114	3,169	2,655	1,948	1,714	1,747
心臓血管外科	19,654	1,615	1,531	1,831	1,884	1,399	1,933	1,359	1,785	1,687	1,333	1,568	1,729
循環器内科	161,857	13,281	13,073	13,201	13,304	12,474	14,130	14,253	13,936	14,997	12,782	12,478	13,948
形成外科	37,718	2,907	3,335	3,560	2,671	2,877	2,920	3,298	3,392	2,643	3,086	3,507	3,523
脳神経内科	56,430	4,058	4,064	4,384	3,865	7,027	3,832	4,473	7,270	3,673	3,095	6,718	3,971
放射線科	591	83	0	34	41	70	0	0	0	33	190	29	112
呼吸器外科	221,646	19,137	22,344	24,164	17,439	20,508	18,953	16,213	18,910	17,220	13,957	17,306	15,495
救急科	12,543	595	348	1,019	1,226	1,263	915	1,045	1,680	1,589	1,171	663	1,030
合計	1,847,652	152,152	155,385	163,082	153,448	158,928	154,468	149,438	164,229	153,152	143,494	144,432	155,444

(3) 外来単価

(単位：円)

	平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内科	12,752	14,425	12,204	12,236	12,561	12,792	11,833	13,137	12,772	11,672	13,472	12,198	13,429
リウマチ・膠原病内科	20,920	22,692	20,556	20,631	20,922	19,242	20,930	22,233	20,068	21,947	19,733	22,269	20,461
消化器内科	22,958	22,780	25,327	25,943	24,490	24,299	22,372	19,336	23,925	21,064	21,598	23,390	21,591
糖尿病・代謝内科	9,121	9,340	9,444	9,133	9,248	8,065	9,071	9,117	9,153	9,488	9,208	9,294	9,075
小児科	11,567	12,256	12,320	10,963	12,364	11,956	12,348	10,622	11,957	10,798	11,867	11,962	9,922
外科	22,222	23,354	23,572	19,504	25,308	23,127	21,502	20,869	20,140	21,203	23,463	23,684	21,747
整形外科	6,621	5,982	7,041	5,711	6,420	5,816	6,921	6,812	7,404	6,998	7,419	6,424	6,666
脳神経外科	13,133	13,824	12,714	13,489	12,166	12,580	12,118	13,164	14,894	13,250	12,569	12,417	14,364
皮膚科	5,454	4,490	4,136	5,369	4,473	5,174	6,117	5,985	4,163	5,430	7,547	5,937	6,962
泌尿器科	11,154	11,390	11,815	10,595	10,668	11,152	9,197	11,610	11,590	11,705	12,260	10,373	11,317
産婦人科	10,213	9,239	8,930	9,301	9,819	10,780	10,159	10,278	11,281	10,982	11,103	10,281	10,637
眼科	7,748	7,267	8,303	7,562	8,186	7,414	7,107	7,453	8,623	7,634	7,732	8,351	7,499
耳鼻咽喉科	9,494	9,468	9,877	9,481	9,330	8,632	9,663	9,271	9,571	9,699	9,522	10,016	9,495
麻酔科	2,245	1,867	1,969	2,321	2,736	2,027	2,329	2,207	2,154	2,419	2,230	2,192	2,394
精神科	5,279	5,282	5,357	5,683	5,513	4,771	5,035	4,844	5,522	5,614	5,337	5,193	5,425
心臓血管外科	9,133	9,669	10,006	9,341	9,561	9,025	9,120	8,043	9,344	8,926	8,656	9,563	8,433
循環器内科	10,171	9,730	10,119	10,001	10,250	9,079	10,374	10,511	10,454	11,003	10,300	10,211	10,049
形成外科	13,519	13,777	13,895	13,800	11,765	13,634	12,532	13,517	14,876	12,012	14,556	15,051	12,906
脳神経内科	8,835	7,233	8,145	7,584	7,461	13,037	6,831	8,345	13,538	6,931	6,317	14,294	6,990
放射線科	36,951	41,290	—	33,740	41,290	34,960	—	—	—	32,740	37,982	28,600	37,480
呼吸器外科	35,514	41,603	32,714	47,474	35,018	38,695	35,033	31,060	29,363	31,538	33,875	40,246	33,250
救急科	30,008	27,031	28,987	27,530	25,018	22,558	25,410	26,793	35,009	40,748	30,806	34,883	44,795
全体平均	13,352	13,162	13,580	13,557	13,346	13,453	12,901	12,620	13,909	13,205	13,393	14,189	13,037

4. 診療科別・行為別稼働額

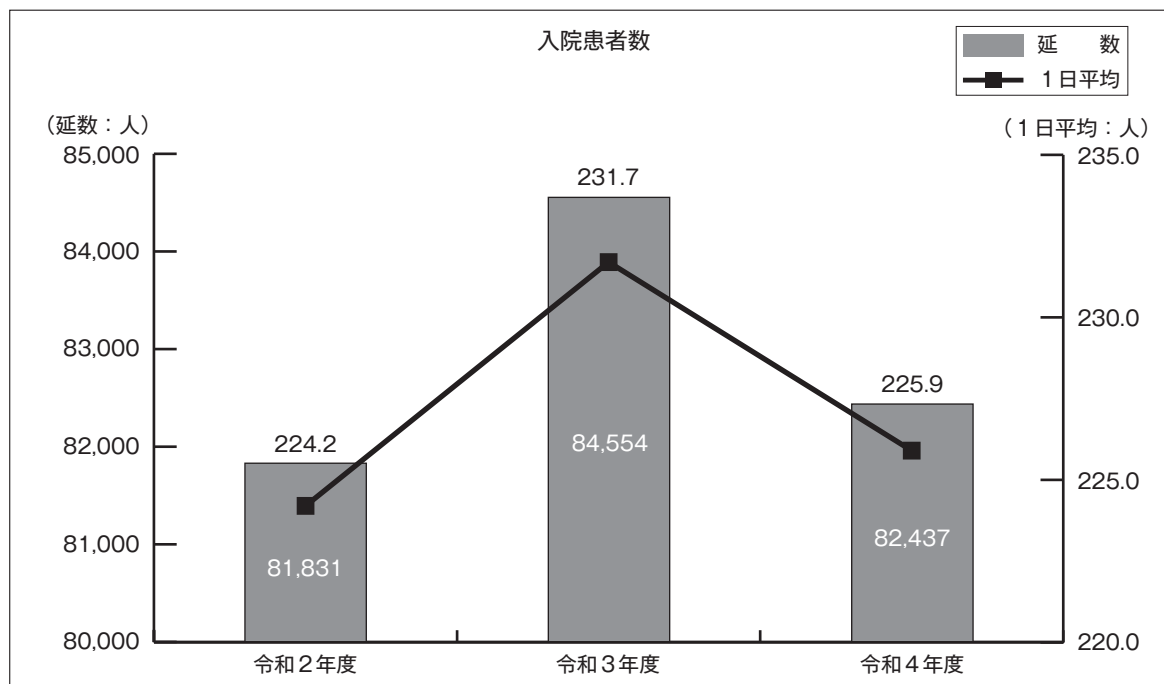
(単位：千円)

		入院料収益				入院診療収益／外来診療収益												自費収益(C)		合計 (A) + (B) + (C)	
		DPC 稼働額	入院料	食事 療養費	計(A)	検査料	画像 診断料	投薬料	注射料	処置料	手術料 等	初診 再診料	医学 管理料	在宅 管理料	理学 療法料	精神 療法料	処方箋料 その他	小計(B)	室料 差額		文書検診 その他
内科	入院	3,872	499	239	4,610	87	4	8	5	6	141	0	38	77	219	44	0	629	91	26	5,356
	外来	0	0	0	0	23,626	9,433	124	85	29	93	3,547	1,655	20,875	233	0	2,378	62,078	0	6,853	68,931
消化器科	入院	86,002	24,054	4,315	114,371	3,659	719	4,264	21,367	330	1,344	159	1,558	290	5,786	188	0	39,663	4,167	192	158,394
	外来	0	0	0	0	40,082	6,120	353	65,139	203	145	4,468	2,954	8,689	230	0	3,263	131,647	0	1,395	133,042
消化器科	入院	543,854	94,336	19,104	657,294	20,570	2,171	5,683	21,190	1,338	127,879	1,512	10,834	1,453	14,904	901	0	208,434	18,158	1,522	885,409
	外来	0	0	0	0	137,206	42,015	651	149,914	424	20,700	13,580	13,286	3,604	354	0	4,951	386,683	0	3,775	390,458
糖尿病科	入院	44,851	9,440	2,389	56,681	977	86	320	162	56	10	93	879	679	1,183	51	0	4,495	973	108	62,256
	外来	0	0	0	0	40,390	865	108	46	1	0	6,091	1,160	31,820	143	0	5,526	86,149	0	368	86,518
小児科	入院	3,254	3,983	120	7,356	261	32	12	58	31	119	81	153	25	0	0	0	771	0	16	8,143
	外来	0	0	0	0	3,925	225	36	1,464	4	0	1,167	8,813	22,207	812	0	387	39,040	0	22,341	61,381
外科	入院	231,627	68,130	8,823	308,580	6,988	2,253	1,546	15,500	1,247	162,656	543	4,205	537	7,072	288	2	202,836	11,489	545	523,451
	外来	0	0	0	0	31,031	29,946	66	68,342	322	5,688	4,825	14,696	997	79	0	2,182	158,176	0	1,782	159,957
整形外科	入院	399,807	73,457	27,130	500,394	7,863	1,463	2,218	1,764	2,914	372,050	1,327	9,777	275	40,990	544	18	441,201	16,109	494	958,198
	外来	0	0	0	0	11,438	26,234	458	5,874	1,850	5,998	10,424	4,086	919	2,602	0	4,338	74,222	0	5,338	79,560
脳神経科	入院	238,369	81,767	10,268	330,404	6,856	3,259	1,476	13,692	464	106,559	1,495	5,505	205	32,113	61	2	171,687	7,332	842	510,265
	外来	0	0	0	0	8,239	48,826	121	323	167	1,884	6,097	5,372	647	286	0	1,725	73,688	0	2,454	76,142
皮膚科	入院	3,121	122	172	3,415	80	1	12	0	0	7	3	86	0	156	0	0	343	0	1	3,759
	外来	0	0	0	0	3,361	98	36	12,310	1,102	127	3,364	1,684	128	10	0	2,350	24,571	0	360	24,931
泌尿器科	入院	39,487	9,154	1,590	50,231	7,360	18	290	124	77	15,441	17	1,030	9	479	16	0	24,861	1,919	48	77,059
	外来	0	0	0	0	15,970	14,848	44	9,822	1,798	894	3,902	3,019	2,818	10	0	1,416	54,542	0	544	55,086
産婦人科	入院	139,112	41,681	5,200	185,993	8,452	231	1,815	3,551	1,076	214,880	256	4,865	119	93	135	0	235,472	12,648	4,096	438,209
	外来	0	0	0	0	56,806	23,774	42	11,186	485	1,057	6,374	7,214	6	143	0	1,844	108,931	0	24,075	133,005

(単位：千円)

		入院料収益				入院診療収益／外来診療収益													自費収益(C)		合計 (A)+(B) +(C)
		DPC 稼働額	入院料	食事 療養費	計(A)	検査料	画像 診断料	投薬料	注射料	処置料	手術料 等	初診 再診料	医学 管理料	在宅 管理料	理学 療法料	精神 療科	処方箋料 その他	小計(B)	室料 差額	文書検診 その他	
眼科	入院	43,884	1,196	1,376	46,456	165	1	836	1	0	86,162	0	2,506	0	0	4	0	89,675	2,423	3	138,557
	外来	0	0	0	0	42,933	1,030	2	62	123	3,878	5,542	2,060	0	2	0	3,548	59,181	0	644	59,825
耳鼻咽喉科	入院	46,698	6,445	1,852	54,995	2,660	213	256	1,166	27	38,612	200	2,557	0	665	12	0	46,368	2,785	65	104,213
	外来	0	0	0	0	18,668	8,535	256	1,930	369	1,588	4,448	2,122	464	608	0	1,002	39,990	0	1,022	41,012
麻酔科	入院	497	470	10	978	23	1	0	0	0	0	9	31	0	5	22	0	90	0	3	1,071
	外来	0	0	0	0	40	48	26	10	1	614	622	187	0	0	0	511	2,058	0	23	2,082
精神科	入院	70	9,941	1,012	11,024	658	172	274	84	68	2	3	307	1	628	553	0	2,750	0	19	13,792
	外来	0	0	0	0	2,811	1,140	6	1,170	0	8	4,328	3,124	539	0	19,547	3,586	36,259	0	1,399	37,658
心臓血管外科	入院	47,494	8,793	1,872	58,159	602	26	188	0	36	92,385	75	729	3	1,314	72	0	95,431	1,035	81	154,706
	外来	0	0	0	0	7,376	8,988	3	14	52	51	1,832	565	135	0	0	638	19,654	0	382	20,036
循環器内科	入院	423,152	97,001	17,748	537,901	16,894	1,268	7,374	5,629	772	172,496	1,102	7,614	1,372	16,594	421	0	231,534	10,456	1,325	781,216
	外来	0	0	0	0	86,178	19,840	1,069	1,028	417	93	12,230	12,545	19,723	545	0	8,190	161,857	0	2,091	163,948
形成外科	入院	4,923	146	254	5,323	97	1	38	0	724	4,309	0	101	11	69	20	0	5,370	521	1	11,215
	外来	0	0	0	0	12,628	1,010	892	66	416	18,746	3,070	186	60	0	0	644	37,718	0	533	38,250
神経内科	入院	148,725	40,538	6,805	196,067	3,870	930	924	6,439	280	1,794	648	2,652	411	18,094	121	0	36,164	4,476	259	236,966
	外来	0	0	0	0	9,301	15,707	171	12,034	58	1,587	5,278	4,857	4,265	119	0	3,053	56,430	0	1,838	58,268
放射線科	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	外来	0	0	0	0	0	511	0	0	0	0	40	40	0	0	0	0	591	0	3,514	4,105
呼吸器外科	入院	173,883	33,529	7,428	214,840	5,512	795	1,564	12,087	493	102,588	322	3,984	1,228	6,386	268	695	135,922	6,577	460	357,799
	外来	0	0	0	0	29,949	40,966	313	119,791	117	94	6,428	16,519	5,361	804	0	1,304	221,646	0	1,392	223,038
救急科	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	外来	0	0	0	0	4,499	3,399	383	298	404	38	1,350	1,790	0	344	0	38	12,543	0	939	13,482
合計	入院	2,622,684	604,682	117,706	3,345,073	93,635	13,643	29,096	102,817	9,939	1,499,432	7,843	59,410	6,693	146,751	3,718	717	1,973,696	101,159	10,105	5,430,034
	外来	0	0	0	0	586,456	303,558	5,162	460,906	8,342	63,286	109,007	107,935	123,258	7,320	19,547	52,875	184,765	0	153,193	2,000,846

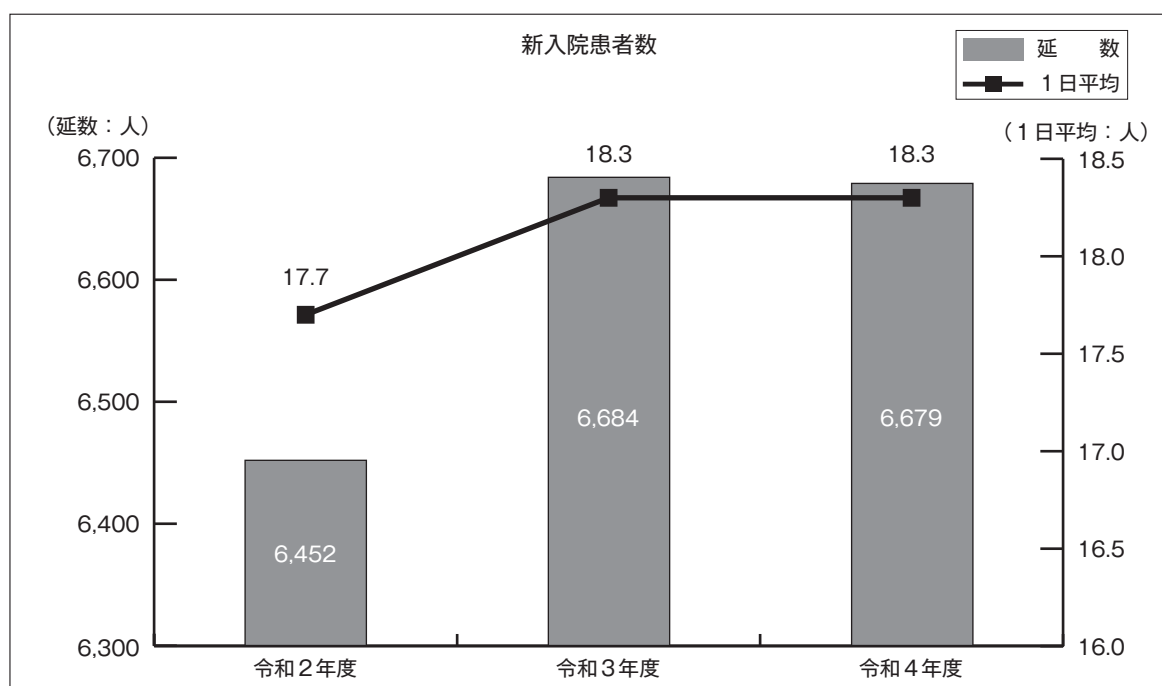
5. 入院患者数



(単位：人)

	令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	延数	1日平均	延数	1日平均	延数	1日平均
内 科	276	0.8	252	0.7	141	0.4
リウマチ・膠原病内科	3,052	8.4	2,652	7.3	2,980	8.2
消化器内科	14,096	38.6	15,829	43.4	15,709	43.0
糖尿病・代謝内科	1,697	4.6	1,737	4.8	1,444	4.0
小 児 科	166	0.5	224	0.6	164	0.4
外 科	8,047	22.0	8,488	23.3	8,023	22.0
整 形 外 科	14,454	39.6	15,716	43.1	15,007	41.1
脳神経外科	8,230	22.5	7,088	19.4	6,991	19.2
皮 膚 科	131	0.4	110	0.3	95	0.3
泌 尿 器 科	74	0.2	834	2.3	1,266	3.5
産 婦 人 科	4,869	13.3	5,468	15.0	5,193	14.2
眼 科	1,263	3.5	1,126	3.1	1,391	3.8
耳鼻咽喉科	1,599	4.4	1,569	4.3	1,434	3.9
麻 酔 科	28	0.1	20	0.1	12	0.0
精 神 科	1,979	5.4	1,689	4.6	530	1.5
心臓血管外科	1,847	5.1	1,330	3.6	1,208	3.3
循環器内科	10,568	29.0	10,569	29.0	11,599	31.8
形 成 外 科	333	0.9	204	0.6	150	0.4
脳神経内科	4,226	11.6	4,562	12.5	4,586	12.6
放 射 線 科	1	0.0	0	0.0	0	0.0
呼吸器外科	4,894	13.4	5,087	13.9	4,514	12.4
救 急 科	1	0.0	0	0.0	0	0.0
合 計	81,831	224.2	84,554	231.7	82,437	225.9

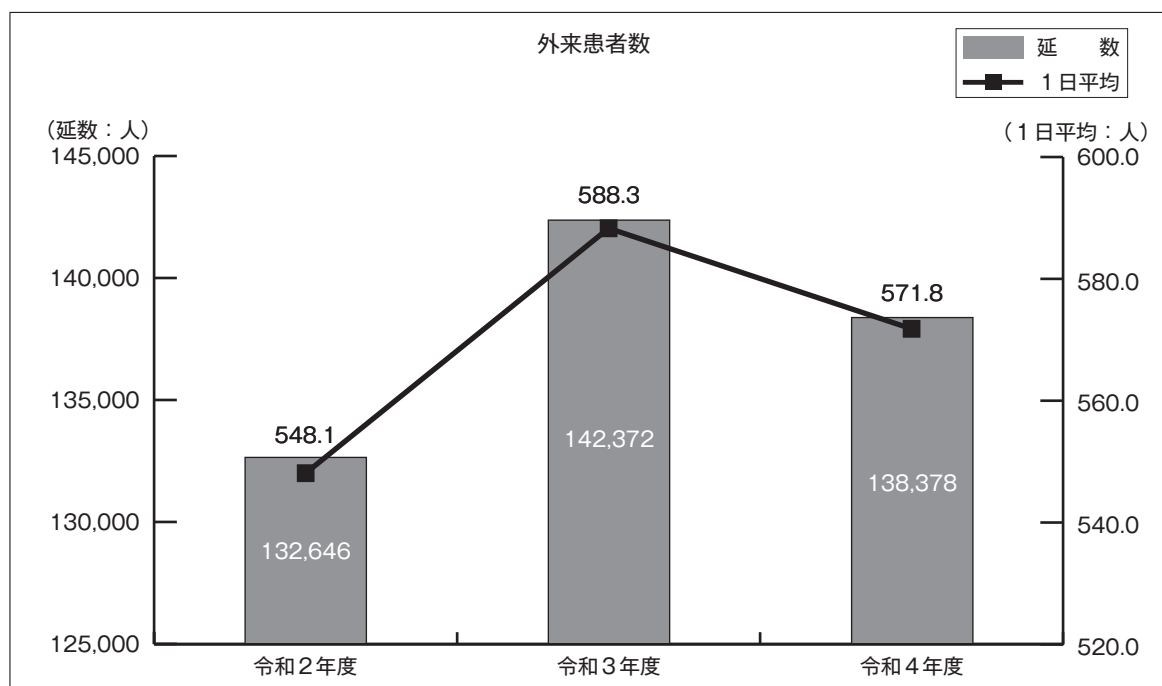
6. 新入院患者数



(単位: 人)

	令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	延数	1日平均	延数	1日平均	延数	1日平均
内科	28	0.1	16	0.0	6	0.0
リウマチ・膠原病内科	189	0.5	173	0.5	170	0.5
消化器内科	1,298	3.6	1,350	3.7	1,399	3.8
糖尿病・代謝内科	95	0.3	100	0.3	91	0.2
小児科	31	0.1	37	0.1	33	0.1
外科	480	1.3	520	1.4	480	1.3
整形外科	707	1.9	749	2.1	675	1.8
脳神経外科	588	1.6	552	1.5	534	1.5
皮膚科	10	0.0	11	0.0	6	0.0
泌尿器科	26	0.1	126	0.3	207	0.6
産婦人科	655	1.8	697	1.9	707	1.9
眼科	615	1.7	537	1.5	650	1.8
耳鼻咽喉科	262	0.7	266	0.7	236	0.6
麻酔科	9	0.0	6	0.0	4	0.0
精神科	51	0.1	45	0.1	18	0.0
心臓血管外科	123	0.3	74	0.2	106	0.3
循環器内科	732	2.0	840	2.3	783	2.1
形成外科	24	0.1	17	0.0	15	0.0
脳神経内科	243	0.7	263	0.7	252	0.7
放射線科	1	0.0	0	0.0	0	0.0
呼吸器外科	284	0.8	305	0.8	305	0.8
救急科	1	0.0	—	—	2.0	0.0
合計	6,452	17.7	6,684	18.3	6,679	18.3

7. 外来患者数



(単位：人)

	令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	延数	1日平均	延数	1日平均	延数	1日平均
内科	5,596	23.1	5,311	21.9	4,868	20.1
リウマチ・膠原病内科	6,228	25.7	6,421	26.5	6,293	26.0
消化器内科	14,675	60.6	16,421	67.9	16,843	69.6
糖尿病・代謝内科	8,905	36.8	9,341	38.6	9,445	39.0
小児科	2,218	9.2	2,404	9.9	3,375	13.9
外科	7,133	29.5	7,795	32.2	7,118	29.4
整形外科	11,532	47.7	14,009	57.9	11,210	46.3
脳神経外科	7,455	30.8	7,014	29.0	5,611	23.2
皮膚科	4,347	18.0	4,702	19.4	4,505	18.6
泌尿器科	2,119	8.8	3,512	14.5	4,890	20.2
産婦人科	9,489	39.2	10,956	45.3	10,666	44.1
眼科	7,795	32.2	7,450	30.8	7,638	31.6
耳鼻咽喉科	4,619	19.1	4,965	20.5	4,212	17.4
麻酔科	846	3.5	734	3.0	917	3.8
精神科	8,673	35.8	8,994	37.2	6,869	28.4
心臓血管外科	2,653	11.0	1,598	6.6	2,152	8.9
循環器内科	16,020	66.2	16,725	69.1	15,914	65.8
形成外科	2,016	8.3	2,564	10.6	2,790	11.5
脳神経内科	5,465	22.6	5,967	24.7	6,387	26.4
放射線科	33	0.1	22	0.1	16	0.1
呼吸器外科	4,797	19.8	5,421	22.4	6,241	25.8
救急科	32	0.1	46	0.2	418	1.7
合計	132,646	548.1	142,372	588.3	138,378	571.8

8. 診療科別稼働額

(単位：千円)

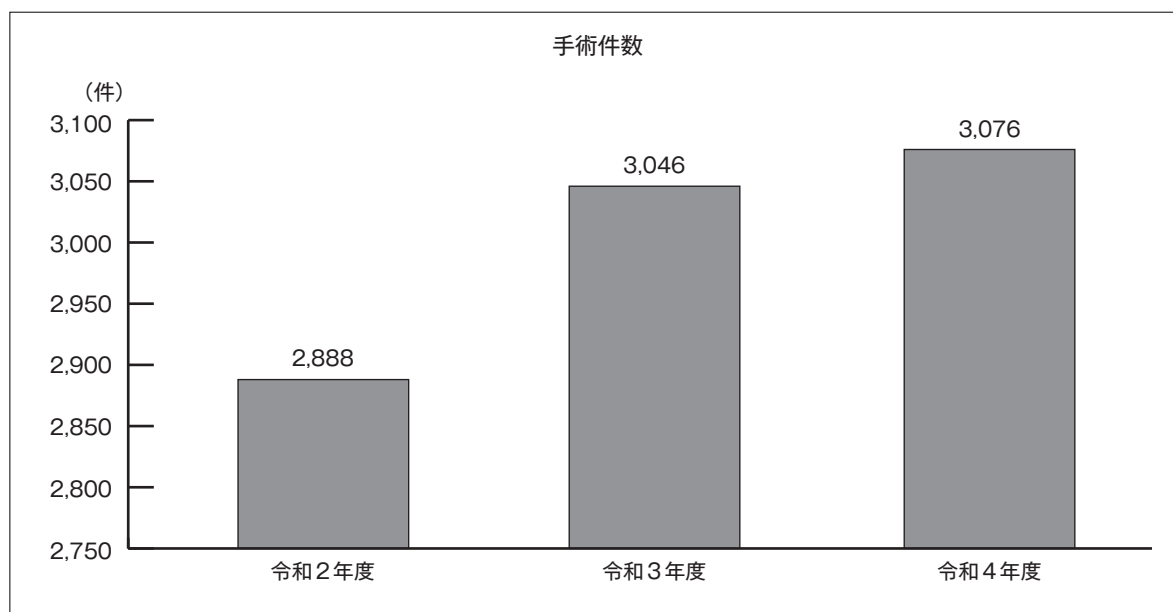
	令和2年度			令和3年度			令和4年度		
	入院	外来	計	入院	外来	計	入院	外来	計
内 科	12,195	71,902	84,097	10,980	70,781	81,761	5,239	62,078	67,317
リウマチ・膠原病内科	160,402	162,384	322,786	151,460	156,321	307,781	154,034	131,647	285,681
消化器内科	741,014	266,374	1,007,388	840,136	346,422	1,186,557	865,729	386,683	1,252,412
糖尿病・代謝内科	67,538	82,716	150,255	71,066	87,959	159,025	61,176	86,149	147,325
小 児 科	6,678	15,323	22,000	11,912	35,103	47,015	8,127	39,040	47,167
外 科	522,962	167,860	690,822	535,014	192,718	727,732	511,416	158,176	669,592
整 形 外 科	851,779	74,817	926,596	948,598	98,049	1,046,646	941,595	74,222	1,015,817
脳神経外科	594,688	92,702	687,391	537,158	88,447	625,605	502,091	73,688	575,779
皮 膚 科	4,936	18,539	23,475	4,697	19,954	24,652	3,758	24,571	28,329
泌 尿 器 科	4,104	19,900	24,004	43,406	36,590	79,996	75,092	54,542	129,634
産 婦 人 科	363,332	94,709	458,042	412,734	112,503	525,238	421,465	108,931	530,395
眼 科	129,208	59,146	188,354	110,548	56,111	166,660	136,131	59,181	195,311
耳鼻咽喉科	112,687	39,450	152,137	122,582	43,898	166,480	101,363	39,990	141,353
麻 酔 科	1,905	1,776	3,682	1,763	1,626	3,388	1,068	2,058	3,126
精 神 科	55,488	43,023	98,511	46,966	46,504	93,470	13,773	36,259	50,032
心臓血管外科	185,256	21,163	206,419	166,848	14,673	181,521	153,590	19,654	173,243
循環器内科	686,730	144,226	830,956	789,949	160,063	950,013	769,436	161,857	931,293
形 成 外 科	18,796	31,512	50,309	15,756	35,972	51,728	10,693	37,718	48,411
脳神経内科	202,717	38,549	241,266	229,103	44,805	273,907	232,231	56,430	288,661
放 射 線 科	－	1,267	1,267	－	796	796	－	591	591
呼吸器外科	339,434	203,290	542,723	363,265	219,668	582,933	350,762	221,646	572,408
救 急 科	－	833	833	－	1,855	1,855	－	12,543	12,543
合 計	5,061,850	1,651,462	6,713,312	5,413,940	1,870,818	7,284,757	5,318,769	1,847,652	7,166,421

9. 入院・外来単価(自費収益を含まない)

(単位：円)

	令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	入院	外来	入院	外来	入院	外来
内科	44,185	12,849	43,572	13,327	37,158	12,752
リウマチ・膠原病内科	52,556	26,073	57,112	24,345	51,689	20,920
消化器内科	52,569	18,152	53,076	21,096	55,110	22,958
糖尿病・代謝内科	39,799	9,289	40,913	9,416	42,365	9,121
小児科	40,228	6,908	53,178	14,602	49,554	11,567
外科	64,988	23,533	63,032	24,723	63,744	22,222
整形外科	58,930	6,488	60,359	6,999	62,744	6,621
脳神経外科	72,259	12,435	75,784	12,610	71,820	13,133
皮膚科	37,678	4,265	42,703	4,244	39,561	5,454
泌尿器科	55,454	9,391	52,045	10,419	59,315	11,154
産婦人科	74,622	9,981	75,482	10,269	81,160	10,213
眼科	102,303	7,588	98,178	7,532	97,865	7,748
耳鼻咽喉科	70,474	8,541	78,127	8,842	70,685	9,494
麻酔科	68,049	2,100	88,126	2,215	89,013	2,245
精神科	28,038	4,961	27,807	5,171	25,988	5,279
心臓血管外科	100,301	7,977	125,450	9,182	127,144	9,133
循環器内科	64,982	9,003	74,742	9,570	66,336	10,171
形成外科	56,445	15,631	77,234	14,030	71,285	13,519
脳神経内科	47,969	7,054	50,220	7,509	50,639	8,835
放射線科	－	38,402	－	36,193	－	36,951
呼吸器外科	69,357	42,378	71,410	40,522	77,705	35,514
救急科	－	26,031	－	40,325	－	30,008
平均	61,859	12,450	64,029	13,140	64,519	13,352

10. 手術件数(手術室)



(単位：件)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
消化器内科	6	5	4
外科	416	442	410
呼吸器外科	100	116	110
整形外科	568	662	634
脳神経外科	107	102	81
産婦人科	321	372	385
心臓血管外科	49	47	64
耳鼻咽喉科	144	156	131
形成外科	434	474	481
泌尿器科	8	30	112
眼科	613	534	653
精神科	113	101	3
麻酔科	9	5	6
救急科	0	0	2
合計	2,888	3,046	3,076

11. 平均在院日数

(単位：日)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
内 科	12.5	14.8	22.5
リウマチ・膠原病内科	14.9	13.5	16.6
消 化 器 内 科	10.0	10.9	10.4
糖尿病・代謝内科	16.8	16.6	14.8
小 児 科	4.4	5.0	3.9
外 科	15.5	14.9	15.3
整 形 外 科	19.4	20.2	20.8
脳 神 経 外 科	13.1	11.9	12.3
皮 膚 科	12.8	9.5	12.4
泌 尿 器 科	1.7	5.6	4.9
産 婦 人 科	6.4	6.9	6.3
眼 科	1.1	1.1	1.1
耳 鼻 咽 喉 科	5.0	5.0	5.0
麻 酔 科	2.6	3.2	2.0
精 神 科	32.1	32.0	23.5
心 臓 血 管 外 科	13.9	16.7	10.6
循 環 器 内 科	13.5	11.7	13.9
形 成 外 科	12.3	10.3	9.4
脳 神 経 内 科	16.5	16.4	17.0
放 射 線 科	—	—	—
呼 吸 器 外 科	16.0	15.6	13.9
救 急 科	—	—	—
平 均	11.7	11.7	11.3

12. 病床稼働率(退院を含む)

(単位：床、%)

	稼働病床数	令和2年度	令和3年度	令和4年度
3 A 病棟 (HCU含む)	20	63.3%	72.6%	72.5%
3 B 病棟	34	90.2%	97.4%	96.6%
4 病棟	40	72.7%	84.9%	80.1%
5 A 病棟	49	90.0%	96.4%	93.6%
5 B 病棟	46	88.2%	93.6%	91.5%
6 A 病棟	47	34.6%	16.0%	27.6%
6 B 病棟	46	94.7%	99.6%	93.7%
7 病棟 (精神病棟)	10	72.7%	64.0%	58.4%
合 計	292	76.8%	79.3%	77.3%

13. 紹介率・逆紹介率(病院全体)

(単位：%)

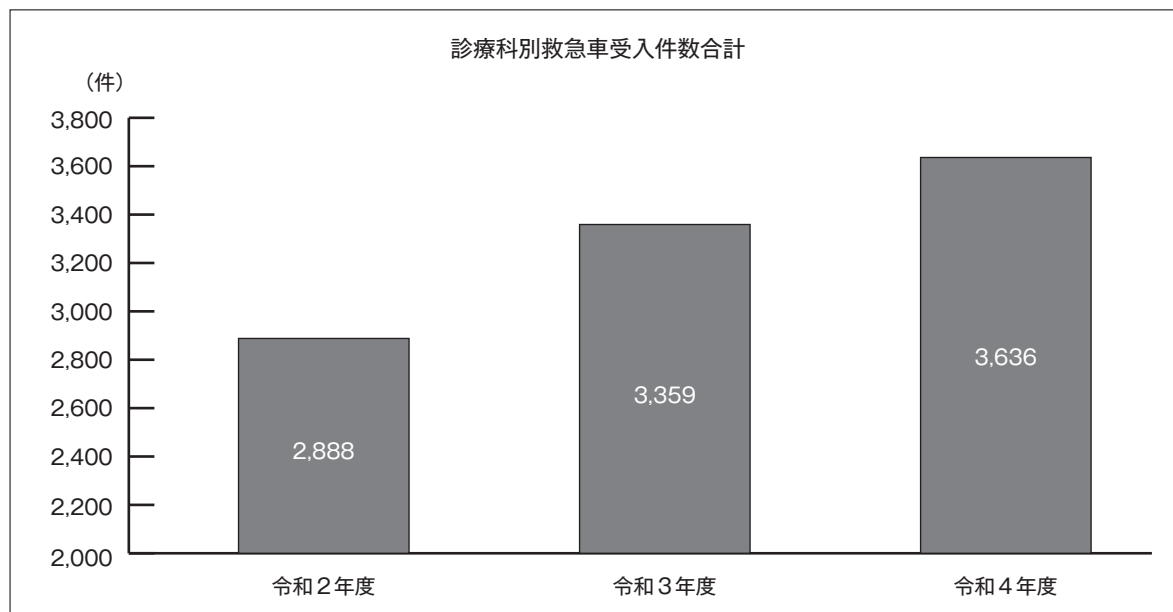
	令和2年度	令和3年度	令和4年度
紹 介 率	98.5	92.5	102.6
逆 紹 介 率	109.4	101.8	123.6

14. 分娩件数

(単位：件)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
自 然 分 娩	160	140	133
帝 王 切 開	43	37	39
合 計	203	177	172

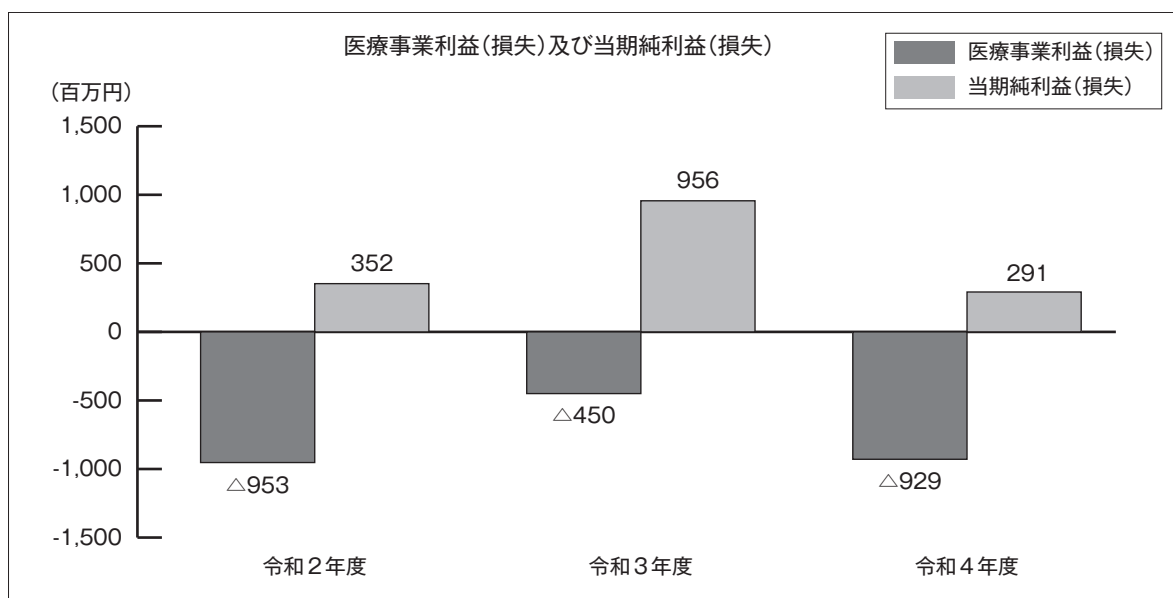
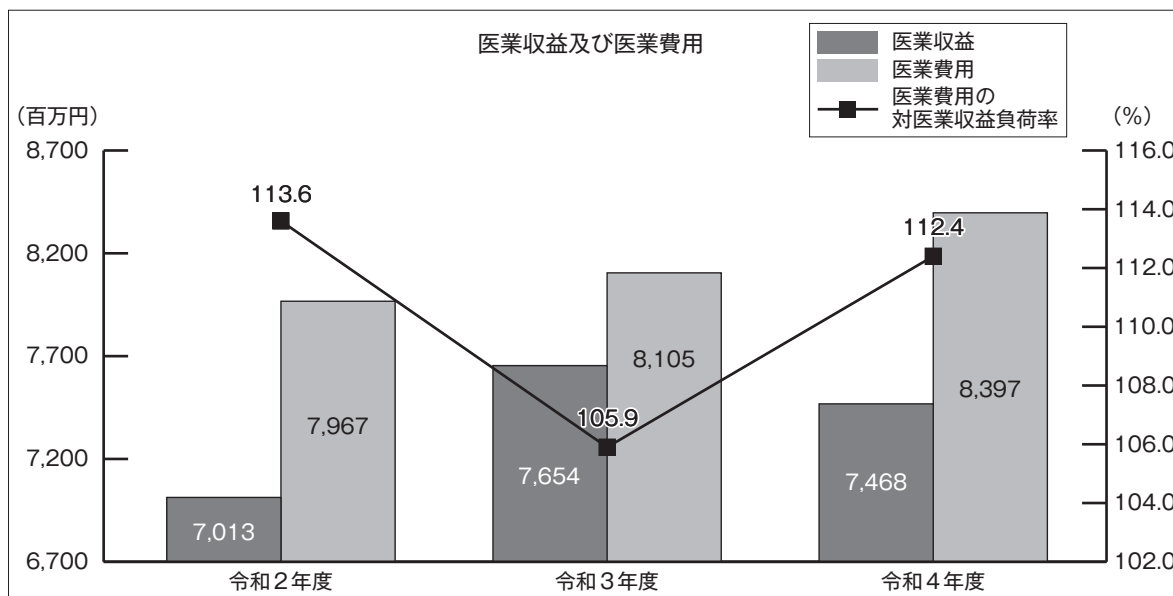
15. 診療科別救急車受入件数



(単位：件)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
内 科	212	209	14
リウマチ・膠原病内科	30	56	79
消 化 器 内 科	344	467	546
糖尿病・代謝内科	35	33	50
小 児 科	4	14	35
外 科	117	112	118
整 形 外 科	499	618	535
脳 神 経 外 科	728	784	739
皮 膚 科	13	16	16
泌 尿 器 科	26	47	65
産 婦 人 科	28	30	26
眼 科	4	2	1
耳 鼻 咽 喉 科	69	78	109
麻 酔 科	5	7	5
精 神 科	30	38	26
心 臓 血 管 外 科	45	31	29
循 環 器 内 科	409	497	583
形 成 外 科	1	0	1
脳 神 経 内 科	224	241	296
呼 吸 器 外 科	57	61	63
救 急 科	23	46	332
合 計	2,888	3,359	3,636

16. 損益推移



(単位：円、%)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
医療収益	7,013,736,443	7,654,434,628	7,468,059,967
医療費用	7,967,241,550	8,105,358,024	8,397,367,990
医療事業利益(損失)	△ 953,505,107	△ 450,923,396	△ 929,308,023
医療費用の対医療収益負荷率	113.6	105.9	112.4
医療外利益(損失)	1,521,453,334	1,492,314,037	1,324,817,292
医療社会利益(損失)	△ 90,489,983	△ 85,895,262	△ 88,809,153
付帯事業利益(損失)	△ 274,389	5,831,616	△ 5,467,140
特別利益(損失)	△ 123,406,082	△ 5,939,156	△ 9,415,833
法人税等	877,243	△ 877,243	0
当期純利益(損失)	352,900,530	956,265,082	291,817,143

17. 比較損益計算書

(単位：円)

	令和3年度	令和4年度	(3年度～4年度)	
			前年比	増減率
医療事業損益計算				
医業収益	7,654,434,628	7,468,059,967	△ 186,374,661	△ 2.4%
入院診療収益	5,453,407,000	5,323,770,381	△ 129,636,619	△ 2.4%
室料差額収益	130,398,400	109,604,000	△ 20,794,400	△ 15.9%
外来診療収益	1,884,042,789	1,852,152,356	△ 31,890,433	△ 1.7%
保険予防活動収益	147,249,118	143,276,512	△ 3,972,606	△ 2.7%
受託検査・施設利用収益	4,121,084	3,840,551	△ 280,533	△ 6.8%
その他の医業収益	49,857,724	45,119,487	△ 4,738,237	△ 9.5%
保険等査定減	△ 14,641,487	△ 9,703,320	4,938,167	－
医業費用	8,105,358,024	8,397,367,990	292,009,966	3.6%
材 料 費	2,002,783,374	2,031,927,873	29,144,499	1.5%
給 与 費	3,954,073,771	4,181,845,738	227,771,967	5.8%
委 託 費	597,535,269	582,411,825	△ 15,123,444	△ 2.5%
設備関係費	1,228,613,473	1,241,949,133	13,335,660	1.1%
研究研修費	32,012,006	34,312,670	2,300,664	7.2%
経 費	290,340,131	324,920,751	34,580,620	11.9%
医療事業利益(損失)	△ 450,923,396	△ 929,308,023	△ 478,384,627	－
事業損益計算				
医業外収益	1,525,365,861	1,360,009,934	△ 165,355,927	△ 10.8%
医業外費用	33,051,824	35,192,642	2,140,818	6.5%
医療外利益(損失)	1,492,314,037	1,324,817,292	△ 167,496,745	△ 11.2%
医療社会事業収益	1,685,943	1,654,176	△ 31,767	△ 1.9%
医療奉仕費用	87,581,205	90,463,329	2,882,124	3.3%
医療社会事業利益(損失)	△ 85,895,262	△ 88,809,153	△ 2,913,891	－
事業利益(損失)	955,495,379	306,700,116	△ 648,795,263	△ 67.9%
経常損益計算				
付帯事業収益	41,673,373	37,938,871	△ 3,734,502	△ 9.0%
付帯事業費用	35,841,757	43,406,011	7,564,254	21.1%
付帯事業利益(損失)	5,831,616	△ 5,467,140	△ 11,298,756	－
経常利益(損失)	961,326,995	301,232,976	△ 660,094,019	△ 68.7%
当期純損益計算				
特別利益	77,386	125,727	48,341	62.5%
特別損失	6,016,542	9,541,560	3,525,018	58.6%
特別利益(損失)	△ 5,939,156	△ 9,415,833	△ 3,476,677	－
税引前当期純利益(損失)	955,387,839	291,817,143	△ 663,570,696	△ 69.5%
法人税等	△ 877,243	0	877,243	－
当期純利益(損失)	956,265,082	291,817,143	△ 664,447,939	△ 69.5%
前期繰越利益(損失)	△ 4,247,078,448	△ 3,290,813,366	956,265,082	－
当期未処分利益(未処理損失)	△ 3,290,813,366	△ 2,998,996,223	291,817,143	－

IV

活動実績

1. 内科	41	18. 耳鼻咽喉科	60
2. 消化器内科	41	19. 放射線科	62
3. 糖尿病・代謝内科	44	20. 麻酔科	64
4. 循環器内科	44	21. リウマチ・膠原病内科	65
5. 脳神経内科	46	22. 病理診断科	66
6. 精神科	47	23. 救急科	67
7. 小児科	47	24. リハビリテーション科	68
8. 外科	48	25. 薬剤部	71
9. 心臓血管外科	51	26. 医療技術部	75
10. 呼吸器外科	52	27. 看護部	78
11. 整形外科	53	28. 検査部	106
12. 脳神経外科	54	29. 事務部	108
13. 皮膚科	56	30. 医療安全推進室	119
14. 形成外科	57	31. 感染管理室	121
15. 泌尿器科	57	32. 診療支援室	122
16. 産婦人科	58	33. 地域医療連携室	123
17. 眼科	60	34. 福島赤十字訪問看護ステーション	126



1. 内科

【医師】 寺島久美子(健診センター長)

■ 専門

アレルギー疾患、喘息

■ 資格・所属学会等

日本内科学会 認定内科医

【外部医】 田中 健一

■ 専門

腎臓病・透析

■ 資格・所属学会等

日本腎臓学会 専門医 指導医

日本透析医学会 専門医 指導医

日本高血圧学会 専門医 指導医

日本内科学会 総合内科専門医 指導医

<内科について>

・ 総合内科

高齢者の増加に伴い一人でいくつもの病気を抱えている患者が増加しております。それぞれの臓器別専門分野のエキスパートと連携し、総合的に内科診療を行ってまいります。どの診療科に行ったらよいのかわからない場合や、どの診療科で受診しても診断がつかないような場合に受診してください。

・ 一般内科

高血圧、糖尿病、脂質異常症などの生活習慣病や喘息、アレルギー疾患の診療をいたします。

・ 呼吸器内科

気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、間質性肺炎、肺癌、縦隔腫瘍、胸腺疾患などの呼吸器疾患に対して診断・治療をいたします。

・ 腎臓内科

腎炎、ネフローゼ、糖尿病・膠原病などによる腎疾患、末期の腎不全に対して診断・治療をいたします。



2. 消化器内科

【主任部長】 黒田 聖仁

■ 専門

肝炎、肝臓がん

■ 資格・所属学会等

日本内科学会 総合内科専門医 指導医

日本肝臓学会 指導医

日本消化器病学会 指導医

日本消化器内視鏡学会 専門医

福島県立医科大学 臨床教授 客員講師

【部 長】 菅野有紀子

■ 専門

肝科、消化器科、肝臓疾患

■ 資格・所属学会等

日本内科学会 総合内科専門医

日本消化器病学会 専門医 指導医 評議員

日本消化器内視鏡学会 専門医

日本肝臓学会 専門医 指導医

日本リウマチ学会 専門医 指導医

日本門脈圧亢進症学会

【部 長】 児玉 健太(兼 内視鏡センター長)

■ 専門

消化器病

■ 資格・所属学会等

日本内科学会 認定内科医

日本消化器病学会 専門医

日本消化器内視鏡学会 専門医 指導医

日本消化管学会 胃腸科専門医

日本がん治療認定医機構 がん治療認定医

日本大腸検査学会評議員

【副 部 長】 紺野 直紀

■ 専門

消化器内科(特に胆・膵疾患)

■ 資格・所属学会等

日本膵臓学会 指導医

日本胆道学会

日本門脈圧亢進症学会

日本臨床腫瘍学会

日本内科学会 総合内科専門医

日本消化器病学会 専門医

日本消化器内視鏡学会 専門医 指導医

日本肝臓学会 専門医

【副 部 長】 浅間 宏之

■ 専門

消化器内科一般

胆膵疾患

■ 資格・所属学会等

日本内科学会 認定内科医

日本消化器病学会 専門医

日本肝臓学会 専門医

日本消化器内視鏡学会

日本臨床腫瘍学会

日本膵臓学会

日本門脈圧亢進症学会

日本胆道学会

【外 部 医】 引地 拓人

■ 専門

消化器内視鏡の診断・治療

■ 資格・所属学会等

日本内科学会 総合内科専門医 指導医

日本消化器内視鏡学会 専門医 指導医

日本消化器病学会 専門医 指導医

日本消化管学会 胃腸科認定医 胃腸科専門医 胃腸科指導医

日本カプセル内視鏡学会 専門医 指導医

日本肝臓学会 専門医

日本ヘリコバクター学会 H.pylori(ピロリ菌)感染症認定医

日本門脈圧亢進症学会 技術認定医(内視鏡治療)

日本高齢消化器病学会

日本消化器がん検診学会

日本胃癌学会

日本脾臓学会

PEG・在宅医療学会

福島医学会

America Society of Gastrointestinal Endoscopy(ASGE)：国際会員

【外 部 医】 中村 純

■ 専門

消化管癌の内視鏡診断・治療

食道アカラシアの診断・治療

■ 資格・所属学会等

日本内科学会 認定内科医

日本消化器内視鏡学会 専門医 支部評議員

日本消化器病学会 専門医 支部評議員

日本消化管学会 胃腸科専門医

日本ヘリコバクター学会 H.pylori(ピロリ菌)感染症認定医

日本門脈圧亢進症学会

日本胃癌学会

日本がん検診学会

<令和4年度実績>

当科は消化管(食道、胃、十二指腸、大腸)、肝臓、胆嚢、胆管、脾臓疾患の診断、治療を行っている。コロナ下で検査件数の減少がみられたが、低侵襲で安全な内視鏡検査、治療を心掛けており、食道、胃、大腸のESD(粘膜下剥離術)治療やEMR(粘膜切除術)の施行件数も年々増加している。吐血や下血に対する止血処置や総胆管結石へのEST(内視鏡的乳頭切開術)、閉塞性黄疸への内視鏡的ドレナージ、大腸癌によるイレウスへのステント留置等を緊急で施行できる体制を整えている。肝疾患専門医療機関であり、ウイルス性肝炎や自己免疫性肝疾患の治療の他、肝細胞癌には年間約50例にラジオ波焼灼療法、免疫チェックポイント阻害剤や分子標的治療薬による治療、肝動脈塞栓療法を施行。また難治性腹水には腹水濃縮再注入療法を行っている。

上部消化管内視鏡検査件数年間	3,023件
胃粘膜下層剥離術(ESD)	47件
止血術	61件
下部消化管内視鏡検査件数	772件

大腸ポリープ切除術・EMR	611件
止血術	25件 等
胆嚢、胆管、膵臓に対する内視鏡検査(胆管結石や閉塞性黄疸の治療)	256件
超音波内視鏡	81件
腹部超音波検査	約3,500件

<令和5年度目標>

引き続き、感染に注意し、安全に効率良く診療をすることを目標としたい。新しい治療を積極的に取り入れ、コメディカルの力も借りて、クオリティの高い診療を維持して行きたい。病診連携に力を入れて症例数をさらに増加させ、研修医の指導や学会活動にも力を入れて消化器内科医を育てていきたい。

3. 糖尿病・代謝内科

【部 長】 佐藤 義憲

■ 専門

糖尿病

■ 資格・所属学会等

日本内科学会 認定内科医 総合内科 専門医

日本糖尿病学会 専門医 指導医

<令和4年度実績>

活動実績

外来予約診療 1,055名

入院 95名

学会発表 2名

<令和5年度目標>

常勤医着任まで、できるだけ活動実績の低下を抑えたい。

4. 循環器内科

【副 院 長】 大和田尊之(兼 循環器センター長)

■ 専門

循環器一般、虚血性心疾患、冠動脈疾患

■ 資格・所属学会等

日本内科学会 認定専門医 指導医

日本循環器学会 認定専門医

日本心血管インターベンション治療学会 認定専門医

日本高血圧学会 認定指導医

福島県立医科大学 臨床教授

【主任部長】 渡部 研一(兼 医療技術部長)

■ 専門

循環器一般、不整脈

■ 資格・所属学会等

日本内科学会 認定専門医 指導医

日本循環器学会 認定専門医

日本心血管インターベンション治療学会 認定医

日本DMAT隊員、日赤災害医療コーディネーター

【部 長】 阪本 貴之(兼 医局長)

■ 専門

循環器一般、心血管インターベンション

■ 資格・所属学会等

日本内科学会 認定専門医 指導医

日本循環器学会 認定専門医

日本心血管インターベンション治療学会 認定医

【医 師】 坂本 和哉

■ 専門

循環器内科一般

【医 師】 芳賀 文香

■ 専門

循環器内科一般

【外 部 医】 中里 和彦

■ 専門

循環器一般、心血管インターベンション、肺高血圧症の診断と治療

■ 資格・所属学会等

日本内科学会 認定専門医 指導医

日本循環器学会 認定専門医

日本心血管インターベンション治療学会 認定専門医

<令和4年度実績>

令和4年度も後期研修医2名を含む5人体制での活動となった。コロナ禍での診療制限などもある中救急車搬送件数や入院患者延数・稼働自体は増加したものの、ベッド回転の低下が影響してか手術件数は減少傾向となった。

(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

外来受診患者延数15,923名(一日平均65.5名)

入院患者延数11,601名(一日平均31.8名)

救急車搬送患者総数583名

カテーテル関連

冠動脈造影 317例(うち緊急 80例)

右心カテーテル 38例

経皮的冠動脈インターベンション(PCI) 183例(うち緊急PCI 69例)

下肢末梢血管インターベンション(EVT) 5例

その他IVR 1例

IABP 11例

PCPS 1例
緊急経静脈一時ペーシング 30例
ペースメーカー移植術 45例
植え込み型心電図モニター移植術 3例
その他
CPAP/ASV治療・管理
ペースメーカー等デバイス管理
デバイス植え込み患者MRI撮像対応
他科手術時デバイス管理

今年度も他の内科系診療科同様、コロナウイルス感染症患者の入院対応や新患を含む一般内科診療・高齢者当番入院対応など内科医としての役割も多く果たす事が出来た。

教育面では、研修医や学生見学を積極的に受け入れて指導を行い、地域：循環器医療のレベルアップ及び初期研修医の獲得・後期研修医の派遣に協力出来た。

2月4日には日本心血管インターベンション治療学会(CVIT)の東北地方会を、大和田副院長を会長として福島市で開催した。当院スタッフの多大なる協力もあり大きな成功をおさめ、当院の循環器診療をアピールする事も出来た。

<令和5年度目標>

令和5年度も地域の循環器医療に貢献するため、救急症例について例年通り盤石の受け入れ体制を維持し対応していくことに加え、コロナ禍で減少した手術件数を増やすべく、地域の先生方との連携をさらに強化し、病診・病病連携ともに気軽に御相談いただける関係づくりを進めていきつつ、県北の循環器診療の中心として発信にも努めていきたい。また次年度に迫った医師の働き方改革への対応を進めており、積極的な業務の効率化や有給取得率の上昇を目指しつつも、質の高い医療の継続のため学会発表・参加による自己研鑽も重ねて、安心・安全な高度医療を提供していく所存である。

5. 脳神経内科

【主任部長】 中村耕一郎

■ 専門

神経内科一般

■ 資格・所属学会等

日本神経学会 専門医 指導医

日本内科学会 総合内科 専門医

福島県立医科大学 臨床教授

【部長】 守谷 新

■ 専門

神経内科一般

■ 資格・所属学会等

日本神経学会 専門医 指導医

日本内科学会 認定内科医 総合内科 専門医

日本プライマリ・ケア連合学会 認定医 指導医

日本医師会 認定産業医

<令和4年度実績>

令和4年度の入院件数は252件であった。

<令和5年度目標>

当科入院症例は救急および紹介症例が多数を占めるため、引き続き病診連携に努め神経救急患者の受け入れに努めていく。

6. 精神科

【副 部 長】 長岡 敦子

- 専門
精神科
- 資格・所属学会等
日本精神神経学会
日本生物学的精神医学会
日本統合失調症学会
精神保健指定医
精神科専門医・指導医

【医 師】 山本慎之助

- 専門
精神科
- 資格・所属学会等
日本臨床精神神経薬理学会
日本精神神経学会
精神保健指定医

【医 師】 戸田 亘

- 専門
精神医学
- 資格・所属学会等
日本精神神経学会
日本臨床神経生理学会

<令和5年度目標>

令和4年9月より精神科病棟は休止となった。常勤の精神科医1名での対応となったため、規模を縮小し、現在は身体合併症を有する認知症疾患及び精神疾患への対応を主に行っている。医療連携及び地域連携を大切に、円滑な診療体制を作っていく必要がある。

7. 小児科

【主任部長】 清水 裕美

- 専門
小児科一般

■資格・所属学会等

日本小児科学会 専門医 指導医
日本周産期・新生児医学会 専門医
日本新生児成育医学会
日本産婦人科・新生児血液学会

【部長】 今野 友貴

■専門

小児科一般

■資格・所属学会等

日本小児科学会 専門医
日本小児循環器学会
日本アレルギー学会
日本小児救急医学会
子どもの心相談医

＜令和4年度実績＞

外来は、感染症が多くを占めるが、特に思春期に多い、不登校のカウンセリングや起立性調節障害の治療などにも対応している。他の医療機関と連携を図りながら、小児の各領域の疾患に関して診療を行っている。一般外来のほか、腎臓、神経、心臓疾患の特殊外来や乳幼児健診・予防接種などを行っている。

入院は、気管支炎や胃腸炎などの感染症の治療のほか、食物経口負荷試験や成長ホルモン分泌刺激試験などにも対応している。新生児は、新生児一過性多呼吸、新生児感染症、低血糖症や高ビリルビン血症などの管理を行った。

また、学校医として健康教育に携わり、子ども虐待対応院内組織の活動なども積極的に行った。

＜令和5年度目標＞

常勤二人体制で、入院管理を再開することで、救急医療、二次医療の充実を図る。

また、予防接種や乳幼児健診および学校健診での要精検者の二次健診の拡充にも努める。

引き続き、産婦人科医と連携し、新生児の管理に当たっていく。

8. 外科

【主任部長】 遠藤 豪一

■専門

消化器外科、一般外科

■資格・所属学会等

日本外科学会 専門医 指導医
日本消化器外科学会 専門医 指導医
日本消化器外科学会 消化器がん外科治療 認定医
日本がん治療認定医機構認定医
マンモグラフィ検診精度管理中央委員会認定マンモグラフィ読影認定医
福島県立医科大学臨床教授
日本DMAT隊員

【部 長】 大須賀文彦〔腹腔鏡外科〕

▪ 専門

消化器外科、腹腔鏡外科

▪ 資格・所属学会等

日本外科学会 専門医 指導医

日本消化器外科学会 専門医

日本がん治療認定医機構認定医

日本消化器外科学会 消化器がん外科治療 認定医

日本癌治療学会

日本臨床外科学会

日本内視鏡外科学会

日本大腸肛門病学会

日本静脈経腸栄養学会

【副 部 長】 山内 直人

▪ 専門

外科一般

▪ 資格・所属学会等

日本外科学会 専門医

日本消化器外科学会

日本癌治療学会

日本臨床外科学会

日本内視鏡外科学会

【医 師】 塚田 学

▪ 専門

外科

▪ 資格・所属学会等

日本外科学会 専門医

日本消化器外科学会 専門医

日本消化器外科学会 消化器がん外科治療 認定医

日本臨床外科学会

日本内視鏡外科学会

【医 師】 望月翔太郎

▪ 専門

外科

日本外科学会

日本臨床外科学会

日本癌治療学会

【医 師】 今野 修(非常勤)

▪ 専門

消化器外科

▪ 資格・所属学会等

日本外科学会 認定医 専門医 指導医

日本消化器外科学会 専門医 指導医、消化器がん外科治療認定医

乳がん検診精度管理中央機構認定マンモグラフィ読影認定医

日本スポーツ協会公認スポーツドクター

認知症サポート医
日本人間ドック学会健診情報管理指導士
福島県災害医療コーディネーター
福島県肝炎医療コーディネーター

<令和4年度実績>

手術症例(一般外科手術症例)

1) 乳腺

乳腺悪性腫瘍手術 13例 (乳房温存手術4例)

2) 胃

胃悪性腫瘍手術 21例 (胃全摘術7例)

潰瘍穿孔手術 4例

3) 小腸

部分切除術 8例

4) 大腸(結腸)

結腸悪性腫瘍手術 40例 (腹腔鏡下手術32例)

その他 5例 (腹腔鏡下手術1例)

5) 直腸

直腸悪性腫瘍手術 22例 (直腸切断術2例)(腹腔鏡下手術13例)

その他 2例

6) 虫垂炎

虫垂切除術 19例 (腹腔鏡下手術19例)

7) 消化管(その他)

腹膜炎(胃潰瘍を除く)手術 3例

腸閉塞症手術 5例

8) 胆嚢

胆嚢結石症 67例 (腹腔鏡下手術58例)

胆嚢炎 20例 (腹腔鏡下手術15例)

胆嚢腫瘍 2例

9) ヘルニア

単径ヘルニア 99例 (腹腔鏡下手術29例)

大腿ヘルニア 3例

腹壁癒痕ヘルニア 9例

閉鎖孔ヘルニア 6例

10) その他

CVポート造設術 72例

皮下腫瘍 4例

その他 12例

<令和5年度目標>

基本的治療方針として、個々の患者様の状態、患者様の生活環境等にも配慮した適切な治療(手術)を行う事を目標としています。

悪性疾患において胃癌、大腸癌では現在は患者様の体への負担の少ない腹腔鏡下手術を導入しています。胃癌は早期胃癌において腹腔鏡下手術を施行しています。年々腹腔鏡手術の適応は拡大しており大腸癌においては進行癌も含め7割以上の患者様に腹腔鏡下手術を施行しています。また良性疾患において単径ヘルニアでは3割、胆石症では8割以上、虫垂炎では全例腹腔鏡下手術を施行しています。

令和5年度はさらに腹腔鏡下手術の適応を拡大していきたいと考えています。



9. 心臓血管外科

【部 長】 籠島 彰人

■ 専門

成人心臓、血管

■ 資格・所属学会等

日本心臓血管外科学会 専門医

日本外科学会 専門医

日本脈管学会 専門医

腹部ステントグラフト実施医 指導医

浅大腿動脈ステントグラフト実施医

日本血管外科学会

日本胸部外科学会

日本循環器学会

日本心臓血管外科学会

日本冠動脈外科学会

日本下肢救済学会

【医 師】 佐戸川弘之(末梢血管病センター長)

■ 専門

心臓血管外科学

■ 資格・所属学会等

日本心臓血管外科学会 専門医 修練指導者

日本外科学会 外科専門医 指導医

胸部外科学会 指導医

日本脈管学会 脈管専門医

日本静脈学会

日本循環器学会 循環器専門医

下肢静脈瘤に対する血管内治療実施基準による実施医 指導医

日本心臓血管内視鏡学会 指導医

腹部ステントグラフト実施医

<令和4年度実績> 2022年1月～12月

開心術（手術死亡0、在院死亡0、主要合併症0）

心拍動下冠動脈バイパス術 5例

大動脈弁置換術 6例

大動脈弁置換+冠動脈バイパス術 1例

僧帽弁形成+MAZE手術 1例

僧帽弁形成+三尖弁輪縫縮+MAZE手術 1例

左房粘液種 1例

末梢動脈疾患 51例（手術死亡0、在院死亡0、主要合併症0）

腹部大動脈瘤切除・人工血管置換術 6例

腹部大動脈ステントグラフト内挿術 8例

腸骨動脈コイル塞栓術 3例

大腿-大腿動脈バイパス術 2例

大腿-膝上膝窩動脈バイパス術 2例

腋窩-腋窩動脈バイパス術 1 例
 腋窩-両側大腿動脈バイパス術 1 例
 閉鎖行バイパス術 1 例
 内膜摘除・パッチ拡大術 4 例
 仮性瘤切除修復術 2 例
 血栓除去術 4 例
 血管内治療 16例

静脈・その他（手術死亡0、在院死亡0、主要合併症0）
 下肢静脈瘤血管内治療（レーザー焼灼） 9 例
 下肢静脈瘤血管内治療（塞栓術） 2 例
 ペースメーカー関連手術 1 例
 創傷処理 1 例
 その他 1 例

<令和5年度目標>

良好な治療成績の維持に努めます。



10. 呼吸器外科

【部 長】 管野 隆三(兼 感染管理室長)

■ 専門

呼吸器外科

■ 資格・所属学会等

日本外科学会 専門医 指導医
 日本胸部外科学会 専門医 指導医
 日本呼吸器外科学会 専門医 指導医
 日本消化器外科学会 認定医
 呼吸器外科専門医合同委員会認定呼吸器外科 専門医 評議員
 日本呼吸器内視鏡学会 認定気管支鏡 専門医 指導医
 日本がん治療認定医機構 認定医 暫定教育医
 福島県立医科大学 臨床教授 客員講師
 ICD(感染制御ドクター)

【副 部 長】 井上 卓哉

■ 専門

呼吸器外科

■ 資格・所属学会等

日本外科学会 専門医
 日本呼吸器外科学会 専門医
 日本がん治療学会 認定医
 日本胸部外科学会
 日本肺癌学会
 日本呼吸器内視鏡学会
 日本臨床外科学会
 日本バイオセラピー学会

<令和4年度実績>

呼吸器外科手術総数110件(胸腔鏡下手術81件、局所麻酔手術、気管切開は除く)
内訳：肺良性腫瘍手術4件、原発性肺悪性腫瘍手術47件、転移性肺腫瘍手術8件、膿胸に対する手術1件、特発性自然気胸手術28件、続発性気胸手術14件、その他8件

<令和5年度目標>

呼吸器外科手術総数120件を目標とする。特に原発性肺悪性腫瘍手術件数を増やすこと。引き続き、その他の良性呼吸器外科疾患、手術不能の肺癌に対する緩和療法を含めた治療症例の増加に努めること。

11. 整形外科

【部長】 村上 和也(兼リハビリテーション科部長)

■ 専門

足の外科、膝関節外科

■ 資格・所属学会等

日本整形外科学会認定 専門医

日本整形外科学会スポーツ 認定医

日本整形外科学会運動器リハビリテーション 認定医

日本膝関節学会評議員

東北膝関節研究会幹事

【副部長】 佐藤 法義

■ 専門

整形外科一般

■ 資格・所属学会等

日本整形外科学会 専門医

日本股関節学会

日本人工関節学会 認定医

骨折治療学会

【副部長】 小平 俊介

■ 専門

整形外科一般

■ 資格・所属学会等

日本整形外科学会 専門医

日本整形外科学会スポーツ 認定医

東北整形災害外科学会

東日本整形災害外科学会

日本人工関節学会

日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会

<令和4年度実績>

令和4年度の整形外科の年間新患患者数は1,358名と昨年度よりは減少していたが、年間手術件数は635件と昨年度より減少していたが、これは整形外科常勤医数が昨年度より0.5名減少したためと考えられる。手術の内訳は、人工関節置換術の数が年々増加しており、令和2年度が107件、令和3年度133件、令和4年度が160件となっていた。これは地域連携医療機関からの紹介が増えているためと考えられ、引き続き地域の連携を強め、手術成績の向上に努めていきたいと考えている。

<令和5年度目標>

令和5年度も令和4年度と変わらず、常勤医が村上和也、佐藤法義、小平俊介の3名のスタッフの陣容である。地域の救急医療を担うには少ないマンパワーではあるが、持っているパワーを最大限活かして、救急医療、地域連携医療機関からの紹介に丁寧に対応していきたいと考えている。



12. 脳神経外科

【院長】 鈴木 恭一

■ 専門

脳卒中の診断と治療

■ 資格・所属学会等

日本脳神経外科学会 専門医

日本脳卒中学会 専門医 指導医 評議員

日本脳卒中の外科学会 代議員

日本脳卒中の外科学会 技術指導医

日本脳神経外科光線力学学会 幹事

日本リハビリテーション医学会 認定

福島県立医科大学 臨床教授

■ トピックス

第15回鈴木二郎賞(日本脳卒中の外科学会)受賞

第24回中村隆賞金賞(東北脳血管障害懇話会)受賞

【部長】 市川 剛(兼 救急センター長 兼 脳卒中センター長)

■ 専門

脳神経外科一般、血管内治療

■ 資格・所属学会等

日本脳神経外科学会 専門医

日本脳卒中学会 専門医 指導医

日本脳神経血管内治療学会 専門医 指導医

日本脳卒中の外科学会 技術指導医

日本神経内視鏡学会 技術認定医

日本DMAT隊員

日本脳神経外科コンgres

日赤災害医療コーディネーター

福島県立医科大学 臨床教授

【医 師】 黒沢 瑞穂

▪ 専門

脳神経外科

▪ 資格・所属学会等

日本脳神経外科学会

日本脳神経脳血管内治療学会

日本小児神経外科学会

【医 師】 鎌村 美歩

▪ 専門

脳神経外科

＜令和4年度実績＞

I. 診察

昨年度の入院患者総数は512名であり、その内訳は、脳血管障害が284例(脳梗塞：159例、脳出血：76例、くも膜下出血：21例、未破裂脳動脈瘤：19例、脳動静脈奇形・硬膜動静脈瘻：3例、もやもや病：6例)、脳腫瘍が11例、頭部外傷が79例、てんかんが16例、水頭症・奇形が3例、機能的疾患が3名、感染症が50例、その他が66例であった。

手術件数は120例で、そのうち開頭手術は27例で、脳動脈瘤クリッピング術：7例、脳内血腫除去術：4例、脳腫瘍摘出術：4例、脳動脈吻合術：3例、神経血管減圧術：3例、急性硬膜下血腫除去術：2例、頭蓋形成術：2例、その他：2例であった。血管内手術は46例であり、脳動脈瘤コイル塞栓術：14例、頸部頸動脈ステント留置術：8例、機械的血栓回収術：16例、塞栓術：5例、脳動脈瘤フローダイバーター留置術：2例、脳血管ステント術：1例であった。それ以外の手術は47例で、慢性硬膜下血腫：37例、水頭症手術：5例、神経内視鏡手術：2例、その他：3例であった。

II. 教育

リハビリテーションカンファランス：脳卒中急性期リハビリテーションによる更なる機能改善を目指して、医師・リハビリテーションスタッフ・看護師・栄養士による入院患者さんの検討会を2回/月で開催した。

脳神経内科・脳神経外科合同カンファランス：脳疾患治療の進歩に迅速に対応するための勉強会を第2、4月曜に開催した。研修医も参加し、当院における脳疾患治療の底上げを目指している。

回復期リハビリテーション施設との症例検討会：不定期ではあるが開催して、顔の見える関係を構築し、県北地域の脳卒中治療成績の向上を目指している。

若手医師・スタッフを対象とした教育セミナー：例年、脳神経外科治療のスキルを向上させるため、血管内治療(カテーテル)のハンズオンや、顕微鏡手術下での縫合練習等を開催した。

III. 社会貢献

当病院長の鈴木恭一が日本脳卒中協会福島県支部副支部長を務めており、日本脳卒中協会との共同事業として講演会を例年開催している。令和4年度も医療機関向けの講演会を開催し、脳卒中の予防と治療に関する啓蒙を行なった。なお、例年開催していた福島県脳卒中市民公開講座は、コロナ禍のために令和4年度の開催は中止となった。

IV. 研究

主に脳卒中に関する臨床研究を継続して行い、その成果を国内外の学会で発表した。福島医大脳神経外科を中心に行っている臨床研究にも参加・協力している。

＜令和5年度目標＞

I. 診察

令和4年度も福島医大脳神経外科から医師を派遣していただいた(令和3年4月から令和4年10月まで鎌村美歩医師が、令和4年4月から黒沢瑞穂医師、10月から鳴瀬悠医師が令和5年3

月まで勤務)。今年度も継続して小祝萌医師、本多潤医師を派遣していただいております、診療のレベルアップを目指したい。

当院の使命として、県北医療圏における重症疾患や緊急手術への対応が挙げられる。新病院移転時(令和元年)に最新式の脳血管装置を導入した。手術用顕微鏡も更新し、併せて手術用ナビゲーションシステムを導入した。ナビゲーションシステムは、病変や重要な神経路の位置を確認しながら顕微鏡手術を進めることを可能とするもので、県北医療圏では福島医大病院と当院のみに設置されている。加えてこれまで積極的に取り入れてきた血管内治療や神経内視鏡手術を組み合わせることにより、従来は対応が困難であった手術をより安全で確実に行うことが可能となった。今後引き続き良好な医療を続けたい。

平成29年に開設した「脳神経・脳卒中センター」も機能している。脳卒中はもちろんのこと脳神経疾患全般を脳神経外科医、脳神経内科医が協力して行うことで、神経疾患に対する診療レベル向上が得られた。特に当院は、脳卒中に対する県北地域の基幹病院であることから、多職種スタッフと協力しながら、脳卒中センターの実績を積み重ねていきたい。

脳神経外科疾患においては、急性期治療のみ上手くいけば良いというものではない。急性期から慢性期まで切れ目のない治療の継続が求められる。地域の医療機関や回復期リハビリテーション病院との連携をより一層強化し、患者さんの満足度が高まることを目指したい。

II. 教育

当院は、日本脳神経外科学会専門医研修連携施設の他、日本脳卒中学会研修教育施設、日本脳神経血管内治療学会研修施設に認定されている。特に日本脳神経血管内治療学会研修施設は福島県内に3カ所のみであり、血管内治療医を目指す若手の教育を継続していきたい。脳卒中の外科認定技術指導医、神経内視鏡学会技術認定医も在籍しており、脳神経外科全般にわたる指導も継続していく。臨床研修指定病院としての役割も担う当院は、初期研修医の教育にも重点を置いていく。脳神経外科治療を院内の多職種で共有出来るような教育の場を増やし、スタッフの学会発表・論文作成を支援することにより、病院全体のレベルアップに努めていきたい。

III. 社会貢献

日本脳卒中協会福島県支部の活動を継続し、脳卒中の予防、早期治療の重要性などに関する啓発活動を中心として社会貢献に努めていきたい。福島県循環器病推進計画にも記載されているが、救急隊と連携し、県北地域の脳卒中治療の成績向上を目指したい。

13. 皮膚科

【部 長】 元木 良和

■ 専門

皮膚科一般

■ 資格・所属学会等

日本皮膚科学会 専門医

福島県立医科大学 臨床教授

<令和4年度実績>

統計のページを参照。

<令和5年度目標>

福島医大皮膚科と連携して、診療の質の維持・向上を図る。

14. 形成外科

【部 長】 浅井 笑子

▪ 専門

形成外科一般

再建外科

▪ 資格・所属学会等

日本形成外科学会 専門医 領域指導医

皮膚腫瘍外科 分野指導医

日本創傷外科学会 専門医 分野指導医

＜令和4年度実績＞

令和4年4月1日～令和5年3月31日までの手術件数476件（うち全身麻酔12件）

＜令和5年度目標＞

患者さんが快適で安心して受けられる医療を、単独で可能な範囲内で提供していく。

15. 泌尿器科

【医 師】 本田瑠璃子

▪ 専門

泌尿器科一般

▪ 資格・所属学会等

日本泌尿器科学会 専門医

日本小児泌尿器科学会

日本泌尿器内視鏡学会

日本排尿機能学会

日本泌尿器腫瘍学会

日本癌治療学会

【医 師】 丹治 亮

▪ 専門

泌尿器科一般

▪ 資格・所属学会等

日本泌尿器科学会 専門医

日本泌尿器内視鏡学会

日本排尿機能学会

日本泌尿器腫瘍学会

日本癌治療学会

【外 部 医】 丹治 進

▪ 専門

泌尿器科一般

■ 資格・所属学会等

日本泌尿器科学会 専門医 指導医
日本性機能学会 専門医
岩手医科大学 泌尿器科客員教授

<令和4年度実績>

経直腸式前立腺生検術：65件

MRI/TURS融合型経会陰式前立腺生検術：49件

TURBT：36件

<令和5年度目標>

常勤医3名、非常勤医1名(水曜日)にて、外来診療を行います。

前立腺生検や経尿道的膀胱腫瘍切除術の他、腹腔鏡下仙骨陰固定術や陰嚢水腫手術等も行います。地域の皆様のお役に立てるよう努めて参ります。

16. 産婦人科

【部 長】 矢澤 浩之

■ 専門

内視鏡手術
(腹腔鏡下手術、子宮鏡下手術)
婦人科腫瘍学、不妊症

■ 資格・所属学会等

日本産科婦人科学会 専門医
日本産科婦人科内視鏡学会 技術認定医
日本生殖医学会 生殖医療専門医
福島県立医科大学 臨床教授

【副 部 長】 大原 美希

■ 専門

産婦人科

■ 資格・所属学会等

日本産科婦人科学会 専門医
日本産科婦人科内視鏡学会
日本生殖医学会、日本人類遺伝学会
日本遺伝カウンセリング学会

【医 師】 福田 薫

■ 専門

産婦人科

■ 資格・所属学会等

日本産科婦人科学会 専門医
日本産科婦人科内視鏡学会
日本女性医学学会

【医 師】 矢澤 里穂

▪ 専門

産婦人科

▪ 資格・所属学会等

日本産科婦人科学会

日本産科婦人科内視鏡学会

＜令和4年度実績＞

子宮筋腫や卵巣腫瘍など婦人科良性疾患に対しては患者様の負担軽減のため可能な限り低侵襲性手術(内視鏡下手術)を選択してきた。学会や研修会に積極的に参加し内視鏡下手術のスキルアップに努めその適応拡大を行っています。「より多くの患者様へ、より質の高い内視鏡手術の提供」を目標として掲げ、当院で診療を受けられる患者様、特に手術を受けられる患者様のQOLの向上に心掛けるべく日々研鑽を重ねています。

その他、骨盤性器脱の管理や性感染症の診断治療など多くの産婦人科疾患に対応できる体制で診療を行っています。

婦人科悪性疾患では、診断、治療から終末期管理や在宅医療への移行まで一貫した管理を行ってきたが、医師不足の現状を鑑み、本年度より新規患者の受け入れを一時制限させて頂いているのが現状です。

産科診療では、外来妊婦健診および周産期管理を行っているが、医師不足の現状を鑑み、来年度以降、産科診療を一時停止とさせて頂く方針としました。

不妊症治療では、妊娠に関する相談、タイミング法、腹腔鏡下による検査、治療から顕微授精を含むART治療までを一貫して行ってきたが、新病院での診療体制に合わせて平成30年度よりART治療は中止としました。

＜令和4年度手術実績＞(2022年)

総手術件数：362件(前年より件増)

悪性腫瘍・境界悪性腫瘍に対する根治手術：18件

腹腔鏡下手術：192件(卵巣腫瘍：87件、子宮全摘：73件、筋腫核出：12件、異所性妊娠：4件、骨盤臓器脱：4件、など)

子宮鏡下手術：5件

開腹子宮全摘術：47件

開腹子宮筋腫核出術：20件

開腹卵巣腫瘍手術：4件

円錐切除術：33件

骨盤臓器脱手術：4件

帝王切開：42件 など

分娩件数：187件 [うち帝王切開：42件(22.5%)]

＜令和5年度目標＞

- * 学会や研修会に積極的に参加し、最新の診断、治療法の習得や手技の向上に努めます。
- * 婦人科診療は、主に良性子宮腫瘍(子宮筋腫等)、良性卵巣腫瘍で手術を要する患者様の治療を中心に行っており、特に、低侵襲手術である内視鏡手術(腹腔鏡・子宮鏡手術)を積極的取り入れ、これまで通り「より多くの患者様へ、より質の高い内視鏡手術の提供」をモットーとし手術適応の拡大し、手術を受けられる患者さまのQOLの向上に心掛けるべく日々研鑽を重ねていきます。
- * 初期研修医、後期研修医がさらに充実した研修を行えるように努めます。
- * 産科診療、婦人科悪性腫瘍手術について：
産婦人科医不足の現状を鑑み、当院での産科診療および婦人科悪性腫瘍の手術に付きましては本年度をもちまして一時休診とさせて頂きます。
診療体制が整い次第、産科診療の再開、婦人科診療の再拡大を目指して行く所存であります。

17. 眼科

【部長】 山田 文子

■ 専門

白内障手術

■ 資格・所属学会等

日本眼科学会 専門医

日本眼科手術学会

日本眼循環学会

日本コンタクトレンズ学会

福島県立医科大学 臨床教授

福島県立医科大学 研修指導医

【視能訓練士】 秋山 妙子、湯野川樹理、渡邊 恵、塩田 美弥

<令和4年度実績>

統計ページを参照。

他に周辺虹彩切除術、結膜囊部分形成術、霰粒腫摘出術、後発白内障切開術、網膜光凝固術、虹彩光凝固術など施行。

<令和5年度目標>

軽微な疾患で定期通院している近隣在住の患者様を地域の先生方にお任せする一方、急患を含め入院対応や他科との連携の必要な患者様を積極的に受け入れ、地域に貢献したい。白内障手術を中心にクリニックの先生方の手に余る難易度のやや高い手術手技を要する方、社会的家族的支援の脆弱な方、認知症や精神的に弱く局麻下手術に難のある方などを引き受けるよう努力する。またクリニカルパスを最大限活用し、外来・病棟・手術室他のスタッフの負担を軽減し、効率よく入院手術加療を施行したい。ERを通していないためか当院で眼科の急患も承っていることが院内でも浸透しておらず、診療時間以外、当科の知らないうちにお断りしてしまう現状を改善したい。

18. 耳鼻咽喉科

【主任部長】 多田 靖宏(兼 嚥下・ボイスセンター長

兼 鼻・副鼻腔センター長 兼 医療情報部門責任者)

■ 専門

耳鼻咽喉科一般、音声外科領域(声帯ポリープ・声帯麻痺)

鼻副鼻腔領域(慢性副鼻腔炎、アレルギー性鼻炎、鼻中隔湾曲症)

気管食道科領域(嚥下障害)、医療情報学領域鼻

■ 資格・所属学会等

日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会 専門医 指導医

日本気管食道科学会 認定専門医

日本音声言語医学会 音声言語認定医

日本鼻科学会

日本喉頭科学会

日本嚥下医学会
日本耳鼻咽喉科臨床学会
日本頭頸部外科学会
補聴器相談医
喉頭形成手術実施医
福島県立医科大学臨床教授
福島県立医科大学非常勤講師

【部 長】 三浦 智広(兼 嚥下・ボイスセンター副センター長
兼 鼻・副鼻腔センター副センター長)

■ 専門

耳鼻咽喉科疾患一般
耳鼻咽喉科救急疾患
鼻副鼻腔領域、血管性浮腫

■ 資格・所属学会等

日本耳鼻咽喉科学会 専門医 指導医
補聴器相談医
日本鼻科学会
日本頭頸部癌学会
日本頭頸部外科学会医
日本嚥下医学会 相談医

【医 師】 大河内幸男(非常勤)

■ 専門

耳鼻咽喉科一般

■ 資格・所属学会等

日本耳鼻咽喉科学会 専門医
日本気管食道科学会 専門医
日本耳科学会
日本鼻科学会
耳鼻咽喉科臨床学会

【外 部 医】 松井 隆道(非常勤)

■ 専門

耳鼻咽喉科一般
耳科領域

■ 資格・所属学会等

日本耳鼻咽喉科学会 専門医
日本耳科会
補聴器適合判定医師

【外 部 医】 谷 亜希子(非常勤)

■ 専門

耳鼻咽喉科一般、音声嚥下領域
鼻副鼻腔領域、気管食道領域

■ 資格・所属学会等

耳鼻咽喉科専門医 気管食道科専門医
耳鼻咽喉科専門研修指導医
日本医師会 認定産業医

<令和4年度実績>

令和4年度の入院患者数は236名で、その内訳は手術目的の予定入院150名、救急入院は86名であった。手術症例は全身麻酔107名、局所麻酔34名であった。

<令和5年度目標>

1. 国内および国際学会で積極的に発表を行う。
2. 手術研修や講習会に積極的に参加する。
3. 各専門外来を充実させ、より専門的な治療を提供する。
4. 耳鼻咽喉科に関わるコ・メディカルと連携し、チーム医療を充実させる。

19. 放射線科

【部 長】 菊田 学(放射線科部長)

■ 専門

画像診断(特にCT・MRI)

■ 資格・所属学会等

日本医学放射線学会専門医

【技 師 長】 佐藤 勝行(放射線科部技師長)

【課 長】 相澤 浩樹(第1放射線技術課長 兼 一般撮影係長)

阿部 直人(第2放射線技術課長)

【係 長】 海藤 隆紀(第2放射線技術課画像情報係長)

【診療放射線技師】 菅野 徹、五十公野純子、伊藤 美穂、三次 鏡太、明田 充弘、

佐藤 竜馬、玉根 勇樹、外山 歩、佐藤 香歩、島田 翔平

【放射線科助手】 八巻 弘美

<令和4年度実績>

1. 検査件数

(単位：件)

	令和3年度	令和4年度
CT検査	13,063	12,921
MRI検査	5,933	5,696
血管撮影	652	535
一般撮影	30,073	28,733
乳房撮影	1,803	1,601
透視撮影	1,367	1,303
骨密度測定	565	544
ポータブル	4,627	4,365
術中透視	427	388
PACS取込・複写	5,593	6,026

<令和5年度目標>

1. 院内接遇No.1の放射線科部を目指す

2. 事故のない安全な検査に努める
3. 病院を良くするための取り組みを行う
4. 勉強会・研究会等へ積極的に参加する
5. 医療被ばく線量管理の分析と報告
6. 感染防止対策の徹底

<研修会・Web研修会>

1. 令和4年度 日本赤十字社診療放射線技師学術総会
令和4年6月3日(金)～4日(土) 三次 鏡太
2. 第21回 福島県MR技術研究会
令和4年6月4日(土) ～腹部・骨盤領域のMRI～ 海藤 隆紀
3. 第4回 福島県CTテクニカルセミナー
令和4年6月10日(金) ～CTによるSurgicalSupport～ 佐藤 勝行、相澤 浩樹
4. 第19回 東北MR技術研究会
令和4年7月9日(土) ～頭部領域のMR撮影技術～ 海藤 隆紀
5. 県北地区協議会 夏季勉強会 ～CT装置の現状、ZIO～
令和4年9月3日(土) 佐藤 勝行、相澤 浩樹、阿部 直人、海藤 隆紀
6. 2022年度 第1回 アンギオ研究会セミナー ～冠動脈検査・PCIの基礎を学ぶ～
令和4年7月30日(土) 明田 充弘
7. 第22回 県北MDCTカンファレンス ～CTの物理特性 信号ノイズについて～
令和4年10月15日(土) 佐藤 勝行、相澤 浩樹、五十公野 純子、玉根 勇樹、外山 歩
8. 第8回 福島県血管撮影技術セミナー(FANTA)
令和4年10月15日(土) 福島県立医科大学福島駅前キャンパス 海藤 隆紀
9. 令和4年度 福島県放射線技術学術大会
令和4年10月30日(日) 福島県立医科大学保健科学部 相澤 浩樹、海藤 隆紀、玉根 勇樹
10. 令和4年度 日本赤十字社放射線技師会東北ブロック研修会
令和4年11月26日(土) 佐藤 勝行、相澤 浩樹、阿部 直人、海藤 隆紀
五十公野 純子、佐藤 竜馬、玉根 勇樹
11. 県北地区協議会 冬季勉強会 ～動態撮影について、MRIの現状～
令和5年2月4日(土) 佐藤 勝行、相澤 浩樹、阿部 直人
12. 第52回 日本心血管インターベンション治療学会(CVIT)
令和5年2月4日(土) コラッセ福島 海藤 隆紀、明田 充弘、佐藤 竜馬
13. 第59回 神奈川アンギオ研究会
令和5年3月16日(木) ～外傷と内因性のIVR～ 玉根 勇樹
14. 第33回 仙台乳房撮影研究会
令和5年3月18日(土) ～マンモグラフィの基本～ 五十公野 純子

<研修会等発表>

1. 第22回 県北MDCTカンファレンス
令和4年10月15日(土) 福島学院大学 駅前キャンパス
「CT装置のHybridIRAI DR 3Dの評価と検討」 外山 歩
2. 令和4年度 診療放射線技師会学術大会
令和4年10月30日(日) 福島県立医科大学保健科学部
「当院CT装置における表示値と測定値の関係」 玉根 勇樹
3. 令和4年度 日本赤十字社放射線技師会東北ブロック研修会
令和4年11月26日(土)
「当院における二度の院内感染クラスターについて報告」 佐藤 竜馬

<原子力災害関連研修>

1. 令和4年度 第1回 日本赤十字社原子力災害対応基礎研修(第1ブロック)
令和4年7月23日(土) 福島赤十字病院研修棟
(線量計の使用方法について:講師) 海藤 隆紀
2. 令和4年度 原子力災害医療基礎研修
令和4年8月7日(日) 福島赤十字病院研修棟
(線量防護、汚染除去・除染について:講師) 海藤 隆紀



20. 麻酔科

【部長】 出羽 明子

■ 専門

手術麻酔、緩和ケア、带状疱疹後神経痛

■ 資格・所属学会等

日本麻酔科学会 専門医
日本臨床麻酔学会
日本緩和医療学会
日本ペインクリニック学会
福島県立医科大学 臨床教授

【副部長】 江花 英朗

■ 専門

手術麻酔

■ 資格・所属学会等

日本麻酔科学会 専門医
周術期経食道心エコー(JB-POT) 認定医
日本臨床麻酔学会
日本集中治療医学会
日本心臓血管麻酔学会

【医 師】 安達 守

▪ 専門

星状神経節ブロック

▪ 資格・所属学会等

日本麻酔科学会 専門医

<令和4年度実績>

麻酔管理件数	1,712件
ペインクリニック	94件
緩和ケア	48件
薬物中毒	2件
初期研修医	12名

<令和5年度目標>

安全な手術麻酔と緩和ケアの充実
院内急変対応チームによる重症患者への迅速な対応

21. リウマチ・膠原病内科

【医 師】 宮田 昌之(リウマチ・膠原病センター長)

▪ 専門

リウマチ、膠原病、アレルギー疾患

▪ 資格・所属学会等

日本内科学会 総合内科専門医 指導医
アメリカ内科学会 専門医
日本プライマリ・ケア連合学会 認定医 指導医
日本リウマチ学会 専門医 指導医
日本アレルギー学会 専門医 指導医
日本消化器病学会 専門医
日本肝臓学会 専門医
福島県立医科大学 臨床教授
診療情報管理士

【医 師】 松岡 直紀

▪ 専門

リウマチ膠原病

▪ 資格・所属学会等

日本内科学会 認定内科医
日本消化器病学会 消化器病専門医
日本消化器内視鏡学会 消化器内視鏡専門医
日本リウマチ学会 リウマチ専門医

【外 部 医】 田中 健一

▪ 専門

腎臓病・透析

■資格・所属学会等

日本腎臓学会 専門医 指導医
日本透析医学会 専門医 指導医
日本高血圧学会 専門医 指導医
日本内科学会 総合内科専門医 指導医

当科ではリウマチ・膠原病を中心に不明熱なども含めて複雑な病態の患者さんを診療しております。

リウマチ・膠原病は一般に認知度が低いと思われますが慢性的な痛みなどに苦しんでいる患者さんは非常に多くおられます。整形外科が担当する患者さんも多くおられますがリウマチ・膠原病の患者さんが非常に多く潜んでおります。この領域は免疫学、炎症学や分子生物学と非常に関連が深くこれらの分野の進歩とともに診療内容も変貌してまいりました。

いわゆるリウマチ・膠原病の中には自己抗体の検出されない病気があるのはご存じかと思えます。例えば高安病、仙腸関節炎、乾癬性関節炎などは自己抗体が検出されない病気であります。リウマチ・膠原病は自己抗体が検出され獲得免疫異常が主に病態形成に関与している病気群と自己抗体が検出されない自然免疫異常が主に病態形成に関与している病気群に分けて分類されるようになりました。当科ではいずれも診断治療の対象として診療しております。

診療や治療での進歩が速い領域かと思えます。多岐にわたる進歩を導入するため多職種の方の診療協力を得ながら診療しております。

診療の進歩の一例は分子生物学的手法を用いて開発された自己抗体の測定です。膠原病の多くはそれぞれの疾患の特徴となる自己抗体を持っております。この新しい自己抗体の発見、臨床の現場での応用はとてリウマチ・膠原病疾患の診断に有用です。疾患によって異なりますが自己抗体を測定することで診断から、治療法、その患者さんの予後まで予測可能な場合もあります。

また、最近の画像診断の発展により診断が困難であった疾患も比較的容易に診断できるようになりました。例えば関節リウマチにおける関節エコー検査とか仙腸関節炎におけるMRIの応用、高安病におけるPETの応用などです。高安病は造影CTなどでもある程度診断が可能です。PETは全身を一度に検査することができその有用性が認められ保険収載されております。

免疫学、分子生物学的技術の進歩によって病態が次第に解明され20年ほど前までほとんど有効な治療がなかった関節リウマチにおいては抗サイトカイン療法やJAK阻害薬(Janus kinase inhibitor)などを用いて炎症を根本的に抑え込むこともできるようになりました。

当科ではこれらの診療、治療の進歩をいち早く取り入れてリウマチ・膠原病の患者さんの診療にあたっております。リウマチ学会、アレルギー学会、臨床リウマチ学会、内科地方会、リウマチ地方会などのほか関連の研究会でも発表をおこない、まとまった報告については論文化するように心がけております。

リウマチ・膠原病内科では患者さんの全身を診療いたします。プライマリケア習得が目標の臨床研修にも力を入れており、研修で得たことについては発表の機会を設けて症例を掘り下げ考えるような習慣を身に付けていただくことに心掛けております。



22. 病理診断科

【部 長】 田崎 和洋(兼 検査部長)

■専門

外科病理学一般
悪性リンパ腫の病理

■資格・所属学会等

日本病理学会 認定病理専門医 指導医

日本臨床細胞学会 認定細胞診専門医 指導医
日本リンパ網内系学会
福島県立医科大学 臨床教授

【課 長】 根本 浩(検査部病理検査課長)

【係 長】 佐藤 由峰(検査部病理検査係長)

【技 師】 石川 梓(臨床検査技師)
三浦 義喜(臨床検査技師)

<令和4年度実績>

組織診断件数	3,326件
術中迅速組織診断件数	136件
細胞診断件数	3,664件
術中迅速細胞診断件数	191件 (EUS-FNA 6件を含む)
病理解剖件数	2件
組織ブロック総数	12,599個

<令和5年度目標>

- ・医療安全上、きわめて重大な問題となる「担当医による病理診断書の見落とし」の根絶を目指すため、週毎に前2週間分の未閲覧症例を抽出し担当医に報告するとともに、毎月開催される報告書確認対策チームのカンファレンスに参加し、集計した未閲覧数を次月の医局会にて報告する。
- ・ルーティンにて提出された病理検体については、免疫染色を要する症例や難解例を除き、可能な限り速やかに報告書を発行するように努める(turnaround timeの短縮)。
- ・報告書に標本のマクロまたはミクロ写真を添付し、診療担当医に理解しやすく、同時に患者様にも説明しやすい報告書の作成を心がける。
- ・外科系(呼吸器外科、乳腺外科、婦人科他)および消化器内科との連携によるコンパニオン診断(外注によるEGFR, PD-L1, ALK, HER2, RAS/BRAF, MSI 検査etc.)を円滑に進める。
- ・細胞診検討会を月に一度開催して診断困難事例や組織診断との乖離を認めた症例等について改めて検討を行い、細胞検査士と病理医両者の問題意識を共有するとともに診断のスキルアップに努める
- ・剖検例を用いたCPC(臨床病理検討会)に向けて、研修医が症例の概要をプレゼンテーションしやすい環境を整える。

23. 救急科

【部 長】 市川 剛(兼 脳神経外科部長 兼 救急センター長 兼 脳卒中センター長)

■ 専門

脳神経外科一般、血管内治療

■ 資格・所属学会等

日本脳神経外科学会 専門医

日本脳卒中学会 専門医 指導医

日本脳神経血管内治療学会 専門医 指導医

日本脳卒中の外科学会 技術指導医

日本神経内視鏡学会 技術認定医
日本DMAT隊員
日本脳神経外科コンgres
日本災害医療コーディネーター
福島県立医科大学 臨床教授

【副 部長】 大久保 怜子

■ 専門

救急医療

■ 資格・所属学会等

日本救急医学会 救急科専門医

日本集中治療学会

日本外傷学会

日本航空医療学会

日本集団災害医学会

＜令和4年度実績＞

当院は、県北医療圏における2次救急医療の基幹施設です。核となる部署は救急センターで、内科的疾患や外傷の他、心疾患、脳疾患等の多岐にわたる病態に対応しています。また、救急看護認定看護師を中心に看護体制の強化も図っています。

令和4年度救急車受け入れ台数は3,636件、搬入患者の入院割合は46.3%、Walk-inの救急患者数は3,106名と、地域の急性期医療に大きく貢献しています。

＜令和5年度目標＞

病院移転の際に、最新設備と医療機器をそろえた救急センターを設置しました。ER(救急外来)、救急病床12床、HCU8床(将来的には12床での運用予定)、さらに循環器センター、脳卒中センターを整備しています。ERアクセスが良く、CT・MRI等の診断医療機器も充実しており、搬入後の検査や処置、治療まで迅速に行うことができます。発症から治療までの経過時間が重要な血管障害に対してはPhilips社製の最新の血管撮影装置を2台導入し、24時間体制で対応しております。感染症等に対応できる陰圧室の他、屋上にはヘリ搬送対応のためヘリポートを投置しています。

また当院ではER型の救急診療を行っております。平日日中は救急専門医1名が常駐し初期診療を行い、各専門診療科と密接に連携し対応しています。専門性の高い疾患や紹介患者さんにつきましては初療より各専門科が関わり、速やかな診断・治療を進められる体制としています。夜間・休日は当直医師が診療し、院内各科や地域の各病院に適切につなげられる診療を行っております。

今後も円滑な救急車の受け入れと各医療機関や施設からの救急要請への対応を行い、県北医療圏の救急医療に貢献しつづけたと考えております。

24. リハビリテーション科

【部 長】 村上 和也(整形外科部長 兼 リハビリテーション科部長)

■ 専門

足の外科、膝関節外科

■ 資格・所属学会等

日本整形外科学会 認定専門医

日本整形外科学会 スポーツ認定医

日本整形外科学会 運動器リハビリテーション認定医
日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 評議員 東北膝関節研究会幹事

【係 長】 大室 祐司(第1リハビリテーション科係長)

■ 資格・所属学会等

柔道整復師、心臓リハビリテーション指導士、3学会合同呼吸療法認定士、
認定理学療法士(呼吸)、認定理学療法士(循環)、登録理学療法士

藤橋 伸弘(第2リハビリテーション科係長)

■ 資格・所属学会等

心臓リハビリテーション指導士、認定理学療法士(循環)、登録理学療法士
AHA・BLSプロバイダー、福祉住環境コーディネーター2級

【理学療法士】 近澤久美子

■ 資格・所属学会等

認知症ケア専門士、認定理学療法士(脳卒中)、登録理学療法士、介護支援専門員

相田 悦子

鈴木かおり

■ 資格・所属学会等

登録理学療法士

三浦 友輔

■ 資格・所属学会等

3学会合同呼吸療法認定士、認定理学療法士(呼吸)、登録理学療法士、AHA・
BLSプロバイダー

金子みなみ

■ 資格・所属学会等

3学会合同呼吸療法認定士、登録理学療法士、福祉住環境コーディネーター2級

渕澤 慎也

■ 資格・所属学会等

3学会合同呼吸療法認定士

大室 康騎

秋本 礼智

■ 資格・所属学会等

認定理学療法士(運動器)、登録理学療法士

萩原 幸樹

菅野 颯海

【作業療法士】 高橋 美和

川瀬ゆかり

■ 資格・所属学会等

AHA・BLSプロバイダー

橋本 楓

■ 資格・所属学会等

認知症ライフパートナー 2 級、AHA・BLSプロバイダー、
肝炎医療コーディネーター

菅野 尚之

【言語聴覚士】 齋藤 隆徳

■ 資格・所属学会等

日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士

佐藤 藍里

■ 資格・所属学会等

肝炎医療コーディネーター

東海林祐実

■ 資格・所属学会等

肝炎医療コーディネーター

菅野 信世

【事務】 鈴木真紀子(派遣事務員)

<令和4年度実績>

1. リハビリテーション業務実績

(単位：人)

部 門	実患者数合計	延べ患者数合計	総単位数
理学療法部門	2,005	25,571	32,514
作業療法部門	944	10,480	13,552
言語聴覚療法部門	762	6,715	7,215

2. 耳鼻咽喉科外来業務(音声外来患者対応)

3. カンファランス開催・参加

- ・ 整形外科ケースカンファランス
- ・ 脳血管疾患リハビリカンファランス
- ・ 呼吸器疾患リハビリカンファランス
- ・ 心大血管疾患リハビリカンファランス
- ・ 各種ケースカンファランス

4. チーム(委員会)活動への参加

- ・ EAT
- ・ NST
- ・ RST
- ・ 早期離床リハビリテーションチーム
- ・ 褥瘡対策チーム

- ・肝炎治療チーム
- ・認知症ケア委員会
- ・緩和ケア委員会

<令和5年度目標>

- 方針
 - (1)患者満足度と職務満足度の向上
 - (2)質の高いリハビリテーションの提供
 - (3)病院収益への貢献
 - (4)人材育成
- 具体的目標
 - (1)処方された全ての患者様への、適切なリハビリテーションの提供
 - (2)ハード面、ソフト面の充実
 - (3)地域連携パスの適切で効果的な運用
 - (4)診療報酬改定に対応した規定範囲内での算定の最大化
 - (5)業務改善の提案
 - (6)他部門との連携強化
 - (7)各種リハビリテーション文書の統一化
 - (8)臨床実習の受け入れの実施

25. 薬剤部

【部 長】 市橋 淳

■資格・所属学会等

ケアマネージャー(福島県介護支援専門員)

【課 長】 緑上 淳一(薬品管理課長)

渡部 寿康(調剤製剤課長 兼 調剤製剤係長)

■資格・所属学会等

がん薬物療法認定薬剤師

緩和薬物療法認定薬剤師

ケアマネージャー(福島県介護支援専門員)

日病薬病院薬学認定薬剤師

日本薬剤師研修センター認定薬剤師

日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師

日本DMAT隊員

麻薬教育認定薬剤師

日本アンチドーピング機構スポーツファーマシスト

福島市学校薬剤師

川村 早苗(病棟業務課長)

■資格・所属学会等

日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師

【係 長】 酒井 亮(薬品管理係長)

■ 資格・所属学会等

日病薬病院薬学認定薬剤師

日本DMAT隊員

日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師

【主 任】 佐藤 南

齋藤可奈子

■ 資格・所属学会等

外来がん治療認定薬剤師

日本薬剤師研修センター認定薬剤師

日本アンチドーピング機構スポーツファーマシスト

【薬 剤 師】 武藤 芳和

■ 資格・所属学会等

日病薬病院薬学認定薬剤師

日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師

安齋 英里

菊地 洋平

■ 資格・所属学会等

日病薬病院薬学認定薬剤師

外来がん化学療法認定薬剤師

大竹麻衣子

■ 資格・所属学会等

日病薬病院薬学認定薬剤師

医療情報技師

古賀 彩織

■ 資格・所属学会等

日病薬病院薬学認定薬剤師

心不全療養指導士

寺内優紀恵

■ 資格・所属学会等

日本糖尿病療養指導士

佐藤 綾香(～4/30)

黒田 彩佳(～8/31)

矢葺 優佳

■ 資格・所属学会等

日病薬病院薬学認定薬剤師

猪股 育美

■ 資格・所属学会等

日病薬病院薬学認定薬剤師

西丸未希翔(8/1～)

藤田 麻実(臨時薬剤師)

【薬剤助手】 太田 順子、板垣かなえ(～6/30)、安倍 由紀、齋藤 智美(7/1～)

<令和4年度実績>

1. 薬剤管理指導件数 月平均：479件
2. 病棟薬剤業務実施加算算定
3. 退院時薬剤情報管理指導数 月平均：343件
4. 6年制薬剤師長期実務実習受入件数
 - Ⅱ期(令和4年5月23日～8月7日) 3名
 - Ⅲ期(令和4年8月22日～11月6日) 4名
 - Ⅳ期(令和4年11月21日～2月12日) 1名
5. 化学療法ミキシング件数
 - 外来実施件数：1,413件
 - 入院実施件数：325件

6. 学会・研修会発表

発表年月日 (西暦)	演題・テーマ・タイトル等	学会名・研究会名等	発表者
2022/04/06	研修医対象 処方・注射オーダーの方法と注意点	福島赤十字病院薬剤部	緑上 淳一
2022/04/12	リフィル処方せん運用開始について	福島赤十字病院薬剤部	渡部 寿康
2022/04/20	医薬品に関する医療安全①	福島赤十字病院薬剤部	市橋 淳
2022/04/27	医療安全研修①	福島赤十字病院医療安全推進室	市橋 淳
2022/05/14	緩和ケア関連加算取得への取り組み	第15回日本緩和医療薬学会年会	渡部 寿康
2022/08/05	医薬品に関する医療安全②	福島赤十字病院薬剤部	市橋 淳
2022/08/05	医薬品に関する医療安全③	福島赤十字病院薬剤部	川村 早苗
2022/12/07	薬剤師による肝炎対策の取り組み	肝疾患チーム医療を考える会 in 東北	渡部 寿康
2022/12/21	令和4年度 感染研修 第1回「抗菌薬使用のワンポイントアドバイス」 オンライン研修	福島赤十字病院ICT	緑上 淳一
2022/12/25	医療安全研修②	福島赤十字病院医療安全推進室	市橋 淳
2023/01/19	薬品安全管理 ～注射ver.～	福島赤十字病院薬剤部	矢葺 優佳
2023/02/07	令和4年度福島赤十字病院 化学療法レジメン研修会	化学療法とオピオイドについて	渡部 寿康
2023/02/07	令和4年度福島赤十字病院 化学療法レジメン研修会	医療用麻薬併用化学療法施行患者症例①	菊地 洋平
2023/02/07	令和4年度福島赤十字病院 化学療法レジメン研修会	医療用麻薬併用化学療法施行患者症例①	武藤 芳和

2023/03/09	循環器病棟で使用する薬剤について	福島赤十字病院薬剤部	古賀 彩織
2023/03/22	令和4年度 感染研修 第2回「抗菌薬とAMR(薬剤耐性)」(一般編) オンライン研修	福島赤十字病院ICT	緑上 淳一

7. 学会・研修会参加

2022/05/14	日本緩和医療薬学会 第26回教育セミナー
2022/05/15-16	第15回日本緩和医療薬学会年会
2022/09/10	日本臨床救急医学会 救急認定薬剤師講習会
2022/12/01	第16回日本緩和医療薬学会年会
2022/06/29	日本臨床腫瘍薬学会 Essential Seminar Neo A-program
2022/07/20	日本臨床腫瘍薬学会 Essential Seminar Neo B-program
2022/08/10	日本臨床腫瘍薬学会 Essential Seminar Neo C-program
2022/06/28	日本臨床腫瘍薬学会 スタートアップセミナー2022
2022/10/21	第26回日本心不全学会学術集会
2022/08/07	2022年度 第1回 福島県災害薬事実習
2022/09/04	第15回福島県薬剤師がん化学療法研究会
2022/09/17	チーム医療ワークショップ
2022/11/19-20	第23回東北ブロック薬剤師研修会
2022/12/18	第10回福島県薬剤師緩和ケア研究会
2022/12/07	肝疾患チーム医療を考える会 in 東北
2022/12/01	日本緩和医療薬学会 第26回教育セミナー
2022/09/23-25	第32回日本医療薬学会年会
2022/10/22	第60回日本癌治療学会学術集会
2022/11/01	令和4年度がん専門薬剤師集中教育講座
2022/11/03	令和4年度妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師講習会
2022/08/02	日本臨床腫瘍薬学会 ブラッシュアップセミナー
2022/11/22	日本臨床腫瘍薬学会 エキスパートセミナー
2023/03/21	日本臨床腫瘍薬学会 薬学介入と事例報告のためのWEB研修会
2023/03/04	日本臨床腫瘍薬学会学術大会2023(JASPO)

<令和5年度目標>

1. 薬剤管理指導件数
月平均 600件
2. 病棟薬剤業務実施加算の継続
3. 6年制薬剤師長期実務実習受入件数
Ⅱ期：4名 Ⅲ期：4名 Ⅳ期：4名
4. 化学療法ミキシング件数
外来実施件数：1,400件
入院実施件数：300件
5. 学会・研修会・論文発表：2件



26. 医療技術部

【部 長】 渡部 研一(循環器内科主任部長 兼 医療技術部長)

栄養課

【課 長】 菊地 利恵(栄養課長 兼 第一栄養係長事務取扱)

- 資格・所属学会等
- 静脈経腸栄養(TNT-D)管理栄養士
- NST専任管理栄養士

【係 長】 小河原貴之(第二栄養係長)

- 資格・所属学会等
- 福島県糖尿病療養指導士
- NST専任管理栄養士

服部 みゆき(調理係長)

【管理栄養士】 野崎 華織

- 資格・所属学会等
- NST専任管理栄養士

葛城 美貴

- 資格・所属学会等
- 福島県体育協会認定スポーツ栄養士

野沢 雅美

【栄 養 士】 野地満里絵、齋藤那緒美、蓬田 ゆみ、
角田奈々葉、香野 友希、渡辺 龍羅、佐藤 亜美

【調 理 師】 釜田 雄一、中尾ひろみ、齋藤 蘭、小林 玲子

【業 務 員】 片平 純子、本多由美子、菱沼美佐子、
菅野由香利、山田 弘美、佐藤 栄寿

<令和4年度実績>

・給食管理業務

項目	区分	年間実績	備考		対前年度増減
食事提供数	一般食	106,026食	特別治療食 (加算有)割合	41.50%	-2,353食
	特別治療食(加算有)	75,293食			-4,279食
行事食回数		30回			－

- (1) 6月：ワーファリン服用患者把握の運用改定
- (2) 7月：衛生マニュアル(検便検査等)改定
- (3) 10月：嗜好調査実施
- (4) 8・9・10月：管理栄養士、栄養士の実習生を4校(7名)受け入れた

- (5)11月：自助食器運用開始
(6)2月：栄養管理マニュアル改定

・栄養管理業務

項目	区分	年間実績	備考		対前年度増減
栄養指導件数	外来指導	595件	算定件数	596件	-36件(算定-9件)
	入院指導	818件	算定件数	695件	-31件(算定+17件)
個別栄養食事管理加算		238件			-
栄養管理計画書		4,228件	64.20%		-210件
集団栄養相談教室	プレママ	31回			-
個食対応		673件			-344件

※今年度から緩和ケア診療対象の患者に対して行う個食対応は、個別栄養食事管理加算件数として数える

(1)目標栄養指導件数1,220件に対し、1,413件実施。目標達成率約116%

実施件数は前年比で-67件となっているが、算定率は86%から92%に改善した

<令和5年度目標>

1. 栄養管理及び栄養指導の技術向上
2. 調理技術向上
3. 教育プログラム作成
4. 非常時の給食シミュレーション実施
5. 非常食献立の再検討
6. 診療報酬に繋がる業務の実施件数UP
7. 業務改善及び効率化

臨床工学技術課

【課長】 橋本 健一(臨床工学技士・医療機器安全管理責任者
医療安全推進室員・特定高圧ガス取扱主任者)

【係長】 早坂美智子、中山 彩

【課員】 塩澤 将太、村上 風太、齋藤 巧、佐久山 歩

<令和4年度実績>

◆臨床業務

- アンギオカテーテル業務
 - ・心臓 317件 (PCI 183件)
 - ・末梢血管EVT 25件
 - ・血栓除去 5件
 - ・IVCフィルター 2件
 - ・脳血管 81件(造影・コイル他)
 - ・肝臓 22件(TACE他)
 - ・大動脈ステントグラフト 11件
- 心臓ペースメーカー業務
 - ・新規埋込み術・電池交換術 43件
 - ・植込み型ペースメーカー外来：指導管理料 2,295回
 - ・体外式ペースメーカー管理料 66日
- 心臓手術(人工心肺業務含む) 12件
- 自己血回収装置業務 21件
- 補助循環装置管理料 ・IABP 12日
- 血液浄化アフェレーシス療法業務 40回 (HD・CHDF・DHP・腹水濾過再静注)
- ラジオ波腫瘍焼却術(RFA) 10件

- 手術室業務
- 内視鏡室業務
- ◆医療機器管理業務（医療機器安全管理料1算定）
 - 中央管理・点検業務

輸注ポンプ・人工呼吸器・除細動器・全身麻酔器・閉鎖式保育器・血液透析装置・補助循環装置(IABP・PCPS)・ペースメーカー・パルスオキシメーター・生態情報モニター・低圧持続吸引器・電気メス など
 - 医療機器研修会開催 6回（病棟単位での研修会含む）
- ◆参加委員会 等

●医療安全推進室	●医療安全推進委員会	●医療ガス安全管理委員会
●医療機器整備委員会	●HCU運営委員会	●手術室運営委員会
●ER運営委員会	●災害対策委員会	●省エネ委員会
●医療情報システム委員会	●NESスタッフ	

<令和5年度目標>

- 1)管理機器における点検表の整備
- 2)各臨床業務分野における知識・技術の向上

27. 看護部

看護部目標

1. 倫理観のある心温まる看護を提供し、看護の質の向上を図る。
2. アセスメントに基づいた看護実践能力の向上を図る。
3. 看護要員の計画的な人材育成を図る。
4. 病院経営への参画を意識した看護要員の確保及び労務管理を行う。
5. 時代の変化に即応した赤十字看護師の役割を果たす。

令和4年度 短期目標

1. 地域における役割を認識し、急性期医療から生活の場への移行の推進
 - ・地域連携、院内連携の強化
 - ・在宅を見据えた入退院支援の強化
 - ・チーム医療の推進
 - ・効率的な病床管理
2. 患者に責任を持ち継続した質の高い看護の実践
 - ・固定チームナーシングの強化
 - ・受け持ち看護師役割の向上
 - ・高齢者に対する看護の充実
 - ・現任教育体制の整備
3. 働きがいのある、働き続けられる職場作り
 - ・組織の目標達成が看護職員の成長につながる目標管理の推進
 - ・仕事の量と質を改善し、目指す看護が実践できる労務管理
 - ・感染対策を徹底した療養環境の提供

令和4年度 看護部管理者配置

看護部	看護部長	鈴木 佳子
	看護副部長	車田 真美
	看護部病床管理	奈良輪弘美
	褥瘡管理者(看護係長)	佐藤 美絵 (皮膚・排泄ケアCN、特定行為研修修了者)
外来	看護師長 1F外来	渡邊あゆみ(救急看護CN)
	看護師長 2F外来	森谷 浩子(がん化学療法看護CN)
	看護係長	小林 洋子 萩原 暁美 八木沼裕子(摂食嚥下障害看護CN)
HCU・3A病棟	看護師長	鈴木 安英 (クリティカルケアCN、特定行為研修修了者)
	看護係長	菅野智恵子 北原奈緒美(皮膚・排泄ケアCN)
3B病棟	看護師長	武田 里美
	看護係長	田島 一樹(慢性心不全疾患看護CN)
4病棟 産科・婦人科外来 助産外来	看護師長	柳田 美穂
	看護係長	齋藤 幸恵 大槻 里美 橘 智寿子
5A病棟	看護師長	武井 明美
	看護係長	佐川奈美子(認知症看護CN)
5B病棟	看護師長	三浦 将克 (脳卒中リハビリテーション看護CN)
	看護係長	國分 朋子
6A病棟	看護師長	清和 彩子
	看護係長	三浦 愛(感染制御実践看護師) 鈴木 牧子
6B病棟	看護師長	菅野いづみ
	看護係長	今野 暁子(慢性呼吸器疾患看護CN)
7病棟・精神科外来	看護師長	安達 明美
	看護係長	佐藤 裕子
手術室 中央材料室 麻酔科外来	看護師長	泉 弘子
	看護係長	佐久間由美子 本田 祐子
訪問看護ステーション	所長・看護師長	齋藤 泉

令和4年度 看護部委員会・部会 メンバー表

委員会・部会	委員長	副委員長	開催日	3A	3B	4	5A	5B	6A	6B	7	外来	手術室	訪看
看護記録委員会 重症度、医療・看護 必要度部会 クリニカルパス部会	武井師長	佐藤裕係長 北原係長 大槻係長 柳田師長	第3火	渡辺みなみ	北原 麻美	赤井みゆき	菊地悠示郎	朝倉 高島 恵実 雄一	鈴木 宏美 佐藤 香葉	常松 美歩	野崎 美沙	渡辺 和恵	梅宮 誠	
医療安全リンクナース会	奈良輪師長	齋藤幸係長 本田係長	第1金	安達麻菜美	神子 美江	田島 真樹	金内 杏美	馬場 梢	伊佐美知美	菅野 里子	佐藤 幸恵	近藤 沙織	本田 賀絵	
感染対策リンクナース会	森谷師長	佐久間係長 三浦愛係長	第3金	北村 慶	本田 桃子	丹野 彩花	渡邊 泰昇	長沢 恵 山家 菜碧	高島 詩織	布施美奈子	渡邊 陽子	紺野みゆき	小林 理恵	安田みどり
褥瘡対策リンクナース会	菅野い、師長	佐藤美係長 (CN)	第4火	齋藤 安希	齋藤 春奈	丹治 和子	野田 康代	渡辺 義文	菊地 佑菜	牧野江美子	菅野 麻衣	菅野 奏	斎藤 駿	黒沢真由美
認知症ケア部会	武田師長	佐川係長 (CN)	奇数第1水	伊藤 廉	武田 良平	菅野 陽子	齋藤 梨沙	瀬戸 雅子	鈴木 牧子	古関 梢	渡邊ちひろ	成尾ありさ	志賀 慶子	高橋美千代
エンドオブライフケア部会	清和師長	今野係長 小松CN	奇数第2火	菊地めぐみ	渡邊 君枝	阿蘇由美子	吉内 絵美	齋藤 文子	金子 尚代	今野 暁子	大宮 文華	長谷部智子	高橋 潤	中村 広子
摂食・嚥下障害ケア部会	三浦将師長	八木沼係長	偶数第3木	相川亜里咲	中村 亜紀	横田 美織	野坂 雄史	阿部 美砂	小林 実央	草野麻里絵	菊田 純子	八木沼裕子	霜山 千秋	
現任教育委員会 看護研究 看護基準・手順 キャリア開発ラダー推進部会	渡邊あ師長 鈴木安師長	橘係長 田島係長	第2金	菅野 勇勝	大須賀香織	中村 留美 齋藤 美保	國分 典子	佐藤 祐子 安斎 亜美	鈴木 彩佳	飛田 依麻	高野 都	佐藤 友里	鈴木 直人	
新人教育委員会 臨床実習指導者会	車田副部長	鈴木牧係長		菅野智係長	田島係長	橘係長	佐川係長	國分係長	鈴木牧係長	今野係長	佐藤裕係長	萩原係長	本田係長	
災害対策リンクナース会	柳田師長	菅野智係長 國分係長	第1木	江畑 聖也	佐藤 智子	服部 佳奈	南 菜	磯松 咲乃	高島 恵子	中沢 利樹		野地 静香	根本 聡美	
CS委員会	泉師長	小林係長	偶数第2火	佐野 容子	阿部 史歩	高槻はるな	笹崎 遼人	渡辺七夏海	本間 香織	吉田 忠彦	根本 智子	大橋 真紀	伊藤紗也加	
看護部倫理委員会	安達師長	萩原係長	第2木	保住 朋美	齋藤 莉子	伊藤由佳子	三次あやみ	上杉 梢	安藤 敦子	室橋奈那子	加藤 妃子	佐藤美重子	今野 歩美	
看護部協議委員会	看護部長 教育担当師長・係長	看護副部長 教育担当師長・係長												
看護部協議委員会	看護部長 教育担当師長・係長	看護副部長 教育担当師長・係長	*ラダーⅠ：新人教育担当 ラダーⅡ以上：現任教育担当											
看護部協議委員会	看護部長 教育担当師長・係長	看護副部長 教育担当師長・係長		鈴木安師長	武田師長	柳田師長	武井師長	三浦師長	清和師長	菅野い、師長	安達師長	泉師長	森谷師長 渡邊あ師長	
看護部協議委員会	看護部長 教育担当師長・係長	看護副部長 教育担当師長・係長	第2木	小手森佐智子	高橋 美咲	我妻 美咲	今野由紀子	菅 久美	五十嵐恵子	佐藤留美子				
看護部協議委員会	看護部長 教育担当師長・係長	看護副部長 教育担当師長・係長		菅野 忍	高橋みなみ	我妻 美咲	小野 睦	渡辺 義文	清和 彩子	後村 隆晴	小野 充	小林 洋子	菅野 美紀	

令和4年度 師長会担当	看護補助者会担当 医事課担当 医療監査担当 コスト担当 病院機能評価担当	菅野いづみ 森谷 浩子 安達 明美 泉 弘子 車田副部長	武田 里美 武井 明美 奈良輪弘美 清和 彩子 車田副部長	看護補助者会の運営 ・研修会の企画運営 ・夜勤補助者の勤務表作成 ・補助者採用時の補助
----------------	--	--	---	--

令和4年度 看護部各部署の目標 最終評価と課題

部署	目標	最終評価	次年度の課題
3A病棟	(HCU) ①専門的な疾患に関する知識や技術について勉強会を実施し、スタッフ全員が統一した看護を提供できる。 ②症例や日々の看護を検討し共通認識を持つことでさらなる看護ケアの充実を図る。 ③専門的知識・技術を向上させ、アセスメント能力・看護実践の向上を図る。 ④急性期医療・重症集中医療に則した職場環境を整える。 (3A) ①救急における臨床判断力を向上できるようチームで知識の研磨を行う適切な看護をする。 ②急性期における患者、家族の個性に合わせた安心安全な看護及び療養環境を提供する。 ③急性期小児科に関する知識、技術についてアセスメント能力と看護実践の向上を図る。 ④急性期医療に則した職場環境を整える。	HCU・救急 ①・②クリティカルケア領域の知識・技術の向上のため、急変時シミュレーションや症例検討だけでなくACLSの演習などを毎週開催した。内容も実際にROSC後の管理を見据え低体温療法、BF、PCPSなど工夫し実施した。 救急病棟では、成人のBLSだけでなく小児のBLSも定期開催し、技術の定着を図った。また、早期リハビリテーション、SAT・SBTなど勉強会だけでなく小チームで追跡調査をし、早期リハビリテーションでは対象者70%以上、SAT・SBT100%と他院より実施率が高かった。しかし、新しい概念でもあるPICS・PACSに対して知識の定着に時間がかかりケアの実際までは結び付いていない。 ③アセスメント能力の向上のため、勉強会の開催だけでなく、心外患者の看護展開の実施や、月二回のケースカンファレンスなど実施しアセスメント能力の向上を図った。小児科では呼吸器系の勉強会の開催や疾患マニュアルを新しく作成するなど、看護の平均化を図った。 ④物品配置や環境整備を実施し働きやすい環境づくりに努めた。	①・②急変時の対応能力向上のため、週1回のBLS・ACLS研修を実施していたが、業務と重なり実施できない時があったため開催時間を申し送り直後に変更し10分程度の内容として実施した。また今年度新しく始めた早期リハビリテーション、SAT・SBTなどは今後も知識とケアの普及を図り実施率だけでなくBIの向上など患者アウトカムの評価も必要である。PICS・PACSについては引き続き勉強会を開催し、不穏せん妄だけでなく、患者・家族のPTSD予防など退院後の生活を見据えた取り組みにも着手していきたい。 ③アセスメント能力の向上のため、引き続き勉強会の開催だけでなく、ケースカンファレンス、看護展開など実施していく。看護展開については心外だけでなく、そのほかの症例でも実施していきたい。 ④物品配置や環境整備については、4月からの病棟編成も視野に入れ協力して取り組んでいきたい。

部署	目 標	最終評価	次年度の課題
3B病棟	患者のニーズに合わせた尊厳ある質の高い医療と看護を提供する。 ①質の高い看護の提供。 ②多職種や地域と連携した入院支援。 ③感染対策を徹底した療養環境の提供。	①終末期看護の質を高めるために多職種を交えて意思決定支援やエンゼルケア、心不全患者の緩和ケアの勉強会を計画的に実施できた。医師と安全帯使用についてカンファレンスを行うことができた。固定チームナースと心不全についての勉強会は計画通りにできなかった。 ②多職種とウォーキングカンファレンスやケースカンファレンスを実施し退院支援につなげることができた。 ③ベッド回りの環境整備実施80%以上できず、床頭台やサイドテーブルが乱雑になっていたことがあった。患者の忘れ物の数は昨年より減少した。	①今年度実施した研修を活かし、患者中心の尊厳ある質の高い看護ケアにつなげていく。院内外の研修会に参加したり、部署内の勉強会を計画的に行い、専門的知識と技術、アセスメント能力向上を目指す。受け持ちナースやリーダーの役割を理解し、チーム活動や看護展開ができる様に固定チームナースの知識を深める。 ①、②ウォーキングカンファレンスを継続し、多職種と連携しながら安全帯使用率の減少や入院支援、意思決定支援につなげる。 ③看護師、補助者で協力し、患者に安全で安心な療養環境を提供できるように環境整備に力を入れる。
4病棟	①受け持ち助産師としての役割行動ができ、継続した支援ができる。 ②タスクシフトにより外来業務を整理し、働きやすくなる環境にする。 ③専門的知識とアセスメント能力の向上につとめ、質の高い看護を提供する。 ④多職種連携のスムーズな退院支援を継続的に行う。 ⑤5Sの実施継続することで安全な療養環境を提供する。	①産婦人科外来との一元化から妊婦検診の保健指導やハイリスク妊婦の地域連携、入院中の指導を実施した。連日、ケアカンファレンスを実施し、スタッフ間の情報共有やケアの統一を図ることができた。 ②外来診察枠の変更、外来チェックリストの活用の見直しを実施し外来業務の整備を実施した。 ③産婦人科、整形外科、消化器科疾患についての勉強会を計画通り作成やシミュレーションを実施した。 ④入院時から早期退院支援の介入や多職種の連携に努めた。受け持ち看護師発信のケースカンファレンスの実施が少なかった。 ⑤5Sの実施、不動在庫の削減を行い、働きやすい環境の整備と安全な療養環境の提供を目指して活動した。	①産婦人科外来患者の待ち時間の短縮に向けた調査と評価、業務調整を継続的に実施する。 ②受け持ち助産師・看護師の役割意識の向上を図り、多職種との連携を図りながら個別性のある看護を提供する。 ③知識、技術、アセスメント能力の向上のため計画的に勉強会やシミュレーションを実施する。必要に応じて他部署との連携を図る。 ④5S活動、不動在庫の削減、SPD定数の見直しを継続的に行う。 ⑤働きやすい環境づくりのため、タスクシフト・タスクシェアの検討とチーム編成変更後の業務内容の評価、修正を行う。

部署	目 標	最終評価	次年度の課題
5A病棟	①入院時に患者背景の情報収集する力を養い多職種と連携し退院支援へつなげる。 ②固定チームナースニングでの個々の役割を理解し患者様に責任を持った看護を実践し、質の高い看護につなげる。 ③療養環境の整備を常に心がける。物品管理の徹底を図る。 ④自身の目標達成に向け計画的に取り組みスキルアップができる。	①入院時の情報収集において、個人差が出ないようにはチェックリストを作成し取り組んだ、入院時に退院を見据えた情報収集を行うことで、早期から医療ソーシャルワーカーへつながることができた。 ②カンファレンス、チーム会、リーダー会を定期的に行うことで統一した看護の提供ができたが、受け持ち看護師としての看護の展開に個人差が生じているため、記録監査を日々行いフィードバックしていく。 ③スタッフ全員で療養環境の整備に取り組むことができた。今後も維持していく。 ④看護協会研修参加、キャリアアワード取得にあたり予定者がすべて評価会を済ませることができた。	①入院時に得た情報からカンファレンスを定着させ個々の問題を明確にしてチーム全体で看護を展開し、スムーズな退院支援につなげていく。 ②それぞれの職種の現状を把握し、医師を交えた多職種カンファレンスの定着のためには何が必要か、何をすべきか、定期的に検討し、多職種カンファレンスの定着を構築していく。 ③療養環境の整理に全スタッフが意識して安全で安心な入院生活を提供できるよう取り組む。 ④病棟目標に対し自身の立場を理解し、積極的に参加することで目標成果つなげられ、やりがいにつなげていく。 ⑤協働をモットーに互いに思いやりの気持ちでチームワークをさらに強化していく。

部署	目 標	最 終 評 価	次年度の課題
5B病棟	①入院患者の多様化に対応できるように知識と技術の研鑽を行う。 ②業務基準を見直しカンファレンスの時間の確保やベッドサイドでのケア充実を図る。 ③患者様の意向を反映した個別的な退院支援や看護実践に結びつける。 ④安全カンファレンスを実施しスタッフの倫理観を高め安全保護対策の使用を最小限にする。 ⑤感染対策を徹底し安心、安全な療養環境を提供する。	①バーセインデンクックス評価について勉強会を実施した。リハビリスタッフと協働し脳神経内科・外科患者のADL評価に対しバーセインデンクックス評価を活用し全患者に実施することができた。 勉強会では、コロナ蔓延等あり計画通り実施することができたが、急変時シミュレーションでは、症例検討を用いて勉強会を実施し技術だけでなく知識を含め学習することができた。 ②スタッフへ業務見直しアンケートは実施したが新業務基準、応援業務作成運用まで至っておらず。リーダー会を定期的に実施し各小集団やスタッフへカンファレンス実施を促し90%以上実施することができた。 ③退院支援事例検討会を2例実施し病棟スタッフ間でリフレクションを実施することで個別的な退院支援の重要性や今後の課題について見出すことができた。 ④安全カンファレンス実施率は90%程度毎月実施することができた。安全帯、離床キヤッチ解除スタッフへ周知したが、カンファレンス時の使用や使用率削減までには至っていない。 ⑤コロナ疑陽性者やMRSA等感染対策が必要な患者の療養環境準備に対するチェックリストやラミネートを作成していたが、院内での変更等あり完成まで至っていないかった。だが、夜勤専従者へ院内でのマニュアルや変更箇所など情報提供し統一した環境づくりに心がけた。	①リハビリスタッフとバーセインデンクックス評価を継続し、評価の結果を用いて看護援助に反映する。症例検討を含め、計画的に勉強会を実施しスタッフの知識、技術向上していく。 ②時間外内容や看護ケア内容を分析し多職種やメンバーで協働できる業務を検討し、ケアの充実を目指す。 ③次年度も退院支援カンファレンスや症例検討、看護サマリーカンファレンスを継続し個別的な退院支援や看護実践に結びつける。 ④安全帯、離床キヤッチ解除フローチャートを活用しカンファレンスを実施できるよう周知し、患者が安全、安心して療養生活を送れるように看護ケアを提供する。 ⑤感染予防に努め安全、安心な療養環境を整えることができる。
6A病棟	患者・家族の声を聴き、思いを汲み取り、安心できる安全な療養生活を提供する。	病棟のあるべき姿を「入院患者が納得して入院生活を送れるように適切な説明とケアを提供する病棟」とした。そのための活動として、リーダーが中心となり、受け持ち看護師の役割を再認識し、看護サマリーを元にした退院カンファレンスを週1回から週2回に増やし、計画的に実施した。	退院カンファレンス以外の計画的なカンファレンスを実施していく。 ・安全カンファレンス ・デスカンファレンス ・倫理カンファレンスなど 受持ち看護師が個別に応じた看護計画を立案し、看護展開する。

部署	目 標	最終評価	次年度の課題
6B病棟	①多職種と安全対策についてカンファレンスを実施し、記録を充実させ安全な環境をつくる。 ②多職種協働のカンファレンスを実施し患者の意思決定支援ができる。 ③勉強会を実施し専門的知識の習得や技術向上を図る。 ④業務基準を見直し、質の高い看護の実践に努める。	①安全カンファレンスは毎日、実施することができた。しかし、担当医やPTも参加したカンファレンスは少ない。 ②以前から行っていた外科に加えて、消化器科とリウマチ科も多職種参加のカンファレンスを開催することができた。ここで治療方針や退院支援について話し合い、患者の意思決定支援につなげることができた。 ③新しく導入される処置や検査、緩和・終末期ケアに関する勉強会を実施しスタッフの知識習得につなげることができた。ストマケアは技術チェックを行い統一したケアの提供ができる様になった。 ④リーダー会を開催し、看護ケアの提供や看護業務について定期的に見直し修正することができた。 CSサークル活動では、看護補助者とも連携し安全安楽な療養環境の提供につなげることができた。	①安全カンファレンスの開催方法について検討する。 ②ケアカンファレンスの定着化のためにカンファレンスにかかる時間や症例数などの集計を実施する。 ③固定チームについて認識を深め、ケアカンファレンス開催後の看護計画の修正など、受持ち看護師の看護展開を支援する。そのための勉強会開催などを検討する。
訪問看護	①療養生活に合わせた療養支援を実施する。 ②実施した看護を可視化し評価・実践する体制を整える。 ③地域連携を強化し利用者のニーズに沿い統一した支援を提供する。	①カンファレンスの定義を作成しスタッフに周知し実施した。カンファレンス件数は増加しており特に在宅見取りの利用者のカンファレンス開催率は100%であった。カンファレンスを実施することとで、利用者や家族の意思決定支援や提供する看護の内容の統一がされた。 ②今年度はカンファレンスの内容分析を詳しく行うことができなかった。内容分析を行い、様々な療養生活に対応できる能力向上につなげる。 ③訪問看護計画書を主治医と利用者で内容を検討し、対象に理解できる記入方法へ変更した。利用者用には利用者や家族の意向が反映する内容を記載し、提供する看護内容を明確化できた。 ④毎月、本社に提出する訪問看護ステーション管理状況調査表をスタッフ会でスタッフに掲示し情報共有した。スタッフの関心度や理解度の評価はできていない状態である。 ⑤地域カンファレンスや退院カンファレンスの内容をスタッフ間で共有できるようにカンファレンス用紙を変更した。 ⑥今後は、地域多職種とスタッフが連携強化できる体制づくりが必要である。	①効率的なカンファレンスが運営できる体制をつくる。 ・カンファレンスの内容を分析し質評価を行う。 ・症例検討会を増やす。 ②スタッフのアセスメント能力と看護力の向上を図る。 ・訪問看護の管理業務や状況をスタッフが理解でき運営に参加できるようにする。 ・自己学習を推進し個々の知識を高める。 ③看護体制を見直し管理者業務を一部委譲する。

部署	目 標	最終評価	次年度の課題
手術室・サプライ	患者の思いに寄り添い、安全安楽な手術看護を実践する。	・安全安楽な医療・手術看護を提供するため、前年度のインシデントのデータをもとに、チーム目標を立て取り組むことができた。 ・前年度は手術室の記録監査票を作成し、今年度は監査票を活用して質的・量的監査を実施することができた。 ・手術室看護補助者のマニュアルを修正し、手術室看護師看護補助者の役割・分担を明確にすることができた。 ・手術室・中材マニュアルを作成・改訂することができた。	・器械カウンタモニタの修正を行ったが、運用まで至らなかったため、周知・教育・運用し、評価を行う。 ・ミキシングカート運用後の評価を行う。 ・記録監査結果の共有をチームで継続的にを行い、記録の量と質を向上させる。 ・看護師と看護補助者の役割分担を見直し、専門性を発揮できるようにする。 ・各種マニュアルの随時更新、改訂を行う。
外来	患者の思いに寄り添った、継続的で心温まる看護を実践する。	・外来満足調査を実施することができ、患者様のご意見を聞くことができた。接遇に関して2割の方が満足はしていないという現状把握ができ、課題も明確にできた。 ・脳卒中相談窓口を開設するための脳卒中療養相談士の資格を11名取得した。WGを立ち上げ4月からの運用が開始できるまでに至った。 ・外来ケースカンファレンスを36回実施し、継続看護に必要な情報提供を行うことができた。病棟カンファレンスにスタッフが6回参加することができた。継続看護の意識を高めることができた。	・接遇について改めて学習し、患者様への丁寧な対応を心がける。患者様の相談に対応できるよう、自己研鑽を積み看護の質を上げる。 →患者満足度の向上を目指す。 ・脳卒中相談窓口の運用、相談対応を軌道に乗せる。病棟等と連携し、病棟カンファレンスへの参加の機会を増やす。外来スタッフとしての意見や述べ、患者様の継続的な看護につなげる。 →継続看護のさらなる強化、実践。

令和4年度 看護部委員会・部会の目標 最終評価と課題

委員会・部会	目標	最終評価	次年度の課題
看護記録委員会	①患者が見える看護記録の継続および充実。 ②電子クリニカルパスのスムーズな運用により拡大と整合性の確立。 ③重症度、医療・看護必要度に関わる評価の質を向上する。	①看護記録の監査にて、量監査目標100%には到達できなかった。入院時の記載漏れが生じている。また、質監査に関しては患者が見える看護記録を目指し、1日1回のSOAP入力を行うことができた。今後、さらなる記録の質を高めるために評価方法の検討が必要である。 ②クリニカルパスの評価方法や看護記録の記載についてスタッフへ周知した。量的・質的監査を開始し、評価や看護記録の現状把握を行った。今後、評価の整合性を高めていくと共に患者が見える看護記録のための記載方法について検討していく。 ③重症度、医療・看護必要度に関するeラーニングの視聴及び前期・後期のテストを実施し周知、徹底ができた。 また、インストラクター研修を8名が受講し、各部署伝達研修も実施できた。	①看護記録監査方法の見直し及び周知方法を検討する。記録の質を上げる。 ②記録の整理を行う。重複記録の見直し、および記載漏れ防止策を検討する。 ③適宜クリニカルパスの修正、アウトカム内容、統一されたバリアンス評価ができるように監査を継続して行い、看護記録の記載についても検討する。 ④看護サマリ用紙、及び内容の再検討を行い、誰が見ても、患者の必要とされる看護ケアが分かるサマリ記録へ変更する。
医療安全リンクナース会	①看護を安全に提供するための環境づくりを支援する。 ②看護を安全に提供するためにスタッフ教育を行う。	①医療安全リンクナースが、自部署の危険と思われる場面を写真撮影し、各部署毎にKYT研修を行い、医療安全リンクナース会で報告した。 ②ヒヤリハット事例から医療安全リンクナース会で、なぜなぜ分析を3事例実施し共有した。 ③安全保護対策記録監査を4回/年実施し、結果を共有した全部署で身体抑制カンファレンス内容の項目が統一された。 ④転倒・転落防止のeラーニングを聴講し、振り返りとしてマイペーヂからテストを実施した。 正答率平均は、88.86点であった。	①部署のヒヤリハット場面からKYT研修を継続し、危険予知能力を高める。 ②ヒヤリハットの分析を繰り返し行い、分析能力を高め改善策立案・実施につなげる。 ③身体抑制カンファレンスの質的監査を行い、身体抑制しない看護提供ができるようにつなげる。 ④転倒・転落防止に関する研修を企画し、アセスメント力の向上・予防対策の知識を高める。
感染対策リンクナース会	①標準予防策・感染経路別予防策を行い感染対策の充実を図る。 ②感染対策教育を通して感染対策の充実を図る。	①個人の手指消毒使用量チェックは平均182mlと昨年に比較して多くなったが、1患者あたりの手指消毒使用量にすると平均10回と少ない。全部署が10回以上を目標にしたが、部署ごとでは5回～30回と差が大きく全体の手指消毒使用量を増やすことができなかった。 ②防護具の着脱チェックを看護師と補助者に対し前期と後期実施した。全体で96%手順通りにできているという結果だった。	①引き続き手指消毒使用量が増えるように、使用するタイミングと正しい量が使えるように指導する。 ②防護具の着脱が100%身につくようにする。

委員会・部会	目 標	最終評価	次年度の課題
褥瘡対策 リンク ナース会	①週1回及び状況変化時のリスクアセスメントを実践・指導できる。 ②部署内の創傷事例を通し、予防・治療ケアの実践を学び、チーム内で情報共有できる。 ③最新の情報を得て、現場のケア実践に活かすことができる。 ④医療関連機器圧迫創傷対策を実践できる。	①定期評価平均は97%であり、前年度と変化なかったが、年度後半は全部署で実施率97%以上を維持することができた。 ②委員会内で9症例の報告情報交換を実施し、部署内のケア方法や多職種の見え交換などの場となった。 ③委員会内でケア方法についての勉強会、栄養士・薬剤師の褥瘡に関する活動の実施報告を含めた、多職種介入を行い、情報・知識の共有を行うことができた。 ④下肢血流評価機器ドップラー3台追加し、深部静脈血栓所予防機器の安全使用と創傷予防を取り組んだ。	①定期評価の実施は定着してきたが、計画修正などが弱い状況がある為、個別性を考慮した評価ができるよう、質的介入を検討する。 ②委員会内での症例検討は、プレゼンテーションの勉強にもなるため継続する。 ③予防ケアや体位変換などケア面の振り返りと強化する。
認知症 ケア部会	①各部署の看護師が認知症ケアに関する学びを共有し、看護計画を開し、尊厳ある看護が提供できる。 ②認知症看護の専門的知識、技術、個々に応じた適切なアセスメント能力を習得し、適切なケア、多角的な介入方法を検討することができ	①認知症アセスメントシートを導入し半年経ち、徐々にフロー通り作成することができている。看護計画の立案はできているが、評価が抜けることがあった。 各部署において、高齢者看護の事例検討を実施することができ、自分たちの看護を振り返る機会を作ることができた。 ②認知症看護インストラクターナースの養成については受講対象看護師が決定せず今年度は見送りとなった。前年度インストラクターを取得した看護師は研修講師を務めることができた。	①フロー通りシートを作成できよう繰り返して周知を図るとともに、スタッフ個別に声掛けを行う。看護計画の評価においても、CNやインストラクターナースが介入し個別性のある評価ができるよう介入方法を検討する。 事例検討の内容、方法を変更し、新たな学びの場としていく(例：4分割を使用し倫理に関する事例検討など)。 ②看護部と相談しインストラクター受講対象看護師を選定する。インストラクターナースについても、引き続きスタッフへの指導や相談といった活動を行えるよう計画する。

委員会・部会	目 標	最終評価	次年度の課題
エンドオブライフケア部会	①終末期の看護を事例で振り返る事でエンドオブライフケアの質の向上につなげる事ができる。 ②エンドオブライフケアと緩和ケアチームが連携した活動を行う事で質の高い看護ケアが提供できる。 ③終末期の看護マニュアルを整え機能評価に臨む事ができる。 ④終末期の看護について新人研修を研修目標に沿って実施する。	①終末期の看護について事例を作成し、各部署においてカンファレンスを実施するよう研修企画した。各部署のカンファレンス内容を全看護師が閲覧できるように、グループウェアで配信予定。 ②緩和ケアチームへの依頼件数は昨年度と変化なく経過した。評価方法を件数ではなく、依頼内容や患者背景等を踏まえ検討する必要がある。 ③マニュアルを書式に合わせて作成したが、運用について評価できていない。 ④計画通りに実施できた。	①次年度も事例検討は同様に行う予定である。集合研修が可能であれば、状況に応じて対応する。また、多職種参加のカンファレンスも検討する。 ②部会メンバーが中心となり、緩和ケアチーム加入の必要性が判断でき、部署のスタッフへ助言可能な知識とアセスメント力の向上に向けて、目標設定をする。 ③マニュアルの活用方法などを検討し、周知し、運用状況の確認を行う。 ④次年度の新人の特徴や人数を把握し、新人教育委員会と連携し、新人の情報共有を元に新人に合わせた研修を意図して開催する。
摂食・嚥下障害ケア部会	①経口摂取開始時摂食機能評価の実施率の向上を目指す。 ②摂食嚥下障害看護に関する知識と技術の維持を目指す。	①摂食機能評価の再評価が未実施であった要因が監査にて判明し、部会メンバーへ情報共有することができた。しかし、要因に対する対策の検討ができなかった。 ②摂食嚥下機能に関するスクリーニングやアセスメントテンプレートの手順を電子カルテにマニュアルとして掲載することができた。マニュアルを元に技術チェック表を作成し、看護スタッフ全員の知識・技術を確認できた。	①具体的な対策を検討し、部会メンバーから病棟スタッフへ啓発し、監査を継続しながら対策を検討する。対策を実施した結果を評価・修正する。 ②年度ごとにマニュアルの改訂を行い、必要なスクリーニングや技術をマニュアル化し、追加する。技術チェック表の活用を継続し、摂食嚥下障害看護に関する知識と技術の向上へつなげる。

委員会・部会	目 標	最終評価	次年度の課題
現任教育委員会	①看護実践者として必要な知識・技術を習得し、看護の質向上を図る。 ②臨床における看護研究を推進し、看護の質向上を図る。 ③質の高い看護を提供するためのマニュアル等を整える。	①教育研修、ローテーション研修、各部署勉強会等の企画、運営のサポートを行い、予定通りすべての研修会を実施することができた。(ivナースインストラクター認定は2月に行う) ②県北地区看護学会で1名発表することができた。卒業3年目のスタッフがケースレポート発表会で発表できた。3年目ケースレポートの運営に関しては、運営側で不備があった。 ③看護基準・手順を修正できた。現任教育マニキュアルを作成した。	①作成した現任教育マニキュアルを活用し、研修会や勉強会の企画、運営、サポートを継続して行う。評価の方法や成果を可視化できるような方法を検討する。 ②固定チーム、3年目ケースレポート発表者の学会発表、認定看護師の学会発表を中心に看護研究を推進する。3年目ケースレポートに関しては運営側のチェックリストを作成し、不備がないよう発表会まで進める。 ③看護基準の定期的な修正・変更を行い周知する。
キャリア開発ラダー推進部会	①マニキュアルを整備し、その運用を評価する。 ②推進メンバーがキャリア開発ラダーを申請する。 ③キャリア開発ラダー申請予定者が申請レベルを年度内に取得できる。	①部会内で話し合い、当院の申請から認定までの流れについて、理解しやすいマニキュアルとなるよう修正を行った。現行のものが周知されるよう部会メンバーから発信する。 ②申請予定者の内50%取得。 ③レベルⅠ21名、Ⅱ13名、Ⅲ7名、Ⅳ1名、管理Ⅰ2名、未申請者10名。申請予定者54名中44名取得見込み(81.5%)。 年度途中より認定会の中で「看護実践能力の指標の解釈」をもとに、マネジメントや教育・研究の実践に不足がある事例が続き、成果報告などの条件付き認定が頻発したため、Ⅲ以上の飛び級申請を不可とした。	・推進メンバーとしてキャリア開発ラダーの理解を深め、自らが役割モデルとなり推進していく必要がある。日ごろから看護実践と看護師の能力開発を関連付けた教育的視点を持ち、成果や課題のふり返りにつなげ、看護師個々が目標ややりがいを持ち、成長していきけるよう支援する役割を自覚し、取り組みたい。 ・産休や退職理由以外の未申請が5名おり、年間計画に影響することをお慮し、部署の年間計画を立てるよう依頼する。 ・同僚評価会の中で、指標の解釈をもっと評価するよう周知する。

委員会・部会	目 標	最終評価	次年度の課題
新人教育委員会	①新人看護教育計画に沿って教育研修を行い、新人看護職員の基本的姿勢・態度・基礎看護技術の習得を支援する。 ②実習指導に必要な知識・技術・態度を習得し効果的な実習指導ができる。	①新人看護職員看護計画は、看護実践能力に活かすことを目的とし、昨年同様フィジカル・アセスメント研修を継続して取り入れた研修を企画した。新人教育担当者よりOJTが充分にできない現状があるとの意見があったため、基礎看護技術研修の内容を見直し看護技術チェックを行うなど、習得の支援をした。今年度、アセスメント力の向上を目的としてペア受け持ち方式を導入し、新人1人あたり3例ずつの看護展開を行った。プリセプター研修は3回実施し、指導や関わり方に対する悩みや不安の共有を行った。プリセプター研修で課題となった接遇については、新人看護師に研修を行った事で振り返りの機会となった。 ②臨地実習については、委員会内で実習目的や指導方法、注意点を事前に周知した。また、コロナ禍であるため実習を受け入れるにあたり感染対策についての説明を行った。	①次年度の新人看護師の特徴や看護教育、医療体制、福祉の動向を踏まえた集合研修を企画・運営する。OJTについては、全病棟で統一した指導と新人看護師の育成ができるよう委員会内で説明や周知を行う。また、今年度新たに導入した研修やペア受け持ち制については評価を基に検討する。 ②新人看護職員研修内で使用しているレポート用紙、評価表等の見直しを行い、電子化の検討を進める。 ③臨地実習の目的、内容、実習指導者が求められる能力や指導方法について研修を行い教員と連携して実習をサポートする体制作りを目指す。
災害対策リンクナース会	・スタッフの減災意識を高め、災害発生時において患者の安全を図り迅速かつ円滑な対応ができるようにする。 ・減災、救護活動に必要な知識と技術の習得を支援し、常に救護体制を整備する。	・適宜最新の連絡網へ更新し、連絡網の使用方法をスタッフへ周知することができた。 ・リンクナースより毎月1回防災設備のチェック実施。 ・新病院になり初めての消防訓練を行った。 ・コロナで開催ができなかった救急法を院内にて開催し11名の救護員が全過程を終了し登録することができた。 ・福島DMAT 2名の登録。 ・ブラッシュアップ研修も年内予定していたものが準備できないものがあった。	・継続して連絡網伝達訓練を行う。 ・総務課と消防訓練の課題を明確にして来年度の訓練につなげる。 ・赤十字救護員の研修企画・運営。 ・ブラッシュアップ研修、eラーニング等の活用を検討する。

委員会・部会	目 標	最終評価	次年度の課題
CS委員会	個々の接遇力の向上を図り、患者・家族に満足していただく	・「看護サービスマニエール」の回収率UPへの取り組みとして回収箱を更新し設置場所の検討、用紙も入院書類一式で出力し確実に渡すようにした。また用紙をマークシート式に変更し集計をシステム化することでリンクナースの集計作業の負担軽減ができた。自由記載もカテゴリー別に集計した。 ・回収率44%(前年度32%)、お褒め78%、ご要望9%、ご指摘13%。ご意見から業務改善に4件つなげることができた。 ・接遇マニュアルを見直し完成した。 ・身だしなみチェック(自己・他者評価)100%実施。 ・身だしなみラウンドは2回実施。 ・「接遇」研修3項目eラーニング視聴100%実施。 ・コロナ禍での対応が継続しており「コロナ禍の接遇」動画の視聴を行った。	・「看護サービスマニエール」の協力依頼を継続し回収率を上げ、多くのご意見から業務改善を行う。 ・一人ひとりの接遇向上の意識づけに繋がる研修などを検討する。 ・コミュニケーションについての研修なども検討する。(医療者間の申し送りがよくないというご意見があるため) ・身だしなみチェックは継続し意識づけを行う。
看護補助者会	①看護補助者業務の標準化をはかり、安全で安心な療養環境を提供する。 ②感染対策を徹底した療養環境を提供する。	①eラーニング視聴率96%、レポート提出100%、夜勤専従看護補助者eラーニング視聴率100%実施できた。eラーニングについてはアンケートも提出してもらい理解できたかの有無、感想などを記入してもらった。 マニュアル見直しは各部署へ割り振り修正できた。 ②5S活動では各部署毎に実施し、まとめ、発表できた。	次年度も5S活動を継続し、部署ごとに自部署の課題をみつけ活動し発表まで行う。 eラーニング視聴、レポートの内容を検討し、継続する。
コスト削減・省エネ担当	用度施設課と協力し、不動在庫の定数の見直しを行う。省エネに協力する。	SPDの不動在庫を各部署に配布し定数の見直しを行った。昨年度よりだいぶ適正定数になってきているので、数は少ないが削減はできた。各部署省エネパトロールを実施。	SPD不動定数の見直しを定期的に実施継続。省エネパトロールの結果はフィードバックし、できることを具体的に検討して協力する。

令和4年度 新人教育研修

新人看護師 8名 担当：新人教育委員会

NO.	研 修 名	開催日	参加人数
1	感染管理の基本～標準予防策～	4月5日(火)	8名
2	他部門ローテーション研修	4月中	8名
3	基礎看護技術①	5月14日(土)	8名
4	プリセプター研修	7月16日(土)	8名
5	NPPVの管理方法の実際を知る	5月19日(木)	20名
6	3ヶ月フォローアップ研修基礎看護技術②	6月24日(金)	8名
7	基礎看護技術③	7月16日(土)	8名
8	医療安全研修	8月5日(金)	8名
9	基礎看護技術③	9月10日(土)	8名
10	6ヶ月フォローアップ研修	10月6日(木)	8名
11	報告・連絡・相談について 脳外科フィジカルアセスメント 廃用症候群の予防方法、急変時の対応	12月9日(金)	8名
12	第1期ローテーション研修	11月～12月 (1名/日)	8名
13	部署合同研修(アンギオ室、内視鏡室)	11月～12月 (1名/日)	8名
14	1年目の振り返り	令和5年3月2日(木)	8名

令和4年度 看護部教育研修実績

1. ラダーレベルⅡ相当研修

研修名	ねらい	担当	日付	場所、方法	参加人数
急変時対応	急変時に素早く対応する能力を高める	現任教育委員会 (各部署毎)	4月～	各部署内、シミュレーション等	看護師66名
ケースレポートのまとめ方	ケースレポートをまとめることで自己の看護観を深める	現任教育委員会	6月6日	研修棟3階	看護師13名
認定看護師によるケースレポート発表会	3年目対象看護師の支援として、認定看護師の発表から、ケースレポートのまとめ方や発表態度を学ぶ	現任教育委員会	7月	マイページ	看護師13名
第Ⅱ期ローテーション研修	救急医療の実際を経験することで、救急医療施設としての役割を知り、自部署での臨床看護実践に活かす	現任教育委員会	5月～9月	ER	看護師21名
第Ⅲ期ローテーション研修	在宅医療の実際を経験することで、在宅医療の役割を知り、自部署での臨床看護実践に活かす	現任教育委員会	10月～2月	訪問看護	看護師18名
フィジカルアセスメント	身体的健康上の問題を明らかにするために必要な基本的なフィジカルアセスメント能力を高める	現任教育委員会	6月10日	研修棟3階	看護師22名
看護倫理	患者の意思が尊重され最善の意思が決定されるよう支援する能力を高める	現任教育委員会	7月8日	研修棟3階	看護師18名
診療報酬	急性期病院の診療報酬について理解し、経営改善に向けた意識を養う	現任教育委員会	1月	マイページ	看護師242名
グローバルヘルス	自施設のある地域のアセスメント能力を高める	現任教育委員会	11月	マイページ	看護師252名

2. ラダーレベルⅢ相当研修

研修名	ねらい	担当	日付	場所、方法	参加人数
フィジカルアセスメント	臨床推論を学び、看護実践に結び付ける方法を学ぶ	現任教育委員会	8月12日	研修棟3階	看護師20名
看護倫理	実際の症例を検討し、実践方法について考えることができる	現任教育委員会	10月14日	研修棟3階	看護師16名
診療報酬	診療報酬改定のポイントについて	現任教育委員会	2月	マイページ	看護師216名
グローバルヘルス	日本赤十字支社の実際の活動を知り、考えることができる	現任教育委員会	3月	マイページ	看護師270名

3. 専門コース(IVナース養成研修)

研修名	ねらい	担当	日付	場所、方法	参加人数
①導入の意義と継続教育の概要	・IVナース導入の意義と役割について学ぶ ・静脈注射を安全に実施するために必要な養成研修及び継続研修プログラムについて知る	現任教育委員会	11月1日 配信開始	eラーニングによるオンライン研修	静脈注射に関わる看護師全員受講予定
①安全対策と事故防止	・静脈注射実施における法的責任と関連法規について学ぶ ・静脈注射実施時におけるインフォームドコンセントと倫理的配慮について学ぶ ・静脈注射における安全対策と事故発生時の対応について学ぶ				
②感染管理	・静脈注射実施時における感染対策を学ぶ ・器具・器材の適切な選択、取扱いと管理について学ぶ	現任教育委員会		eラーニング	
③静脈注射の実際	・静脈注射に関する基礎知識を学ぶ(種類、投与方法等) ・静脈注射の観察ポイントを学ぶ ・静脈注射に伴う合併症と予防とその対処方法について学ぶ	新人教育委員会	新人教育研修に参加		
④薬剤の基礎知識と管理	・静脈注射に関する基礎知識を学ぶ(種類、投与方法等)	現任教育委員会 (医療安全)		eラーニング	
⑤静脈注射に使用する医療機器	・輸液ポンプ、シリンジポンプの取扱い、注意点について学び、安全に使用することができる				
⑥輸血用血液製剤	・輸血用血液製剤の種類と用法、輸血の副作用と安全対策について学ぶ	現任教育委員会 (輸血療法委員会)		マイページ	
⑦体液管理	・輸液療法における体液管理について学ぶ ・循環器で使用する特殊薬剤の種類と使用方法、観察のポイントについて学ぶ	現任教育委員会		eラーニング	
⑧アナフィラキシー	・アナフィラキシーショックの原因・症状・治療について学び救急時に対応できる	現任教育委員会			
⑨薬剤の知識と管理	・抗がん剤・麻薬・催眠作用のある薬などの知識、管理、使用方法、観察ポイントについて学ぶ ・循環器で使用する特殊薬剤の種類と使用方法、観察ポイントについて学ぶ	現任教育委員会		eラーニング	21名IVナース認定
⑩CVポートの抜針	・技術演習を通してCVポートの抜針について学ぶ	現任教育委員会		実技演習	

4. 院内インストラクター研修

研修名	ねらい	担当	日付	場所、方法	参加人数
静脈注射インストラクター	職場内での安全で正確な看護技術の提供の推進者となること ができる 役割モデルを発揮できる看護師を育成する	現任教育委員会	2月	マイページ	7名
必要度インストラクター養成研修	重症度、医療・看護必要度院内指導者研修を受講、合格し、各部署での指導を担えるものを育成する	重症度、医療・看護必要度部会	8月～9月	オンライン研修	8名
災害看護論 最近の救護活動の現状と課題①	救護員看護師としての必要となる災害救護活動時の感染対策や知識について実際の事例を通して学習する	防災リンクナース	8月4日	研修棟3階	救護員養成研修受講者10名
最近の救護活動の現状と課題②	災害時の記録方法や情報共有システムの現状・取り扱い方法について学ぶ	防災リンクナース	10月12日	研修棟2階	救護員養成研修受講者9名

5. 全体(その他の研修)

研修名	ねらい	担当	日付	場所、方法	参加人数
AHA BLS研修	一次救命処置の理解・習得		5月14日	研修棟3階	8名 院内推薦者
重症度、医療・看護必要度インストラクターフォローアップ研修	必要度の正しい評価方法を再確認し、必要度評価の精度向上につなげる	重症度、医療・看護必要度部会	10月28日	研修棟3階	院内インストラクター10名
看護補助者との協働	看護師が看護補助者と協働するための知識と考え方について学ぶ	看護部	8月	マイページ	看護職員等263名
優しい認知症ケア	認知症の患者が日々笑顔で自分らしく過ごせるよう、ユマニチュードについて理解を深め実践できるようになる	認知症ケア部会	3月	マイページ	全職員593名 うち看護職員303名
医療安全	看護師が医療安全の知識を高める	医療安全リンクナース会	6月～12月	マイページ	テスト受講者総数418名
摂食嚥下	摂食嚥下障害看護に関する知識と技術の維持を目指す	摂食嚥下ケア部会	7月～12月	eラーニング	全看護職員269名
重症度、医療・看護必要度	必要度評価の精度向上を図る	重症度、医療・看護必要度部会	9月～12月	eラーニング	9月 260名 12月 253名
感染対策	医療施設内で勤務する看護職員として標準予防策を理解し実践するための自己学習とする	感染リンクナース会	5月～6月	マイページ	看護師327名
接遇・マナー	より良い看護サービスの提供ができる	CS委員会	5月～6月	eラーニング	看護職員339名
認知症・高齢者看護	認知症について理解を深め、認知症高齢者の安全と尊厳を守り個別性を考慮した看護を実践できる	認知症ケア部会	6月～12月	eラーニング	看護師273名

6. 看護補助者研修

研修名	ねらい	担当	日付	場所、方法	参加人数
今年度の看護部目標の説明	医療制度の概要及び病院の機能と組織の理解 医療チーム及び看護チームの一員としての看護補助者業務を理解する	看護補助者会	4月14日	研修棟3階	看護補助者 19名
おむつ交換	日常生活に関わる業務	看護補助者会	6月9日	研修棟3階	看護補助者 16名
感染防止対策について	看護補助者における感染防止について	看護補助者会	9月8日	研修棟3階	看護補助者 14名
認知症患者の対応	看護補助者業務を遂行するための基礎的な知識・技術	看護補助者会	11月10日	研修棟3階	看護補助者 15名
基本的な技術	患者に安全で安心な療養環境を提供する	看護補助者会	5月～12月	eラーニング	看護補助者・ クランク 31名
医療安全	看護補助者における医療安全について	看護補助者会	12月8日	研修棟3階	看護補助者 11名
守秘義務・個人情報保護	守秘義務、個人情報保護についての基礎知識を学び、看護補助者としてふさわしい行動をとることができる	看護補助者会	2月9日	研修棟3階	看護補助者 13名
次年度へ向けて	チームの一員として看護補助者の役割を知り、看護師と協働できる	看護補助者会	3月9日	研修棟3階	看護補助者 12名

7. 看護管理者研修

研修名	ねらい	担当	日付	場所、方法	参加人数
固定チームナーシングの自部署分析	自部署における現状の問題点を明確にする	看護部	6月23日	研修棟3階	師長 係長 28名
東北ブロック看護管理者研修	倫理に関する知識をもとに「看護」を考え、実践している看護を承認するとともに、求められる看護をさらに適切に提供できる看護管理能力を高める	看護部	9月4日	WEB	師長 係長 18名
ケアプロセス調査に向けて	ケアプロセス調査に対応するため、業務の見直しや記録の不備に対する対策を見出すことができる	看護部	8月25日	研修棟3階	師長 係長 25名
SWOT分析	組織分析とディスカッションにより児施設の現状と課題から看護管理者の役割を理解する	看護部	12月14日	4階看護カンファレンス室	師長10名

令和4年度 院外研修・学会等及び発表

	内容	開催日	参加者
1	福島県看護協会 認定看護管理者教育課程ファースト レベル研修	5月31日(火)～7月8日(金) 19日間	田島 一樹 國分 朋子 八巻 歩美 渡辺 由佳
2	福島県看護協会 認定看護管理者教育課程セカンドレ ベル研修	8月31日(水)～10月28日(金) 31日間	武井 明美
3	福島県看護協会 認定看護管理者教 育課程 ファーストレベルフォローアップ研修	7月27日(水)	安藤 敦子 橘 智寿子 野地 静香
4	赤十字医療施設の看護管理者研修会 (Web研修)	7月28日(木)	師長11名
5	赤十字医療施設東北ブロック看護管 理者研修 (Web研修)	9月4日(日)	師長・係長18名
6	医療安全管理者養成研修(Web研修+ 参集)	12月15日(木)	渡邉あゆみ 武田 里美
7	医療安全管理者フォローアップ研修	5月25日(水)	奈良輪弘美
8	医療安全管理者交流会	9月28日(水)	奈良輪弘美
9	認知症高齢者の看護実践に必要な知識 (Web研修)	9月7日(水)～8日(木)	齋藤 藍 古関 梢
10	病院・施設・在宅領域で働く看護師 合同職能集会	7月9日(土)	齋藤 泉 萩原 暁美
11	新人看護職員研修 教育担当者研修	7月13日(水)～15日(金)	三浦 将克
12	看護職員認知症対応力向上研修	9月15日(木)・16日(金)・ 22日(木)	鈴木 安英 清和 彩子
13	看護補助者の更なる活用のための看 護管理者研修	5月7日(土)	鈴木 安英 柳田 美穂 三浦 将克
14	看護補助者の更なる活用のための看 護管理者研修	7月17日(日)	齋藤 幸恵 菅野いづみ 泉 弘子
15	看護必要度院内指導者研修(オンライ ン研修)	7月～9月	角田 恵 田島 一樹 佐川奈美子 今野 暁子 菅野 勇勝 渡邉あけみ 安藤 敦子 佐藤 祐子
16	看護管理者懇談会	10月11日(火)	車田 真美
17	看護協会特別講話 看護職の処遇改善(Web)	5月20日(金)	鈴木 佳子 車田 真美 鈴木 安英 武田 里美 柳田 美穂 武井 明美 菅野いづみ 渡邉あゆみ
18	看護協会 県北支部研修 在宅におけるがん患者と家族を支える	6月11日(土)	齋藤 泉
19	看護協会 新人看護職員研修教育担当者研修	7月13日(水)～15日(金)	三浦 将克
20	病院、施設・在宅領域で働く看護師 合同職能集会	7月9日(土)	齋藤 泉 萩原 暁美
21	看護チームの業務のあり方に関する 集い	8月6日(土)	菅野いづみ 安達 明美
22	専任教員と臨地実習指導者の交流会	8月5日(金)	菅野いづみ 安達 明美

	内容	開催日	参加者
23	合同職能集会 「医療的ケア児の在宅移行に関するガイドライン」を周知し、活用を推進する	10月1日(土)	渡辺 和恵
24	看護補助者活用推進研修	12月7日(水)～8日(木)	渡邊あゆみ 泉 弘子
25	看護協会 新人のためのメンタルヘルス	10月13日(木)	大河内 周 山田 彩未
26	看護協会 新人看護職員研修実施指導者研修	12月21日(水)～23日(金)	磯松 咲乃 南 栞 中沢 利樹
27	看護協会 新人のための医療安全	11月17日(木)	岡崎 未紗 須藤 咲
28	看護協会 新人のための感染対策	11月30日(木)	金澤 愛美 佐藤 真帆
29	看護協会 新人のための医療現場で実施できるコミュニケーション	10月26日(水)	菅野 祥太 佐藤麗央奈
30	看護協会 医療安全推進週間事業	11月18日(金)	斎藤 明子 佐藤 美絵 遠藤 裕子
31	看護協会 看護職の働き方フォーラム	11月18日(金)	森谷 浩子 渡辺 和恵
32	新春のつどい	1月6日(金)	車田 真美
33	保健師・助産師合同職能集会	2月4日(土)	齋藤 幸恵
34	福島県助産師出向支援事業交流会	2月15日(水)	齋藤 幸恵 横田 美織
35	福島県看護協会賃金制度の抜本的見直しに関する緊急勉強会	3月8日(水)	鈴木 佳子

看護補助者

	内容	開催日	参加者
1	福島県病院協会 県北看護補助者研修会	11月29日(火)	伊藤ヒサ子 高橋 洋子 橋本 美幸 齋藤 裕子

学会・研究会

	内容	開催日	参加者
1	第17回福島県緩和医療研究会	8月6日(土)	発表者：長谷部智子
2	福島県看護学会	11月24日(木)	参加者：橘 智寿子 田島 一樹 鈴木 牧子
3	日本心血管インターベンション治療学会東北地方会	2月4日(土)	発表者：萩原 暁美
4	福島県看護協会県北支部 看護研究発表会(Web)	2月4日(土)	参加者：9名 発表者：齋藤 春奈
5	固定チーム研究会東北地方会(Web)	2月18日(土)	参加者：21名 発表者：佐藤 美絵 田島 一樹
6	第37回日本がん看護学会学術集会	2月25日(土)・26日(日)	発表者：野地 静香

令和4年度 福島県看護協会教育研修受講者(受託研修)

	研修名	研修日	受講者	人数
1	福島県看護協会 認定看護管理者教育課程 ファーストレベル	5月31日～7月8日	田島 一樹 國分 典子 渡辺 由佳 八巻 歩美	4
2	福島県看護協会 認定看護管理 セカンドレベル	8月31日～10月28日	武井 明美	1
3	福島県看護協会 看護補助者の更なる 活用のための看護管理者研修	5月7日	鈴木 安英 柳田 美穂 三浦 将克	3
4	医療安全管理者研修 フォローアップ研修	5月25日	奈良輪弘美	1
5	福島県看護協会 看護職の処遇改善	5月20日	鈴木 佳子 車田 真美 武田 里美 鈴木 安英 柳田 美穂 清和 彩子 菅野いづみ 渡邊あゆみ	8
6	福島県看護協会 県北支部研修 在宅におけるがん患者と家族を支える	6月11日	齋藤 泉	1
7	新人看護職員研修教育担当者研修	7月13日～15日	三浦 将克	1
8	オンラインセミナー研修 「重症度、医療・看護必要度」評価者 及び院内指導者研修	7月1日～9月30日	田島 一樹 角田 恵 佐川奈美子 今野 暁子 菅野 勇勝 渡邊あゆみ 安藤 敦子 佐藤 祐子	8
9	病院・施設・在宅領域で働く看護師 合同職能集会	7月9日	萩原 暁美 齋藤 泉	2
10	認定看護管理者教育課程 ファーストレベルフォローアップ研 修	7月27日	安藤 敦子 橘 智寿子 野地 静香	3
11	診療報酬改定対応研修 看護補助者の 更なる活用のための看護管理者研 修	7月17日	菅野いづみ 泉 弘子 齋藤 幸恵	3
12	看護チームの業務のあり方に関する 集い	8月6日	菅野いづみ 安達 明美	2
13	認知症高齢者の看護実践に必要な知 識	9月7日	古関 梢 齋藤 藍	2
14	看護職員認知症対応力向上研修	9月15日、16日、 22日	鈴木 安英 清和 彩子	2
15	医療安全管理者交流会	9月28日	奈良輪弘美	1
16	福島県看護協会 合同職能集会	10月1日	渡辺 和恵	1
17	看護管理者懇談会	10月11日	車田 真美	1
18	看護補助者活用推進研修	12月7日	渡邊あゆみ 泉 弘子	2
19	新人看護職員研修「新人のためのメン タルヘルス」	10月13日	大河内 周 山田 彩未	2
20	医療安全管理者養成研修 12月15日+配信研修35時間	12月15日	渡邊あゆみ 武田 里美	2
21	新人看護職員研修 実地指導者研修	12月21日～23日	磯松 咲乃 南 栞 中沢 利樹	3
22	新人看護職員研修 新人のための医 療現場で実践できるコミュニケー ション	10月26日	菅野 祥太 佐藤麗央奈	2

	研修名	研修日	受講者	人数
23	新人看護職員研修 新人のための安全対策	11月17日	岡崎 未紗 須藤 咲	2
24	新人看護職員研修 新人のための感染対策	11月30日	金澤 愛美 佐藤 優帆	2
25	医療安全推進週間 静脈血栓塞栓症の予防及び発生について	11月18日	斎藤 明子 佐藤 美絵 遠藤 裕子	3
26	看護職の働き方フォーラム	11月18日	森谷 浩子 渡辺 和恵	2
27	福島県看護協会 福島県看護学会	11月24日	橘 智寿子 田島 一樹 鈴木 牧子	3
28	福島県看護協会 新春のつどい	令和5年 1月6日	車田 真美	1
29	福島県看護協会県北支部 看護研究発表会(Web発表)	2月4日	看護職員	9
30	保健師・助産師合同職能集会	2月4日	斎藤 幸恵	1
31	助産師出向支援事業交流会	2月15日	斎藤 幸恵 横田 美織	2

令和4年度 院外研修

	研修名	研修日	受講者	参加数(人)
1	赤十字医療施設看護管理者・教育者」研修会 (Web研修)～セルフ・コンパッション～	7月28日(木)	看護師長	11
2	東北ブロック赤十字医療施設看護管理者研修 ～看護のためのポジティブ・マネジメント～	9月4日(日)	看護師長・ 係長	18
3	福島県看護協会県北支部 看護研究発表会(Web)	令和5年 2月4日(土)	看護職員	
4	固定チームナースング東北地方会(Web)	2月18日(土)	看護職員	23

(訓練除く)

院外発表

	研修名	研修日	受講者	参加数(人)
1	福島県看護協会県北支部 看護研究発表会(Web発表)	令和5年 2月4日(土)	齋藤 春奈	1
2	日本心血管インターベンション治療学会東北地方会	2月4日(土)	萩原 暁美	1
3	固定チーム研究会東北地方会(Web掲示)	2月18日(土)	佐藤 美絵 田島 一樹	2

院外補助者研修

	研修名	研修日	受講者	参加数(人)
1	福島県病院協会 看護補助者研修会(Web研修)	11月29日(火)	伊藤ヒサ子 橋本 洋子 橋本 美幸 齋藤 裕子	4

令和4年度 看護学校実習受入実績

学校名	領 域
福島看護専門学校	母性看護学 成人看護学Ⅰ 成人看護学Ⅱ 老年看護学Ⅱ 訪問看護 健康状態別看護 地域・在宅の生活を支える看護
宮城県白石高等学校	母性看護学
福島東陵高等学校	母性看護学 小児看護学
国際医療看護福祉大学校	小児看護学 基礎看護学
東北福祉看護学校	母性看護 小児看護学 成人看護学 看護の統合

令和4年度 看護学校講師派遣実績

学校名	領 域	派遣者名
福島県立医科大学	助産学Ⅱ	助産師 遠藤 裕子
福島県立医科大学	助産学Ⅲ	助産師 橘 智寿子
大原看護専門学校	災害看護学	泉 弘子
福島看護専門学校	災害看護 医療安全 看護管理 看護学Ⅰ(循環) 看護学Ⅰ(呼吸)	奈良輪弘美 医療安全推進室 齋藤 明子 認定看護管理者 鈴木 佳子 クリティカルケア認定看護師 鈴木 安英 慢性呼吸器疾患認定師 今野 暁子
国際医療看護福祉大学校	災害看護	救急看護認定看護師 渡邊あゆみ 武田 里美

令和4年度 地域活動 講師派遣実績

日 程	学校名	内 容	派遣者名
7月11日(月)	福島市立福島第一中学校	出前講座「看護職の仕事」	國分 朋子 高島 雄一
9月7日(水)	福島市立吾妻中学校	職業人に聞く会	國分 朋子 高島 雄一
11月9日(水)	福島県立北高等学校	産業社会と人間 「職業インタビュー」	佐藤亜梨沙

令和4年度 院外講師派遣実績

日程	内容	派遣人数
5月12日(木)	福島県高齢福祉課 高齢者施設に従事する看護職員向け新型コロナウイルス感染症対応に係る実技講習	感染制御実践看護師 吉田 和恵
5月13日(金)	助産学Ⅱ 分娩介助技術	高槻はる菜
6月18日(土)	第17回福島県滅菌業務研究会	第2種滅菌技士看護師 佐久間由美子
7月15日(金)	看護師特定行為研修共通科目集合研修	皮膚・排泄ケア認定看護師 佐藤 美絵
7月～11月 5日間	福島県看護協会 福島県医療機関等における看護力向上支援事業	摂食・嚥下看護認定 八木沼裕子
9月16日(金) 22日(木)	福島県看護協会 認知症対応力向上研修	認知症看護認定看護師 佐川奈美子
11月19日(土)	第18回福島県滅菌業務研究会	第2種滅菌技士看護師 佐久間由美子
8月～9月	第32回東北ストーマリハビリテーション講習会 e-learning開催	皮膚・排泄ケア認定看護師 佐藤 美絵

令和4年度 認定看護師・認定看護管理者・感染制御実践看護師

認定看護師 15名		
がん化学療法看護	森谷 浩子	野地 静香
皮膚・排泄ケア	佐藤 美絵	北原奈緒美
緩和ケア	小松真由子	新國 智子
救急看護	渡邊あゆみ	
クリティカルケア	鈴木 安英	
摂食・嚥下障害看護	八木沼裕子	
認知症看護	佐川奈美子	
脳卒中リハビリテーション看護	三浦 将克	
手術看護	根本 聡美	
慢性呼吸器疾患看護	今野 暁子	
慢性心不全疾患看護	田島 一樹	
感染管理	北村 慶	

認定看護管理者 2名	
鈴木 佳子	車田 真美

感染制御実践看護師 2名	
吉田 和恵	三浦 愛

特定行為研修制度修了看護師

特定行為研修制度修了看護師 3名	
佐藤 美絵	創傷管理関連 ろう孔管理関連
鈴木 安英	呼吸器(気道確保に係るもの)関連 呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連 動脈血液ガス分析関連
北村 慶	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連 感染に係る薬剤投与関連

認定看護師・認定看護管理者・感染制御実践看護師

認定看護師 14名		認定看護管理者 2名
がん化学療法看護	2名	感染制御実践看護師 2名
皮膚・排泄ケア	2名	
緩和ケア	2名	特定行為研修修了者 3名
救急看護	1名	
クリティカルケア	1名	
摂食・嚥下障害看護	1名	
認知症看護	1名	
脳卒中リハビリテーション看護	1名	
手術看護	1名	
慢性呼吸器疾患看護	1名	
慢性心不全疾患看護	1名	



28. 検査部

【部 長】 田崎 和洋(兼 病理診断課部長)

【技 師 長】 小林 利美(検査部技師長・臨床検査技師)

【課 長】 峯 徹次(臨床検査課長・臨床検査技師・超音波検査士)
 酒井 克也(細菌検査課長・臨床検査技師)
 根本 浩(病理検査課長 兼 細胞診係長・臨床検査技師・細胞検査士・
 認定病理検査技師)
 佐藤美千子(生理検査課長・臨床検査技師・超音波検査士)

【係 長】 佐藤 由峰(病理検査係長・臨床検査技師・認定一般検査技師)
 大竹 利典(臨床検査係長・臨床検査技師・超音波検査士)
 森川 由美(輸血検査係長・臨床検査技師)
 中田 悠希(生理検査係長・臨床検査技師・超音波検査士・血管診療技師)

【臨床検査技師】 八島亜由美、吉田 憲治、相楽 孝行、石川 梓(細胞検査士)、
 丹野麻木子、吉田 絢香、菊池麻衣子、齋藤 智美、幕田 高平、
 三浦 義喜(細胞検査士)、安部みなみ、阿部 里奈、植野 桃佳、
 菅野 和典、佐々木一美

【看 護 師】 佐藤さゆり、岡野真由美

【検査助手】 猪狩 利恵、石井美和子、鈴木 美沙

<令和4年度実績>

1. 検査件数

(1)一般検査	入院	4,644件	外来	26,812件
(2)血液検査	入院	37,610件	外来	101,064件
(3)生化学検査	入院	198,065件	外来	677,285件
(4)免疫検査	入院	21,592件	外来	89,492件
(5)微生物検査	入院	3,882件	外来	3,329件
(6)病理検査	入院	2,285件	外来	4,612件
(7)生理検査	入院	2,711件	外来	20,943件

2. 参加学会・研修会名一覧

- 1 第156回光が丘心エコー症例検討会
- 2 「みなとみらいフォーラム2022」第1回 Part 1「赤血球形態の鑑別」
- 3 第63回日本臨床細胞学会総会春季大会
- 4 第158回光が丘心エコー症例検討会
- 5 マルベリー細胞の現在・これから
- 6 「みなとみらいフォーラム2022」第1回 Part 1「上皮細胞の鑑別」
- 7 県南地区 心腎Up to date
- 8 福島心エコー Webセミナー
- 9 肺高血圧症講演会in郡山
- 10 第42回日本静脈学会総会

- 11 福島市・伊達・安達医師会 2022循環器学術講演会
- 12 Wako Webセミナー精度管理、今のままで大丈夫？～基礎から効率的・効果的な運用～
- 13 第7回かもがわVenous Forum
- 14 第159回光が丘心エコー症例検討会
- 15 救急医療webセミナー in長崎
- 16 アークレイ臨床検査セミナー2022仙台
- 17 タスクシフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会
- 18 第10回東北血管エコーセミナー2022
- 19 第7回栄研セミナー in東北
- 20 第7回東北静脈フォーラム学術集会
- 21 日本超音波医学会第64回東北地方学術集会
- 22 第160回光が丘心エコー症例検討会
- 23 北海道心筋症セミナー
- 24 第161回光が丘心エコー症例検討会
- 25 令和4年度病理部門細胞検査分野研修会
- 26 令和4年度第53回福島医学検査学会
- 27 令和4年度日臨技北日本支部臨床生理部門研修会
- 28 第1回脾臓USエキスパート養成セミナー
- 29 第162回光が丘心エコー症例検討会
- 30 福島県肺高血圧症診療連携Webセミナー
- 31 第30回福島県臨床検査精度管理調査事業報告会
- 32 令和4年度県北支部臨床化学・免疫血清検査研究班研修会
- 33 第41回福島県臨床細胞学会総会並びに学術大会
- 34 JSS東北第34回地方学術集会
- 35 福臨技リーダー育成研修会
- 36 医師の働き方改革を進めるためのタスクシフト/シェアの推進は臨床現場の何を変えるのか？
- 37 令和4年度福臨技一般検査部門研修会
- 38 令和4年度福島県血液検査分野染色体検査分野合同研修会
- 39 福臨技県北支部生理機能検査研修会
- 40 令和4年度福臨技県北支部尿一般検査研修会
- 41 令和4年度福臨技生理機能検査部門循環機能検査分野研修会
- 42 令和4年度福臨技生理機能検査部門画像検査分野研修会
- 43 令和4年度福臨技県北支部病理細胞診部門研修会
- 44 令和4年度福臨技県北支部微生物研修会
- 45 Fukushima Pathology Seminar on Lung Cancer
- 46 令和4年度生活習慣病検診等(子宮がん検診)従事者指導講習会

3. 学会・研究会発表

(1) 第156回光が丘心エコー症例検討会

開催日 令和4年4月22日(金)

演 題 「心エコー症例検討」

発表者 齋藤 智美

(2) 第162回光が丘心エコー症例検討会

開催日 令和4年11月18日(金)

演 題 「心エコー症例検討」

発表者 齋藤 智美

(3) 院内研修会

開催日 令和4年11月30日(水)

演 題 「当院における心エコーの現状」

発表者 峯 徹次

<令和5年度目標>

1. 質的向上(赤十字病院の職員としてすべてにおいて)
2. 正確かつ迅速な検査結果の提供に努める
3. 検査過誤防止に努める
4. 個々のスキルアップ(認定取得・学会発表)
5. 人材育成に努める
6. 検査業務全般の標準化

29. 事務部

【部 長】 野田 誠

総務課

【係 長】 富田 夕紀(総務課長職務代理 兼 人事係長)

【主 事】 安田美喜子、村上 尋美、葛岡 大輔、佐久間惟代

【事 務 職】 阿部 暁子、横山 碧

【医局・研修医担当】 大原有香梨、三瓶由紀子、川井茉奈美

【派 遣】 亀岡 美穂、奥山 憲一

【委 託】 電話交換室2名(コムネット)
防災センター7名(キョウワプロテック)

【業務内容】総務係・人事係・文書係において以下の業務を担当。

人事・労務、給与、全社的福利厚生、医療安全、感染対策、教育研修、各種委員会および研修会、職員健診、医局、医師臨床研修、防災・防火対策、災害対策・原子力災害対策、図書、出張、儀式・慶弔、文書管理・処理、駐車場管理、売店テナント運営、ボランティア、委託派遣他各種契約関係、不在者投票、医師会関連、病院群二次救急輪番制、当直、車両運行、医療紛争、病院開設許認可関連の等々、他課に属さない様々な業務を所管。

<令和4年度実績>

1. 人材確保事業

令和4年度も、令和2、3年度に続いて新型コロナウイルス感染症により、感染状況を見ながらの学校訪問や会場に参集しての説明会開催にできるかぎり対応した。

(1. 看護師)

新型コロナウイルス感染症の院内感染防止対策のため、養成学校訪問や説明会・インターンシップについては、感染状況を見ながら対応病院や看護部の看護体制等を紹介する動画を作成し、ホームページや外部就職ガイダンスの場にて募集活動を実施。併せて学校への募集要項郵送の方法を例年通り実施。

(2. 医療技術職)

薬剤師の募集活動を実施。薬剤、リハビリテーション、放射線、検査、栄養の各部門においては、新型コロナ感染防止対策を施しながら、可能な限り実習及び見学を受入し人材確保活動を実施。

(3. 臨床研修医)

臨床研修プログラム委員会を中心とした、指導医の丁寧な指導教育と他職種研修医教育体制との連携強化により研修医師に対する充実した研修について、新型コロナ感染防止対策を施しながら病院説明会・見学会をオンラインおよび当院内にて開催、またオンライン院外ガイダンス等にて紹介し募集活動を実施。

(4. 障がい者雇用継続確保)

ここ数年、障がいを持つ職員の退職により法定雇用率を下回る状況となっている。よって、公共職業安定所・障害者雇用関連事業所等と連携し、人材確保活動継続するとともに院内での配置部門や業務の洗い出し等の検討実施。

2. 『就業管理システム』の整備

2024年より施行となる医師の働き方改革に向けて、また職員の勤務状況を正確に把握するため令和4年12月より全職員へ『就業管理システム』を導入。今までの出勤簿の作成作業や休暇申請書・時間外申請書の提出、集計作業等が大幅に解消された。また、医師の働き方改革に向けて、医局会や各診療科へ医師の働き方改革の説明や時間外労働について改めて説明した。今後はデータ化された職員の勤務データを活用しながら、適正な労務管理に努める。

3. 院内感染対策関係事業

感染対策委員会事務局として感染管理室とともに、令和2年度から継続している新型コロナウイルス感染症関連業務の年間を通じた増加に対応。更に関連する国の指針変更追加等による福島県および福島市他院外関係機関ならびに院内との連絡調整、対策対応体制整備、お知らせ案内他の情報共有伝達業務の増加にも適宜対応。

4. 行事、イベント等

(1. 院外)

新型コロナウイルス感染症による影響を受けて令和2年度、3年度に引き続き東北ブロック赤十字病院球技大会(当番：福島)等も開催を見送ったが、年度後半より少しずつ学会等も現地開催の参加者も増えてきた。第58回日赤医学会(開催：北海道ブロック・当番：旭川)等にも以前と比べると少数であるが職員が参加した。令和4年12月には、当院を会場に日本赤十字社病院長連盟移動役員会を開催し、令和4年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を考慮した書面審査ではあったが、本社指導監査、保健所「病院立入検査」にかかる事務全般を担当。

(2. 院内)

年間を通し多目的ホール他で開催される会議、委員会、勉強会、講演会ならびに法定研修を含む各種研修については、令和2年度以降新型コロナ感染防止対策を講じながら、参集、院内システム掲示板、マイページを利用したオンラインによる書面開催等各部会にて開催方法を検討調整し実施。

5. 病院機能評価受審のための活動

令和5年3月の病院機能評価受審に向けての準備として、総務課に関連する下記の業務について改めて、院内の体制を整備した。

1)『教育研修推進室』の整備及び職員必須研修の計画的な実施

2)委託・派遣職員への管理体制の整備と研修の実施

3)倫理委員会、臨床倫理コンサルテーションチームの院内職員への周知

4)院内マニュアルの整備のルール化

院内関係部署と打ち合わせを行いながら、ルール等を整備、周知し運用した。機能評価受審査後も継続して活動を行っている。

<令和5年度目標>

- 1) 働き方改革(医師の働き方含む)に向けた労務管理体制の推進
・『就業管理システム』活用し、休暇取得日数による有給休暇の取得推進、時間外の多い職員への啓発
- 2) 院内共通の手続きについての手続き簡素化の検討、手続きのマニュアルの整備
・結婚、住所変更など職員が対応すべき手続きに関する通知文書を作成
・マイページへ様式と共に掲載し、手続きの簡素化を図る
- 3) 適正および必要な人員の確保・配置・管理
- 4) 職員の人材育成強化のため、『教育研修推進室』の役割を強化する
・院内の研修の管理、職員の資格取得等へのサポート体制の整備
- 5) 所管業務の明文化・システム化・効率化

経営企画課

【課長】 松本 修

【係長】 奈良輪大輔(兼 第2医療情報システム係長)

【主事】 佐藤 隆昭(兼 医療情報システム課)
金子 瑛
横山 剛(兼 医療情報システム課)

<令和4年度実績>

- ・各種統計、データ分析(本社報告、自治体報告、DPCデータ分析など)
- ・診療科・コメディカル部門に対する幹部ヒアリング事務
- ・各種加算の施設基準取得に向けた分析、検討
- ・適正な人員配置の検討
- ・設備投資に係る方針の検討
- ・月次収支管理
- ・予算策定、資金繰りに関する検討
- ・コロナ関連補助金申請に関する事務
- ・ホームページ、広報誌、Facebook等による情報発信
- ・病院機能評価受審に係る事務局

<令和5年度目標>

- ・経営部会の運営による収支改善に係る各種施策の立案、実行、進捗管理
- ・データ分析による課題抽出、経営改善活動の推進及び医療の質向上に係る検討
- ・情報発信の強化

医療情報システム課

【課長職務代理】 二階堂雄平(兼 第1医療情報システム係長)

【係長】 奈良輪大輔(兼 経営企画係長)

【主事】 佐藤 隆昭(兼 経営企画課)

<令和4年度実績>

① 医療情報システムの安定運用の継続

(院内全システムのサポートセンター業務)

- QA・要望対応
- 障害時調査(復旧対応、一次切り分け)
- 帳票作成・修正
- ハード故障交換(プリンタ・端末・その他機器)

(運用調整)

- 運用調整・全体説明
- システム操作説明
- メーカー対応
- 掲示板、グループウェアメンテナンス

(システム管理)

- 機器管理(サーバ・端末・その他機器)
- セキュリティ管理(USB、ウイルス対応)
- ネットワーク管理(新規接続許可、不正接続防止)
- 本社インベントリ管理・報告
- 機器・プログラム購入手続き
- 新規システム導入検討
- パソコン全般に対する問い合わせ

(データ抽出・調査)

- 定期的な統計(病床機能報告、自治体統計等)
- データ分析・学会、論文データ(検定)対応
- その他データ調査 等

② 次期システム更新に向けた計画の策定

- 第3次医療情報システム稼働調整・全体周知
- 各種WGのコントロール
- 運用フローの検討・作成
- システム選定・価格交渉(ソフト・ハード)
- メーカー作業調整
- マスタ設定作業支援
- システム操作、運用説明
- 次期システムにかかる開発作業
- 院内規定の制定 等

③ システムに関する技術・専門性を活かした費用削減活動

- 保守費用の削減活動
- システム設定変更対応
- システム帳票カスタマイズ
- 新規システム・ツールなどの開発
- 機器修理(PCが起動しない等)
- 誤って消した重要データ復旧
- 他システムへのデータ移行

○システム端末の複製及び設定 等

④ データを活用したコスト削減、運用適正化の実践

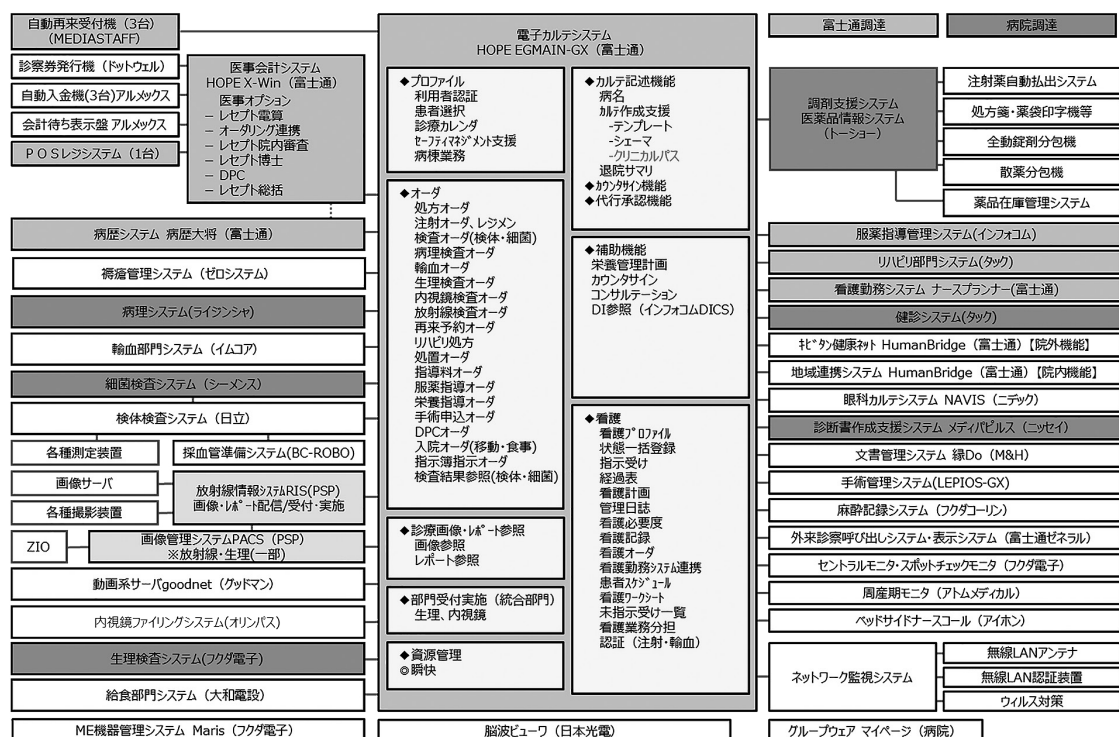
○医療情報システム以外のデータも活用したデータの分析

○各種データから見える無駄な費用の削減活動 等

<トピックス>

- ・診療・院内業務における課題抽出・改善活動・マクロ開発による業務効率化
- ・院内情報の円滑な共有推進のための活動
- ・医療情報システム全般のメンテナンス、障害・QA対応、ウイルス対策
- ・動画によるコンテンツのアーカイブ化活動
- ・委員会、ワーキンググループのグループウェア利活用の推進
- ・新型コロナウイルスによる院内対応のデータ支援作業 等

福島赤十字病院 第3次医療情報システム全体構成図



<令和5年度目標>

① 医療情報システムの安定運用の継続

※ 厚生労働省『医療情報システムの安全管理に関するガイドライン』に則した医療情報システムの適正な管理の遂行

② システム更新・新規導入に向けた計画の策定

③ システムに関する技術・専門性を活かした費用削減活動

④ データを活用したコスト削減、運用適正化の実践

⑤ 院内の働き方改革を意識した業務改善活動の推進

会計課

【課長】 吉田 秀雄

【主 事】 阿部 宣子、佐藤恵美子、山名慎一郎

【事務員】 羽田恵津子、大橋 睦子

＜令和4年度実績＞

- 1) 令和3年度医療施設特別会計決算報告書作成
- 2) 令和5年度医療施設特別会計歳入歳出予算概要書作成
- 3) 令和3年度収益事業決算報告書作成
- 4) 令和3年度消費税収支決算報告書作成
- 5) 令和4年度中の運転資金極度借入手続き及び本社交付書類行使報告
- 6) 令和4年度中の運転資金短期借入金本社承認手続き及び交付書類行使報告
- 7) 令和4年度各運営費補助金及び設備整備事業補助金関係事務処理
 - ・福島県病床確保支援事業補助金
 - ・福島県新型コロナウイルス感染患者受入体制強化事業補助金
 - ・福島県新型コロナウイルス感染症患者等入院医療機関設備整備事業補助金
 - ・新型コロナウイルス感染症患者等入院受入医療機関緊急支援事業補助金
 - ・新型コロナウイルス感染症個別接種促進事業補助金
 - ・看護職員等処遇改善事業補助金
 - ・福島県内視鏡訓練設備整備事業補助金
 - ・重点医療機関設備整備事業補助金
 - ・帰国者・接触者外来等設備整備事業補助金
 - ・救急・周産期・小児医療体制確保事業補助金
 - ・福島市発熱外来運営助成金
 - ・福島市新型コロナウイルス感染症患者に係る受入医療機関特別給付金
 - ・赤十字医療施設新型コロナウイルス感染症医療提供体制整備事業補助金
 - ・福島県新人看護職員研修事業費補助金
 - ・福島県産科医等確保支援事業補助金 他
- 8) 令和4年度財政調整事業資金借入手続き
- 9) 令和5年度固定資産非課税措置適用申請
- 10) 年末調整の電子化

＜令和5年度目標＞

「決算事務・予算事務の効率化」

用度施設課

【課 長】 野地 幸次

【係 長】 池田 久光(用度係長)、濱名 正美(施設係長)

【主 事】 菅野八重子

【技術員】 加藤 仁義(電気)

【委託職員(中央監視室技術員)】 5名

＜令和4年度実績＞

- 1) 診療材料費の前年度比1%削減

- 2) 診療材料、一般消耗物品等の在庫適正管理
- 3) 医薬品費の価格交渉による前年度比1%削減
- 4) 施設設備及び電気設備の無事故運転維持管理推進
- 5) 電力購入単価削減推進、維持点検費用の削減推進
- 6) 省エネルギー推進によるエネルギー使用量前年度比1%削減
- 7) 感染性医療廃棄物排出量前年度比1%削減
- 8) エネルギー施設設備の無事故運転維持管理推進及び建物設備の適宜修理と迅速対応
- 9) 病院から発する騒音問題の地域住民との和解
- 10) 令和2年度地震被害復旧工事完了、報告書の提出
- 11) 令和3年度地震被害調査、損害填補へ申請
- 12) 令和3年度地震被害復旧工事
- 13) 病院建設工事における不具合是正早期解決(設計会社及び施工会社等と定例会開催)

日付	品 名	規格・型式	台数	設置場所
04.04.26	内視鏡洗浄消毒装置	OER-5	1	内視鏡室
04.05.09	全身麻酔システム	Atlan350	1	手術室
04.05.31	解析付心電計	FCP-8700	1	ER
04.06.24	検査用生物顕微鏡	エクリプスCi-L Plus	1	臨床検査部
04.06.29	汎用型超音波診断装置	Voluson P8 BT18	1	産婦人科
04.06.30	汎用型超音波診断装置	Venue Go	1	手術室
04.06.30	アイシングシステム	CE4000	1	ME
04.07.20	血小板凝集能測定装置	VerifyNowシステム	1	臨床検査部
04.07.29	全身麻酔器	Carestation750	1	手術室
04.08.10	筋電計	MEM-8301	1	耳鼻咽喉科
04.08.15	MRI超音波融合画像診断システム	Biojet	1	泌尿器科
04.08.15	下肢静脈瘤治療レーザー	Leonardo Bonsai 1470	1	心臓血管外科
04.08.15	造影剤自動注入装置	Civ インジェクションシステム	1	IVRセンター
04.08.15	超音波デブリードマン機器	ウルトラキュレット	1	形成外科
04.08.26	アイシングシステム	CE4000	1	ME
04.08.29	生物顕微鏡	エクリプスSi	1	皮膚科
04.09.05	インバーターヘマトクリット遠心機	モデル3220	1	臨床検査部
04.09.09	タニケットシステム	Delfi PTSii 60-1000-101-00	1	IVRセンター
04.09.22	電動油圧手術台	MOT VS600Di	1	手術室
04.10.07	人工心肺装置	HASⅢ	1	手術室
04.10.07	体外循環用システム	TRUSYS HTS-C式	1	手術室
04.10.07	冷温水槽	メラHHC-300	1	手術室
04.10.07	体外循環自動記録	PC-CAPTEN	1	手術室
04.10.07	除細動器	TEC-5631	1	IVRセンター
04.10.07	除細動器	TEC-5621	1	5階フロア
04.10.19	高周波手術装置	VIO3 5ソケットモデル E125000	1	手術室
04.11.30	全自動散薬分包機	Ai-8080win	1	薬剤部
04.12.21	膀胱尿量測定器	キューブスキャン BioCon-900s	1	泌尿器科
04.12.21	生物顕微鏡	エクリプスSi	1	内視鏡室
04.12.22	超音波画像診断	Aplio flex	1	ER
05.02.28	X線発生装置	50kwインバーター 一般撮影装置Radnext50	1	健診センター

05.02.28	FPDシステム	CALNEO Smart C77 一式	1	健診センター
05.03.17	全身麻酔器	Carestation750	1	手術室
05.03.17	麻酔記録装置		1	手術室
05.03.24	ベッドサイドモニタ	DS-8400システム	1	手術室
05.03.24	内視鏡手術システム	VISERA ELITEⅢ	1	手術室
05.03.31	外科用X線撮影装置	OPESCOPE ACTENO	1	手術室

<令和5年度目標>

- 1) 診療材料費の前年度比1%削減
- 2) 診療材料、一般消耗物品等の在庫適正管理
- 3) 医薬品費の価格交渉による前年度比1%削減
- 4) 施設設備及び電気設備の無事故運転維持管理推進
- 5) 電力購入単価削減推進、維持点検費用の削減推進
- 6) 省エネルギー推進によるエネルギー使用量前年度比1%削減
- 7) 感染性医療廃棄物排出量前年度比1%削減
- 8) エネルギー施設設備の無事故運転維持管理推進及び建物設備の適宜修理と迅速対応
- 9) 病院から発する騒音問題の地域住民との和解
- 10) 令和3年度地震被害調査、損害填補へ申請
- 11) 令和3年度地震被害復旧工事完了、報告書の提出
- 12) 病院建設工事における不具合是正早期解決(設計会社及び施工会社等と定例会開催)

医事課

【課 長】 菊田 基晴(兼 診療支援室)

【係 長】 阿部 育子(兼 診療情報管理係長)
金原 昭世(入院係長)
野地 美佳(外来係長)
斎藤 智浩(患者サービス推進室長 兼 病歴管理係長)

【主 事】 加藤 菜月、三浦 有樹、穴澤 詩織、渡邊 千尋

【事務職】 志田 沙織、鈴木奈美子、芳賀 瑞樹、横山 光羽、佐藤 郁美

【委 託】 入院4名(ニチイ学館) 外来20名(ニチイ学館) 医事20名(ニチイ学館)

【業務内容】

医事係・入院係・外来係・診療情報管理係・病歴管理係において、下記の業務を担当。

診療に関する契約、診療録その他諸記録の整理保存、医事統計、患者受付及び接遇、入院手続き、各種入院保証サービス手続き、入院・外来の料金算定及び支払請求、保険請求(レセプト作成・請求)、DPC対応全般、病歴管理、病歴統計、診療報酬に伴う施設基準の届出、各種委員会の運営、その他、コロナ患者の受け入れ、インフルエンザ予防接種受付、外国人患者の取り扱いなど、医事に関して多岐にわたる業務を所管。

<令和4年活動実績>

1. 適切な保険請求実現のため、項目毎の算定チェックを実施し、査定・返戻の削減を図った。

2. 「DPC導入の影響評価にかかる調査」のデータを、正確かつ遅滞なく提出した。
3. 院内共有サイト・マイページによる「保険診療に関する研修会（年2回）」を実施した。
4. 新型コロナウイルス感染症に係る診療報酬上の臨時的な取り扱いの情報収集・対策策定・および運営。
5. 連帯保証人に代わるサービスとして、預り金・連帯保証人代行サービス・治療費立替払いサービスを導入した。
6. 病院機能評価Vo2の医事課に関連する項目（診療記録・外来機能・医療の質等）を担当。

【主な活動】

- 4月：新入職員向け研修会で医事課業務（保険診療・診療報酬、DPC制度、施設基準）の説明を実施。
- 4月：国より子宮頸がん予防ワクチンの推奨が再開され、キャッチアップ接種開始の通達あり。関係部署へ周知を行い運用を開始した。
- 4月：休日日中のER受診患者の処方院外の門前薬局で対応可能となり運用開始。（輪番制）
- 5月：保険診療に関する講習会（第1回）、院内共有サイトにて開催。
タイトル「令和4年度診療報酬改定」受講者数585名。
- 7月：「コロナ感染症の診療・検査医療機関」に認定された。
- 7月：精神科病棟閉鎖に伴い、入院請求業務を停止した。
- 8月：院内クラスター発生に伴い外来診療を縮小。対面診療、電話診療に振り分けて外来診療を継続した。
- 8月：外来完全予約制移行に向け外来受診の流れ等、外来に関するホームページをリニューアルした。
- 10月：東北福祉大学の実習生2名を受入れ（10月・11月）医事課、診療支援課、システム課、経営企画課、地域医療連携室、各課外来で業務内容の説明及び指導・評価を行った。
- 10月：初再診時選定療養費の金額と対象患者の改定があり、院内紹介受診患者に関する運用の決定、ER受診患者からの徴収負担なし等の見直しを行った。
- 10月：コロナ治療薬「ラゲブリオカプセル」の院外処方開始。運用を決定し対応を行った。
- 10月：「ものわすれ外来」が終了となる。
- 11月：インフルエンザ予防接種の受付業務実施。
- 11月：連帯保証人代行サービス「ライフカード」と、預り金10万円の運用を開始。
- 12月：1Fエントランスにコンシェルジュ1名を配置し、患者サービスの向上を図った。
- 1月：福島市からの依頼で、年末年始の感染症疑い患者受入対応として発熱外来を設置。
24名の患者対応を行った。
- 2月：同意書の書式が統一され、システムに登録された。基本的に医師は印を使用せずに署名のみとした。
- 2月：初診時選定療養費（7,700円）に該当する患者様からの、同意書取得を開始した。
- 2月：医事課トレーナーを担当する金原・野地・三浦が、新人教育トレーナー研修へ参加。
- 2月：適正なDPCコーディングを目的とした「ふくろくん」研修会を、医局にて計6回開催した。
- 3月：保険診療に関する講習会（第2回）、院内共有サイトにて開催。
タイトル「保険診療・診療報酬と記録」受講者数530名。
- 3月：病院機能評価Vo2受審時における、項目ごとの準備と対応を担当。

<令和5年度目標>

- ・正しく保険請求を行い、算定漏れをなくし、査定率・返戻率を減らすことを推進する。
- ・診療報酬の内容を理解し、算定項目、算定件数の増加を図り、「費用を掛けずに収益改善」を目指す。
- ・施設基準を正確に把握し、新規取得、変更届、適時調査等に適切に対応する。
- ・DPCコーディングの精度を上げ、医業収益の向上に貢献する。
- ・医事データ・様式1等のデータ入力を正確に行い、滞りなく厚生労働省にDPCデータを提

出し、DPC係数の向上に貢献する。

- ・マイナンバーカード・電子処方箋等国が推進する制度に適切に対応し業務の効率化を図る。
- ・適切な医事データの収集及び発信を行うことにより医療の質の向上に貢献する。

健診課

【健診センター長】 寺島久美子

【健診課長】 阿部 美幸

【保健師】 渡辺 由佳、赤間 由美、渡辺 純枝、齋藤かおり

【事務員】 渡辺真奈美、美野 陽子、渡邊 幸子、長岡 里恵

<令和4年度実績>

1. 健診実績

	令和3年度	令和4年度	前年度比
人間ドック	377名	421名	44名
政府管掌(一般・付加)	954名	989名	35名
福島市民検診	587名	476名	△111名
一般健診	536名	515名	△21名
健康診断	1,111名	982名	△129名
特定健診	328名	243名	△85名
その他	662名	641名	△21名
健診件数合計	4,555名	4,267名	△288名
健診収益	83,939,354円	80,852,900円	△3,086,454円

2. 保健指導実績

	令和3年度	令和4年度	前年度比
保健指導 人数	505名	504名	△1名
収益	4,626,492円	4,535,784円	△90,708円

3. 甲状腺検査実績

	令和3年度	令和4年度	前年度比
甲状腺検査 人数	81名	40名	△41名
収益	702,108円	346,720円	△355,388円

2022年8月に院内クラスターが発生し、健診者の胃カメラ検査は8月19日～9月9日まで中止となった。この間の健診予約者の日程変更を行ったため、8月～9月の健診者数が減少した。また、12月頃から健診予約者のコロナ感染・濃厚接触によるキャンセル事例が増加した。直前のキャンセルのため他の予約を入れることもできず、貴重な胃カメラ枠が空枠になる事象が発生した。キャンセルした方の再予約により新規予約を取ることが難しく、12月以降の収益も伸びなかった。

職員健診において総務課と詳細な業務分担を行った。(問診票・検査キットの配布・結果送付等の業務を2023年度から当課に委譲。)受診報告書の管理・未報告職員に再通知・受診勧奨・統計業務の充実を図った。

<令和5年度目標>

(1) 健診・保健指導収益について

① 健診の収益アップ

- ☐ 人間ドック件数の増加

2023年度はスタッフ数が減少するため健診者数の大幅な増加は難しいが、単価の高い人間ドック受診者数の割合を増やすことで収益増を目指す。

② 保健指導の収益アップと指導内容の充実

- ☐ 保健指導件数を増やしていく。
- ☐ 人間ドック健診情報管理指導士のブラッシュアップ研修、健康づくりサポーター講習会等の各種研修を受講し、指導スキルアップを図る。
- ☐ 保健指導の遅延等を予防するため、保健指導担当者は「特定保健指導進捗状況報告書」を提出し係長が確認する。

(2) 業務改善について

- ☐ 市民検診予約方法の改善

2022年度から市民検診の予約受付方法を見直し、事前に整理券を配布して指定日に再度来院して予約を取る方法に変更した。待ち時間短縮と予約混雑回避にはつながったが、外来患者来院時間と重なりエントランス・駐車場の混雑が認められたため、2023年度は受付時間を7時30分～12時に早めて対応する。

- ☐ 業務マニュアル・業務分担の見直し

各種マニュアルを見直すとともに、一つの業務を複数のスタッフが担当できるように業務分担や担当変更を実施していく。

(3) スタッフの能力向上と部署の活性化について

- ☐ 定期的にカンファレンスを開催し、健診者に有益な情報の共有や保健指導スキル向上を図る。
- ☐ 健診件数や収益状況等のデータを共有し、部署目標を設定する。
- ☐ 部署目標に沿って個人目標を立案し目標達成に向けて行動する。

(4) 職員の健康管理の充実について

- ☐ 総務課が担当していた職員健診業務の委譲。
- ☐ 要精査・要治療者に対する受診勧奨・未受診者に対する受診勧奨を行い、二次検査受診率向上を目指す。
- ☐ 職員のワクチン接種(4種抗体等)を引き続き当課で担当し感染管理室の業務軽減を図る。(令和3年度後半から開始)

(5) 労働安全衛生活動について

- ☐ 安全衛生委員会の活動として、衛生管理者による職場ラウンドを実施し労働安全上のリスクを軽減する。
※労働安全衛生法で、衛生管理者による職場巡視は週1回以上が義務づけられている。
第1種衛生管理者免許保持者：渡辺由佳・赤間由美・渡辺純枝・齋藤かおり
(4名とも保健師免許による申請で免許取得)

【室 長】 齋藤 智浩(兼 医事課病歴管理係長)

＜令和4年度実績＞

1. 患者相談室一次対応者会議開催(12回)
2. 患者対応相談員カンファレンス開催(32回)
3. 患者相談対応件数(43件)
4. 診療記録等開示件数(27件)
5. 顧客サービス広報委員会開催(12回)
6. 医療従事者負担軽減対策委員会開催(3回)

＜令和5年度目標＞

1. 親しまれる病院となるよう、患者さんと病院の橋渡しとして、患者さんに接したい。
2. 患者さんの相談に耳を傾け、病院(職員)に抱いていた誤解や負のイメージを解消できるよう努めたい。
3. クレームの対象とされた職員への精神的フォロー等に心掛けたい。
4. クレーマーのレッテルを貼られた患者さんに“(自分は病院からクレーマーとみられていることを)自覚”させ、言動を改善してもらうよう促していきたい。
5. 診療記録等の開示は、申請日から2週間以内を目指す。



30. 医療安全推進室

【医療安全推進室長】 出羽 明子(兼 副院長)

【医療安全管理者】 齋藤 明子(兼 看護師長)

【医療安全推進室員】 川村 早苗(兼 薬剤部病棟業務課長)、峯 徹次(兼 生理検査課長)
橋本 健一(兼 臨床工学技術課長)、富田 夕紀(兼 総務課長代理)
奈良輪弘美(兼 看護師長)

＜令和4年度実績＞

1. 医療安全研修
 - 1) 患者誤認防止対策 資料学習+テスト
受講人数：631名
 - 2) インフォームドコンセント 資料学習+テスト
受講人数：608名
 - 3) 「一次救命処置：BLS研修」動画視聴+テスト
受講人数：595名
 - 4) 新採用職員オリエンテーション：医療安全

2. QCサークル活動

実施月日	項 目
6月20日	QCサークル活動キックオフ
7月15日	活動計画書提出
11月18日	中間報告書提出
1月6日	原稿データ提出
1月16日	QCサークル活動発表会
1月17日	QCサークル活動発表会
1月27日	最優秀賞：外来 優 秀 賞：3B病棟・会計課・6A病棟

3. 医療安全対策および医療安全推進室の活動

実施月	項 目	対策等の活動内容
通年	医療安全推進室メンバーによる安全ラウンド	医療安全ラウンド、医薬品・医療機器安全ラウンド及びヒヤリハット・アクシデント発生時のラウンドを実施する。
通年	医療安全研修について	新型コロナウイルス感染防止のために動画による研修を企画
通年	医療安全推進室カンファレンス	毎週木曜日に前週1週間に報告のあった事例について分析して対策を検討
通年	医療安全推進委員会 ワーキンググループ活動	①患者誤認防止対策チーム ②転倒転落防止対策チーム ③薬剤管理安全対策チーム
医療安全 対策①	術前休薬が必要な骨粗鬆薬 (ホルモン剤)	手術前日に入院し骨粗鬆薬(ホルモン剤)は、術前中止が必要な薬剤であったことが判明し、手術が延期された。薬剤部と検討し、エビスタ錠とビビアント錠を3日間休薬が必要な薬剤であることを薬剤部掲示版の術前休薬が必要な薬剤に追加する。
医療安全 対策②	離床キャッチ使用状況表示	離床キャッチを使用している患者が転倒転落をした際、離床キャッチの電源がOFFになっていた。医療安全推進委員会の転倒転落防止対策チームで離床キャッチの使用状況がわかる表示プレートを作成しベットサイドに設置するようにした。
医療安全 対策③	アレルギー情報の共有	ERトリアーージ記録に食物アレルギーの記載があったが、患者プロフィール・アセスメントシートへの入力がなく、患者にアレルギー食材が提供された。システム課と検討し、ERトリアーージ記録にアレルギーが入力された場合、ワーニング表示されるようにした。
医療安全 対策④	アナフィラキシー 初期対応フロー作成・掲示	アナフィラキシー対応フロー表示がCT室にのみ表示されていた。造影剤だけでなく、抗菌薬・筋弛緩薬・局所麻酔剤・輸血等でもアレルギーをおこすことが考えられるため、アナフィラキシー初期対応フローを作成し、救急カートに配置することにした。

<令和5年度目標>

1. 医療安全ラウンド

- 1) 医薬品・医療機器安全ラウンド・コメディカル部門安全ラウンド・医療安全環境ラウンド・転倒転落ラウンド等、院内各部署のラウンドを実施する。
- 2) ラウンド結果は各部署にフィードバックし必要時改善計画書の提出を求める。
- 3) ヒヤリハット・アクシデント事例発生時には随時ラウンドを実施する。

2. 医療安全研修会開催

- 1) 全職員対象の研修はマイページを利用し受講率アップを図る。

- 2) BLS研修を全職員対象に行う。
- 3) 東北ブロック赤十字病院医療安全推進担当者研修を企画・運営する。

3. 医療安全推進室カンファレンス開催
毎週木曜日に、前週に発生したヒヤリハット・アクシデント事例について分析と対策立案を行いフィードバックする。
4. 医療安全地域連携の相互評価を実施して当院の安全対策向上に努める。
5. QCサークル活動の推進。

31. 感染管理室

【室 長】 管野 隆三(兼 呼吸器外科部長)

【室 員】 吉田 和恵(兼 感染制御実践看護師 兼 看護係長)

1. 研修会開催
 - 1) 院内感染研修

実施月日	対象者		テーマ	参加人数
4月5日	新人入職者(医師、看護師、薬剤師、事務等)		福島赤十字病院における感染対策	24名
5月16日～6月13日	全職員	第1回	「2021年度当院における感染状況のまとめ」	621名
10月26日～11月26日	全職員	第2回	「季節性インフルエンザ」	604名

- 2) 委託職員への感染研修 10月5日 感染対策の基本について
- 3) 中途採用者への感染研修 資料配布・30分間

2. 感染対策(感染管理室およびICTの活動)

実施月	項 目	対策などの活動内容
通年	感染対策マニュアルの改訂	内容見直し
通年	耐性菌サーベイランス	JANIS(全入院患者部門、検査部門)
通年	SSIサーベイランス	JANIS
通年	院内感染対策委員会議事録の掲示	12回電子カルテに提示
通年	ICTラウンド	52回目的別ラウンドを実施(抗菌薬・耐性菌・環境ラウンドなど)
通年	感染研修の実施	感染研修一覧参照
通年	職業感染防止(ワクチン接種)	HBVワクチン、麻疹・風疹・水痘・ムンプス、インフルエンザ
通年	新型コロナワクチン	職員新型コロナワクチン接種
通年	合同カンファレンス	4回開催(藤田病院、わたり病院、第一病院、西部病院、福島市保健所、県北保健所、福島市医師会、伊達市医師会、連携クリニック)
通年	相互評価	2回開催(大原総合病院、北福島医療センター)

通年	結核接触者調査	結核届出数2件
通年	保健所へ感染届提出	発生届483件(結核届を除く)
通年	院内感染対策事例対応	8件
通年	コロナ陽性患者受入れ対応	283名(令和4年度)
令和5年5月	新型コロナウイルス感染症対応	新型コロナウイルス感染症5類移行後対応の作成

<令和5年度目標>

1. 新型コロナウイルス感染症における院内感染防止
 - 1) 標準予防策の徹底
2. 効果的に感染研修を開催する

参加者の知識や認知度に沿った内容の研修を企画し実施する
3. 感染対策加算に係る合同カンファレンス、相互ラウンドの実施
4. ICT活動を通じて感染対策の充実を図る
 - 1) ICT会議、目的別ラウンドを週1回開催する
 - (1) 耐性菌サーベイランスのフィードバック方法を見直し、電子カルテの活用
 - (2) 接触予防策ラウンド等の指導項目が改善される
 - (3) 手術部位感染(SSI)サーベイランスを継続と、対象手術の拡大
 - (4) カテーテル関連尿路感染(CAUTI)サーベイランスの開始
 - (5) 人工呼吸器関連事象(VAE)サーベイランスの継続と、プロセスサーベイランスの実施、関連部門フィードバック
5. 抗菌薬適正使用支援チーム活動の活発化
 - (1) 届出抗菌薬投与患者ラウンドの定期的な実施(1回/週)
 - (2) 投与患者に対し効果的な各種培養検査を推奨
 - (3) 抗菌薬適正使用関連感染研修の開催(2回/年)



32. 診療支援室

【診療支援副室長】 菊田 基晴(兼 医事課長)

【診療支援係長】 高田日出子

【事務員】 樋口 由紀、山岸 優子、菅野 香子、鈴木 幸子、木村 仁美、齋藤 有沙、
根本 美穂、松川いつか、井上 希美、鈴木かおり、八巻 千恵、須永万里子、
黒江安希子、岡崎さゆり

<令和4年度実績>

- 1) 「入院総括」作成支援及び作成率向上に貢献
- 2) 病棟入院患者「実施済注射伝票」「実施済配置薬」入力支援
- 3) 「紹介状」入力支援
- 4) 外来診察代行入力支援

(循環器内科、眼科、リウマチ膠原病内科、消化器内科、呼吸器外科、脳外科)
- 5) 問診票入力支援(内科、消化器内科、糖尿病代謝内科)
- 6) 指導料・管理料代行入力支援
- 7) 文書作成支援
- 8) 返書作成支援

- 9) 予約入院パス代行入力支援
- 10) NCD等調査支援
- 11) 福島県循環器疾患発症登録(心筋梗塞、急性死、脳卒中)支援
- 12) JND症例登録支援
- 13) JOANR登録支援
- 14) がん登録

<令和5年度目標>

- 1) 上記1)～14)を継続し医師の負担軽減に努める。
- 2) 医師事務作業補助体制加算20対1の維持に努める。(令和3年7月より算定)

33. 地域医療連携室

【室 長】 田畑 友子

地域医療連携係

【係 長】 伊藤 和子

【看護 師】 野田 江美

【社会福祉士】 松田千絵美、助川智恵子

【事務 員】 高田 淳子

<令和4年度実績>

地域医療支援病院の紹介率算定対象である初診の紹介件数は6,548件(前年度比-91件)と前年度より減少したが、逆紹介は、精神科の縮小による逆紹介増が影響し7,889件(+583件)と増加した。紹介率は102.6%、逆紹介率は123.6%と高い率を維持している。紹介率・逆紹介率はともに地域医療支援病院の基準値を上回り、安定した数値で経過している。紹介・逆紹介数上位の医療機関は下記の通りである。

紹 介			逆紹介		
1	福島県立医科大学附属病院	577件	1	福島県立医科大学附属病院	904件
2	わたり病院	216件	2	わたり病院	428件
3	やざわみほこレディースクリニック	176件	3	大原医療センター	290件
4	うめつLS内科クリニック	173件	4	北福島医療センター	241件
5	北福島医療センター	172件	5	大原総合病院	208件
6	大原総合病院	143件	6	やざわみほこレディースクリニック	196件
6	きっかわ皮膚科	143件	7	あづま脳神経外科病院	181件
7	おがたクリニック	138件	8	一陽会病院	173件
9	公立藤田病院	125件	9	うめつLS内科クリニック	162件
10	みみ・はな・のど まついクリニック	124件	10	ほりこし心身クリニック	160件
11	大山クリニック	116件	11	公立藤田病院	132件
12	桑名医院	114件	12	ふくしま在宅緩和ケアクリニック	103件

共同利用については、CTは13医療機関より計258件(前年度比+99件)、MRIは15医療機関より計96件(-60件)、脳波は6医療機関より62件(+13件)、関節エコーは1医療機関より10件(-8件)、骨塩定量は4医療機関より29件(+18件)、神経伝導速度測定は2医療機関より6件(-2件)であった。レントゲン単純撮影と乳房撮影の利用はなかった。CT・MRI共同利用の上位の医療機関は下記の通りである。

CT			MRI		
1	君島乳腺クリニック	84件	1	わたり病院	26件
2	さくま内科クリニック	76件	2	ライフ・ナビクリニック	19件
3	スリープ呼吸器内科クリニック	35件	3	西口クリニック婦人科	13件
4	村上耳鼻咽喉科	23件	4	本田クリニック産婦人科	9件
5	北町丹治医院	13件	5	いわた整形	7件

地域医療従事者研修会は、新型コロナウイルス感染症流行の影響により一部中止としたものもあったが、主にハイブリット形式にて下記の通り開催した。

	内容・講師	対 象	日 時	参加人数
1	COVID-19の検査の種類について 講師：検査部技師長 小林 利美	地域の医療従事者	6月30日(木) 18:00~19:00	院内35名 院外38名
2	コロナウイルス感染症・当院の現況 講師：呼吸器外科部長兼感染管理室長 菅野 隆三	地域の医療従事者	7月27日(水) 18:00~19:00	院内48名 院外26名
3	CVポート管理の実践 講師：がん化学療法看護認定看護師 野地 静香	地域の看護職	9月15日(木) 18:00~19:00	院内12名 院外21名
4	高血圧管理におけるミネラルコルチコイド受容体の重要性 講師：副院長兼循環器センター長 大和田尊之	地域の医療従事者	10月20日(木) 19:00~19:50	院外17名
5	尿路感染症について 講師：皮膚・排泄ケア認定看護師 北原奈緒美	地域の看護職	10月24日(月) 18:00~19:00	院内12名 院外21名
6	基本のストーマケアからトラブルシューティング 講師：皮膚・排泄ケア認定看護師 佐藤 美絵	地域の看護職	11月30日(水) 18:00~19:00	院内8名 院外10名
7	高齢者の栄養管理について 講師：管理栄養士 小河原貴之	地域の医療・介護従事者	12月20日(火) 18:00~19:00	院内6名 院外15名
8	輸血製剤の取り扱いについて 講師：福島県赤十字血液センター 渡邊 範彦 先生	地域の医療従事者	12月22日(木) 18:00~18:45	院内560名 院外1名
9	脳卒中症例検討会	関係スタッフ	(1月予定も中止)	

<令和5年度目標>

- 地域医療支援病院としての役割を果たす。
 - ①安定した紹介率・逆紹介率を維持する。
 - ②地域医療従事者研修会を開催し、地域の医療のレベルアップに寄与する。
 - ③地域医療支援委員会を開催し、地域の中での当院の課題を明らかにして対応に生かす。
- 紹介患者のスムーズな受け入れに心がける。
 - ①近隣医療機関への協力を依頼し、可能な限り予約での来院をうながす。
 - ②即日診療依頼の不应需数を減少させる。
- 感染予防には十分注意し、予約受付を行う。
 - ①紹介元医療機関へ問診票記入の協力を依頼する。
 - ②電話対応時にも感染症の可能性について注意して聞き取り、外来師長との連携を図る。

退院支援係・医療福祉係

【係 長】 高根 晴美(兼 入退院支援係長 兼 看護係長 退院支援担当)
菅野 直樹(医療福祉係長 精神保健福祉士)

【看護師】 佐藤美智子(退院支援担当)

【社会福祉士】 丸山 絢子(退院支援担当)
岡崎 美紀(退院支援担当)
渡邊 真衣(医療相談・患者サポート窓口担当)

<令和4年度実績>

患者の抱えている問題に対して相談員が対応した件数は下記の通りであった。新型コロナウイルス感染症の影響による患者数の減少に伴い、相談支援件数は前年度同様減少傾向であった。退院支援においては、高齢・独居に加え認知症や悪性疾患等多問題のために退院を困難にしている入院患者増加の傾向は変わらず、さらに感染対策による面会制限も加わり、退院困難となることがあった。問題解決のために、院内多職種との協働、また地域の医療機関・福祉・介護スタッフとの連携を深め、合同カンファレンスの開催等は可能な限り行った。

相談員は看護職と福祉職が混在しているが、得意不得意分野を補い合える体制としている。また、勉強会を定期的に行うことにより、情報共有や学び合う機会を持ち、支援の質向上に努めてきた。

対応ケース実人数・・・2,679名(延べ相談件数7,641件)

* 主な相談援助調整内容・・・

在宅療養・介護に関すること 573件

制度活用に関すること 574件

受診・受療に関すること 553件

経済的問題に関すること 94件

その他 337件

* 退院に関するもの・・・1,471名(延べ相談件数5,510件)

他の病院転院 619名

(連携パス利用：脳卒中157件 大腿骨頸部骨折75件)

施設入所 255名

自宅退院 597名

* 在宅スタッフとの合同カンファレンス・・・167回

<令和5年度目標>

1. ていねいな面接と院内他職種との協働、地域の関係医療・福祉・介護スタッフとの連携に心がける。(常に患者の「生活」を柱に支援する。)
2. オンラインの活用により合同カンファレンスを積極的に行うことで、患者支援の質向上を目指す。

入退院支援センター

【看護師】 霜山 千秋
鶴田 彩夏
岩谷 伽奈

【事務】 ニチイスタッフ

<令和4年度実績>

入院が必要になった患者が安心して治療を受けながら入院生活を送ることができるよう支援することを目的としている。看護師が中心となり看護面談を行って患者情報を取得し、必要時には薬剤師やMSW等他職種との連携を図ることで、入院が予定された時から退院後の療養生活を見据えて必要な支援を早期に開始することができる。それにより、患者が一日も早く健康を回復し、住み慣れた生活の場に戻ることができることを目指している。また、事務担当者は、入院日までに必要な手続きや書類等についての説明を行い、準備をスムーズに行うことができるように支援している。入院当日は当センターに来室し、書類の確認の後に病棟からの迎えを待つが、入院前に関わりを持ったスタッフが迎えることで、患者の安心感につながるのではないかと考える。外来、病棟との情報共有が課題であったが、看護部との定期的な打ち合わせを行い、電子カルテ上の伝達についてルール化した。

看護面談の対応は2,695件(予定1,635件、外来からの依頼即日対応1,060件)であった。

<令和5年度目標>

1. 患者が、入院後の治療・療養生活をイメージでき、安心して入院当日を迎えることができるようにする。
2. 入院前から退院後の生活を見据えた必要な支援につなげることができるようにする。
3. 外来、病棟との情報共有を行うことで、スムーズな入院支援を行うことができるようにする。

34. 福島赤十字訪問看護ステーション

【スタッフ】 5名

【所 長】 齋藤 泉

【看 護 師】 高橋美千代、中村 広子、安田みどり、黒沢真由美

<令和4年度実績>

利用者数(のべ人数)	介護保険1,001人・医療保険162人	合計1,163人
新規利用者数	介護保険52人・医療保険28人	合計80人
訪問件数(のべ件数)	介護保険3,629件・医療保険758件	合計4,387件
介護保険単価(介護保険の収益/介護保険件数)	7,800円	
医療保険単価(医療保険の収益/医療保険件数)	12,300円	
在宅看取り数	30件	

- ・利用者数・新規利用者数ともに前年を下回っていた。利用者のうち、母体病院又は主治医である利用者は4～6割であった。また、退院カンファレンスに積極的に参加し、入院中の患者が安心して在宅療養に移行できるよう支援していく。
- ・新規利用者数は前年度より減少している。在宅サービスの需要は増加傾向にあると思われるが、市内に新規訪問看護ステーションの増加等の要因もあり新規利用者の獲得が厳しい状況にある。病院地域連携室との連携を密にし、新規利用者の受け入れを継続する。
- ・サービス内容については多様性であり、個別性のある支援が求められた。スタッフは、研修会等に積極的に参加しスタッフ1人1人の看護力やサービスの質向上に努めた。

<令和5年度目標>

- 1) 利用者の療養生活に合わせた療養支援の充実を図る

スタッフ個々のスキルを向上させ、看護の提供を行う。

意志決定支援を充実させ、療養者の意志を尊重した看護の提供を行う。

2) 地域連携強化

地域ケア会議に参加し、地域多職種との情報共有を行い連携する。今まで構築された信頼関係を継続し、新規利用者の獲得につなげる。

3) 感染症対策の徹底

病院との連携を図り感染対策を徹底し、訪問を行う。自己の体調管理をしっかり行い、利用者に必要なサービスの提供を行えるようにする。

4) 業務継続に向けた取り組みの強化

感染症や災害が発生した場合でも必要な介護サービスが継続的に提供できる体制を構築する。事業所でのマニュアル作成等を行い運用する。(令和5年度末まで)

V

会議・委員会活動

1. 会議.....	129
2. 病院運営に関する委員会.....	132
3. 医療安全管理に関する委員会.....	140
4. 診療に関する委員会.....	146
5. 教育・研究に関する委員会.....	153
6. 労務および安全管理に関する委員会...	154



1. 会議

1. 幹部会議	
目 的	本院における経営方針および業務の運営・管理に関する重要事項を審議する。
開催日	議 題
1：原則、毎週月曜日(祝日の場合は火曜日) 2：時間 8時30分から	1：病院および幹部週間行事予定等の確認 2：病院における経営方針および業務の運営・管理に関する重要事項の審議 3：病院全体および各部門における運営等に関する報告、検討、協議事項の掌握 4：各部門(医療安全、感染他)情報共有伝達
令和4年4月	4日(月) 11日(月) 18日(月) 25日(月)
5月	2日(月) 9日(月) 16日(月) 23日(月) 30日(月)
6月	6日(月) 13日(月) 20日(月) 27日(月)
7月	4日(月) 11日(月) 19日(火) 25日(月)
8月	1日(月) 8日(月) 16日(火) 22日(月) 29日(月)
9月	5日(月) 12日(月) 20日(火) 26日(月)
10月	3日(月) 11日(火) 17日(月) 24日(月)
11月	7日(月) 14日(月) 21日(月) 28日(月)
12月	5日(月) 12日(月) 19日(月) 26日(月)
令和5年1月	4日(水) 10日(火) 16日(月) 23日(月) 30日(月)
2月	6日(月) 13日(月) 20日(月) 27日(月)
3月	6日(月) 13日(月) 20日(月) 27日(月)

2. 経営会議	
目 的	本院における経営および業務の運営・管理に関する重要事項を検討する。
第1回	令和4年4月28日(木)
1. 令和4年度会議運営について(総務課・富田) 2. 令和3年度収支状況(経営企画課・松本課長) 3. 院長、副院長、院長補佐、委員より 4. その他	
第2回	令和4年5月31日(火)
1. 令和4年度収支状況(経営企画課・松本課長) 2. 院長、副院長、院長補佐、委員より 3. その他	
第3回	令和4年6月29日(水)
1. 令和4年度収支状況(経営企画課・松本課長) 2. 院長、副院長、院長補佐、委員より 3. その他	
第4回	令和4年7月28日(木)
1. 令和4年度収支状況(経営企画課・松本課長) 2. 院長、副院長、院長補佐、委員より 3. その他	
第5回	令和4年9月30日(金)
1. 令和4年度収支状況(経営企画課・松本課長) 2. 院長、副院長、院長補佐、委員より 3. その他	

第6回	令和4年10月31日(月)
1. 令和4年度収支状況(経営企画課・松本課長) 2. 10月以降の病床確保料と当面の対応について(経営企画課・松本課長) 3. 休日／時間外／深夜加算1について(医事課長) 4. 院長、副院長、院長補佐、委員より	
第7回	令和4年12月27日(火)
1. 令和4年度収支状況(経営企画課・松本課長) 2. 3A救急12床と3B病棟の統合(経営企画課・松本課長) 3. 院長、副院長、院長補佐、委員より	
第8回	令和5年1月31日(火)
1. 令和4年度収支状況(経営企画課・松本課長) 2. 院長、副院長、院長補佐、委員より	
第9回	令和5年2月28日(火)
1. 令和4年度収支状況(経営企画課・松本課長) 2. 院長、副院長、院長補佐、委員より	

3. 管理会議	
目 的	本院の管理および運営に関する事項を審議する。
第1回	令和4年4月4日(月)
1. 人事異動に伴う新任委員紹介 2. 令和3年2月収支状況、各種目標数値 3. 令和3年度収支見込および令和4年度予算について 4. 救急車収容状況等報告 5. 各委員会報告	
第2回	令和4年5月9日(月)
1. 令和3年3月収支状況、各種目標数値 2. 救急車収容状況等報告 3. 電話診療実施に伴う「オンライン診療を行う医師向けの研修」受講のご案内 4. 各委員会報告	
第3回	令和4年6月1日(水)
1. 4月収支状況、各種目標数値 2. 救急車収容状況等報告 3. 職員の綱紀粛正について 4. 各委員会報告 5. PHSの取り扱いについて	
第4回	令和4年7月1日(金)
1. 5月収支状況、各種目標数値 2. 救急車収容状況等報告 3. ポストコロナに向けて 4. 各委員会報告	
第5回	令和4年8月1日(月)
1. 6月収支状況、各種目標数値 2. 救急車収容状況等報告 3. 各委員会報告	
第6回	令和4年9月1日(木)
1. 7月収支状況、各種目標数値 2. 救急車収容状況等報告 3. 各委員会報告 4. 自動精算機の稼働時間の変更について 5. 年俸の作成について	
第7回	令和4年10月3日(月)
1. 8月収支状況、各種目標数値 2. 救急車収容状況等報告 3. 後期高齢者の窓口負担割合の変更について 4. 選定療養費の変更について 5. 看護職員等処遇改善評価料の算定について 6. リハビリテーション早期離床加算の算定について 7. 7病棟の運用について 8. 各委員会報告 9. 土曜日の院外処方箋を発行する調剤薬局の営業時間変更について 10. 地震被害の修復作業および瑕疵是正工事の実施について	

第8回	令和4年11月1日(火)
1. 9月収支状況、各種目標数値 2. 救急車収容状況等報告 3. 初診時選定療養費について 4. 各委員会報告 5. 接遇マニュアルの策定について 6. 7病棟の運用(訪問看護ステーションの移転)について 7. 就業管理システムの導入について 8. NHK海外たすけあいについて 9. 地震被害の修復作業および瑕疵是正工事の実施について	
第9回	令和4年12月1日(木)
1. 10月収支状況、各種目標数値 2. 救急車収容状況等報告 3. 各委員会報告 4. 訪問看護ステーションの移転について 5. 海外たすけあいへの協力について 6. 就業管理システムの導入について 7. 患者満足度調査の実施について 8. 看護師特定行為に関する研修会の開催について 9. 年末調整の実施について 10. インフルエンザワクチンについて	
第10回	令和5年1月5日(木)
1. 11月収支状況、各種目標数値 2. 救急車収容状況等報告 3. 各委員会報告 4. 病院機能評価受審について 5. 就業管理システムについて	
第11回	令和5年2月1日(水)
1. 12月収支状況、各種目標数値 2. 救急車収容状況等報告 3. 各委員会報告 4. 病院機能評価当日のスケジュールについて 5. 病院機能評価受審に向けての職員へのお願い	
第12回	令和5年3月1日(水)
1. 1月収支状況、各種目標数値 2. 各委員会報告 3. 病院機能評価受審について 4. 新型コロナウイルス5類移行に向けての取り組みについて 5. 医療安全管理マニュアル(過去の紙ファイル)の廃棄について	



2. 病院運営に関する委員会

4. 倫理委員会	
目 的	本院およびその職員が人を対象とした医学の研究、ヒトゲノム・遺伝子解析研究および医療行為を行う場合において、医の倫理に関するヘルシンキ宣言(1964年)の趣旨に添った倫理的配慮を図る。
委 員 長 副委員長	出羽 明子(副院長 兼 医療安全推進室長) 大和田尊之(副院長)
第 1 回	令和 4 年 6 月 7 日(火)
1. 倫理委員会を開催する基準について 2. 研究倫理審査の仕方について 3. 臨床倫理新規医療技術実施申請書運用について	
第 2 回	令和 4 年 6 月 15 日(水)
1. 新規医療技術実施申請 「肝細胞癌に対するアイエーコール動注(NewFP療法)」	
第 3 回	令和 4 年 6 月 28 日(火)
1. 新規医療技術実施申請 「頭蓋内動脈ステント(脳動脈瘤治療用Flow Diverter)」 2. 新規医療技術実施申請 「脳動脈瘤塞栓支援用インプラント」 3. 倫理審査申請 「当院におけるアルコール性肝疾患の出血リスクおよび治療についての検討」	
第 4 回	令和 4 年 7 月 20 日(水)
1. 倫理審査申請 「膵胆道悪性腫瘍に対する化学療法の治療成績に関する臨床研究」 2. 新規医療技術実施申請 「前立腺針生検法(MRI撮影・超音波検査融合画像)」	
第 5 回	令和 4 年 8 月 2 日(火)
1. 新規医療技術実施申請 「Free Styleリブレ」	
第 6 回	令和 4 年 10 月 5 日(水)
1. 新規医療技術実施申請 「内喉頭筋内注入術」 2. 新規医療技術実施申請 「超音波内視鏡下穿刺吸引生検」 3. 新規医療技術実施申請 「胃静脈瘤内視鏡的組織接着剤注入術」	

第7回	令和5年1月19日(木)
1. 新規医療技術実施申請 「超音波内視鏡下瘻孔形成術(臍のう胞ドレナージ術を含む。胆管ドレナージ術は含まない。)」	
2. 倫理審査申請 「当院における子宮腫瘍手術症例における術前画像診断と術後病理診断の関連に関する後方視的臨床研究」	
3. 倫理審査申請 「当院における異所性妊娠の手術成績と管理の現状に関する後方視的臨床研究」	
4. 倫理審査申請 「当院における腹腔鏡下子宮全摘手術症例、および腹式子宮全摘手術症例の手術成績に関する後方視的臨床研究」	
迅速審査	
1. 倫理審査申請 「低用量投与下におけるサクビトリル・バルサルタン開始初期の血圧」	
2. 新規医療技術実施申請 「下肢静脈瘤血管内焼灼術、血管内塞栓術」	
3. 倫理審査申請 「レセプトおよびDPCデータを用いた循環器疾患における医療の質に関する研究」	
4. 倫理審査変更申請 「早期全身性エリテマトーデスに対するペリムマブの有効性と安全性を検討するプラセボ対照無作為化二重盲検並行群間比較試験」	
5. 倫理審査申請 Surgical outcomes and trends in incidence of ectopic pregnancy(EP): a single-center study-Results from 259 surgical of EP over a20-year period	
6. 倫理審査申請 「わが国における腸重積症のサーベイランスの実施」	

5. 治験審査委員会	
目 的	「治験審査委員会標準業務手順書」参照。
委 員 長	大和田尊之(副院長)
副委員長	管野 隆三(呼吸器外科部長)
令和4年度会議開催は有りませんでした。	

6. 栄養管理委員会	
目 的	本院の給食計画および給食全般の改善実施について、検討並びに院長の諮問に応える。
委 員 長	渡部 研一(循環器内科部主任部長 兼 医療技術部長)
副委員長	佐藤 義憲(糖尿病・代謝内科部長)
第1回	令和4年4月19日(火)
・栄養管理委員会委員変更 ・栄養指導件数、個別栄養食事管理加算件数 ・日赤本社衛生マニュアル改定について ・診療報酬改定に伴う栄養課の対応について ・今年度の会議開催、議事録運用について	
第2回	令和4年6月21日(火)
・栄養指導件数、個別栄養食事管理加算件数 ・食材料費について ・遅食の保管場所について ・ワーファリン服用による納豆禁の把握について	

第3回	令和4年8月16日(火)
～マイページ開催～ ・栄養指導件数、個別栄養食事管理加算件数 ・検便検査等マニュアル改訂 ・栄養管理マニュアル改訂	
第4回	令和4年10月18日(火)
議題なし	
第5回	令和4年12月20日(火)
・栄養指導件数、個別栄養食事管理加算件数 ・嗜好調査結果 ・栄養管理マニュアル改訂	
第6回	令和5年2月21日(火)
～マイページ開催～ ・栄養指導件数、個別栄養食事管理加算件数 ・栄養管理マニュアル改訂	

7. 診療材料等購入審議委員会	
目 的	健全な業務運営に資することを目的とし、本院において使用する診療材料の購入、使用および管理等の適正化を図る。
委 員 長	大和田尊之(副院長)
副委員長	大須賀文彦(外科部長)
委員会の開催なし	

8. 災害対策委員会	
目 的	災害発生時における医療救護および被害の拡大防止・災害復旧並びに災害・火災から職員、患者の生命、身体および施設等を守るため、災害・防火対策に関する必要な事項を定める。
委 員 長	遠藤 豪一(外科部主任部長)
副委員長	渡部 研一(循環器内科部主任部長 兼 医療技術部長) 市川 剛(脳神経外科部長 兼 救急科部長) 中村耕一郎(脳神経内科部主任部長)
第1回	令和4年7月1日(金)
1. 今年度の災害対策委員会委員について 2. 当院所属のDMAT隊員の状況 3. 災害対策マニュアルの改訂について 4. 今年度の災害救護訓練・研修開催について 5. その他報告・連絡・確認事項等	

9. 医療情報システム検討委員会	
目 的	病院の医療情報の一元化を図り、総合的な医療情報システムの確立、段階的に診療システム導入としてオーダリングシステム、電子カルテシステムの構築など将来的なシステムに関する事項を調査検討して、導入の可能性の有無および導入時期・システム規模等について審議する。
委 員 長 副委員長	多田 靖宏(耳鼻咽喉科部主任部長 兼 医療情報部門責任者) 渡部 研一(循環器内科部主任部長 兼 医療技術部長)
第1回	令和4年10月26日(水)
1. 【報告事項】 1. 令和4年度システム検討委員会の委員について 2. システムの機能変更の報告 3. システム更新の予定について 2. 【検討事項】 1. 機能追加・変更について 2. システム導入・更新の導入について 3. 【各部署より定例報告】 4. 【その他連絡事項】	
第2回	令和5年2月10日(金)
1. 【報告事項】 (1) 1. システムの機能変更の報告 2. 【検討事項】 (1) 1. 機能追加・変更について 2. 福島赤十字病院USBメモリ取扱規定について 3. 【各部署より定例報告】 4. 【その他連絡事項】	

10. 地域医療連携運営委員会	
目 的	本院と地域の医療機関が診療に関して緊密な連携を図ることにより、地域医療により良い環境を整える。
委 員 長 副委員長	鈴木 恭一(院長) 田畑 友子(地域医療連携室長)
第1回	令和4年6月9日(木) 16:30~17:30
1. 令和4年度地域医療連携運営委員会委員の変更について 2. 報告事項 1)実績報告(紹介率・逆紹介率) 3. 検討事項 1)共同利用について ①ペースメーカー植え込み患者のMRI撮影依頼の対応について ②神経伝導速度測定 of 金額設定について 2)皮膚科受診する患者の身体管理のバックアップ体制について 3)地域連携懇話会開催について	
第2回	令和4年10月19日(水) 17:00~18:00
1. 報告事項 1)実績報告(紹介率・逆紹介率) 2. 検討事項 1)紹介受診重点医療機関について共同利用について 2)きびたん健康ネットについて 3. その他 1)地域医療連携業務マニュアルの改訂について ①福島医大・北福島医療センターなど、受診予約に必要な書式の変更について ②書類の年号変更について ③連携システム導入により返書管理方法の一部変更について	

11. 病床管理委員会	
目 的	ベッドコントロールの円滑化と病床の有効活用。
委 員 長	大和田尊之(副院長)
副委員長	車田 真美(看護副部長)
令和4年度活動実績なし	

12. 外来運営委員会	
目 的	外来診療の適正な管理、運営を図ることを目的とする。
委 員 長	大和田尊之(副院長)
副委員長	多田 靖宏(耳鼻咽喉科部主任部長 兼 医療情報部門責任者) 森谷 浩子(外来看護師長)
第1回	令和4年10月4日(火)
①初再診時選定療養費改定に伴う外来運用変更(他科受診患者より徴収)について ②コロナ感染症院内クラスター発生時における電話診療対応等の振り返りと今後に向けて ③小児科外来における発熱等感染症疑い患者の発熱外来棟を使用した外来診療について	
第2回	令和5年1月23日(月)
①外来診療完全予約制移行に伴う予約なし当日受診希望患者の運用について ②患者満足度調査の結果に基づいた今後の対策について ③2階吹き抜け部分の転落防止策検討について	

13. 診療報酬適正化委員会	
目 的	本院における適正算定および査定防止を図る。
委 員 長	黒田 聖仁(消化器内科部主任部長)
副委員長	遠藤 豪一(外科部主任部長)
第1回	令和4年4月27日(水)
1. 令和3年12月、令和4年1月診療分保険査定について 2. その他	
第2回	令和4年6月22日(水)
1. 令和4年2月、令和4年3月診療分保険査定について 2. その他	
第3回	令和4年8月24日(水)
1. 令和4年4月診療分保険査定について 2. その他	
第4回	令和4年10月26日(水)
1. 令和4年5月、令和4年6月診療分保険査定について 2. その他	
第5回	令和4年12月26日(月)
1. 令和4年7月、令和4年8月診療分保険査定について 2. その他	
第6回	令和5年2月22日(水)
1. 令和4年9月、令和4年10月診療分保険査定について	

14. 薬事委員会	
目 的	本委員会は、福島赤十字病院における医薬品の適正な管理と効率的な運用を目指すために設立された。その目的は、医薬品管理の標準化を達成することによって、診療部門における医療の質を保つことに貢献すると共に、病院経営上のコストベネフィットを向上させることである。そのために本委員会では、有効性、安全性、経済性、合理性、フェアネスを基準として採用可否を審査している。
委 員 長 副委員長	市橋 淳(薬剤部長) 黒田 聖仁(消化器内科部主任部長)
第1回	令和4年5月9日(月)
	1. 臨時採用、新規採用、削除品の検討 2. DI情報(添付文書改訂) 3. 副作用報告 4. 薬剤流通に関する情報(供給遅延・再開、販売中止) 5. R4年度インフルエンザHAワクチン株の決定について
第2回	令和4年7月4日(月)
	1. 臨時採用、新規採用、院外限定採用、削除品の検討 2. DI情報(添付文書改訂) 3. 薬剤流通に関する情報(供給遅延・再開、自主回収、販売中止) 4. 後発品への変更
第3回	令和4年9月5日(月)
	1. 臨時採用、新規採用、院外限定採用、削除品 2. DI情報(添付文書改訂) 3. 薬剤流通に関する情報(供給遅延・再開、自主回収、販売中止)
第4回	令和4年11月7日(月)
	1. 臨時採用、新規採用、削除品の検討 2. DI情報(添付文書改訂) 3. 薬剤流通に関する情報(供給遅延・再開) 4. 後発品への変更 5. 院外処方箋における処方日数上限の変更
第5回	令和5年1月16日(月)
	1. 臨時採用、新規採用、院外限定採用、削除品の検討 2. DI情報(添付文書改訂) 3. 薬剤流通に関する情報(供給遅延、販売中止) 4. 副作用報告 5. 後発品への変更 6. セフトリアキソンNa静注用のCa含有製剤との配合変化に対応する対応
第6回	令和5年3月7日(火)
	1. 臨時採用、新規採用、院外限定採用、削除品の検討 2. DI情報(添付文書改訂) 3. 薬剤流通に関する情報(供給遅延・再開、販売中止) 4. 副作用報告 5. 後発品への変更

15. 顧客サービス・広報委員会	
目 的	療養環境・職場環境・接遇の改善等により、顧客(患者)の満足度を向上させ、顧客(患者)を意識した正確な情報発信を検討する。
委 員 長 副委員長	野田 誠(事務部長) 阪本 貴之(医局長 兼 循環器内科部長) 安達 明美(看護部7階病棟看護師長)
第1回	令和4年4月22日(金)
	1. 来月の主な行事等 2. ご意見箱について 3. 広報業務(Facebook、Webサイト等)について 4. その他 各部門からの情報提供、懸案事項等
第2回	令和4年5月27日(金)
	1. 来月の主な行事等 2. ご意見箱について 3. 広報業務(Facebook、Webサイト等)について 4. その他 各部門からの情報提供、懸案事項等

第3回	令和4年6月24日(金)
1. 来月の主な行事等 2. ご意見箱について 3. 広報業務(Facebook、Webサイト等)について	
第4回	令和4年8月5日(金)
1. 来月の主な行事等 2. ご意見箱について 3. 広報業務(Facebook、Webサイト等)について 4. その他 ・患者満足度調査の実施について ・接遇改善目的アンケートの集計結果報告 ・接遇マニュアル(案)について ・各部門からの情報提供、懸案事項等	
第5回	令和4年8月26日(金)
1. 来月の主な行事等 2. ご意見箱について 3. 広報業務(Facebook、Webサイト等)について 4. その他 ・患者満足度調査の延期について ・接遇マニュアル(案)について ・各部門からの情報提供、懸案事項等	
第6回	令和4年9月30日(金)
1. 来月の主な行事等 2. ご意見箱について 3. 広報業務(Facebook、Webサイト等)について 4. 接遇マニュアルについて 5. その他 各部門からの情報提供、懸案事項等	
第7回	令和4年10月28日(金)
1. 来月の主な行事等 2. ご意見箱について 3. 広報業務(Facebook、Webサイト等)について 4. その他 各部門からの情報提供、懸案事項等	
第8回	令和4年11月25日(金)
1. 来月の主な行事等 2. ご意見箱について 3. 広報業務(Facebook、Webサイト等)について 4. その他 ・看護部サービスアンケートについて ・顧客満足度調査の集計結果について ・各部門からの情報提供、懸案事項等	
第9回	令和4年12月23日(金)
1. 来月の主な行事等 2. ご意見箱について 3. 広報業務(Facebook、Webサイト等)について	
第10回	令和5年1月27日(金)
1. 来月の主な行事等 2. ご意見箱について 3. 広報業務(Facebook、Webサイト等)について 4. その他 ・患者満足度調査結果(改善・注意ゾーン)に対する検討報告	
第11回	令和5年2月17日(金)
1. 来月の主な行事等 2. ご意見箱について 3. 広報業務(Facebook、Webサイト等)について	
第12回	令和5年3月24日(金)
1. 来月の主な行事等 2. ご意見箱について 3. 広報業務(Facebook、Webサイト等)について	

16. 個人情報保護委員会	
目 的	患者様、職員の個人情報を適正に管理するための規則の取り決め、周知、教育を行う。
委 員 長	野田 誠(事務部長)
委員会の開催なし	
令和5年1月5日 マイページで個人情報保護研修を実施した。	

17. 省エネルギー推進委員会	
目 的	本委員会は福島赤十字病院の省エネルギー活動を効果的に推進することを目的として、省エネ法に適合したエネルギー管理方針を定め運用する。
委 員 長 副委員長 エネルギー管理 企画推進委員	大和田尊之(副院長) 野田 誠(事務部長) 濱名 正美(用度施設課施設係長 兼 電気係長)
第 1 回	令和 4 年 5 月 26 日(木) 会場 16:00~17:00 多目的ホール 2
1. 令和 3 年度全体のエネルギー使用量の報告 2. 令和 4 年度 4 月エネルギー使用量について 3. ES事業者から 4. 空調管理規定、電気機器管理規定について ・空調について ・コンセント、照明について 5. 省エネパトロールについて ・各委員よりパトロールの報告 6. その他 ・持ち込み機器ガイドラインについて	
第 2 回	令和 4 年 7 月 21 日(木) 会場 16:00~17:00 多目的ホール 2
1. 5 月、6 月のエネルギー使用量について 2. ES事業より ・エネルギー、空調、コンセント、照明の使用量について ・省エネ推進について 3. 空調管理規定、電気機器管理規定について ・空調について ・コンセント、照明について 4. 啓蒙、啓発活動について ①省エネパトロールについてのご意見 ②省エネに協力をお願いする放送について 5. その他 役員変更のお知らせ	
第 3 回	令和 4 年 12 月 7 日(水) 会場 16:00~17:00 多目的ホール 2
1. 7 月、11 月のエネルギー使用量について 2. ES事業より 3. 空調管理規定、電気機器管理規定について ・空調管理規定について ・電気機器管理規定について 4. ウォームビズのお願い ・職員にウォームビズのお願い 5. 啓蒙、啓発活動について ・省エネパトロールについて ・各委員よりパトロールの報告 6. その他 東北電力冬の節電キャンペーンについて	
第 4 回	令和 5 年 2 月 8 日(水) 会場 16:00~17:00 多目的ホール 2
1. 12 月、1 月のエネルギー使用量について 今年度 4 月~1 月までのエネルギー使用量について 2. ES事業より 3. 空調管理規定、電気機器管理規定について ・空調管理規定について ・電気機器管理規定について 4. 啓蒙、啓発活動について ・省エネパトロールについて ・各委員よりパトロールの報告 5. その他 看護部から省エネの提案	



3. 医療安全管理に関する委員会

18. 医療安全管理委員会	
目 的	医療事故防止対策の検討および推進を図る。
委 員 長	鈴木 恭一(院長)
副委員長	出羽 明子(副院長 兼 医療安全推進室長)
第1回	令和4年4月26日(火)
1. アクシデント事例検討 2. メチルロザニリン塩化物の遺伝毒性および発がん性に対する対応 3. 患者家族からの暴言・暴力に対応マニュアル変更について 4. 医療安全推進委員会報告 5. 患者相談室カンファレンス報告 6. 3月分死亡患者カルテ確認結果報告 7. 合併症事例について	
第2回	令和4年6月3日(金)
1. アクシデント事例5事例検討 2. 医療安全管理指針の改定について 3. 医療安全推進委員会報告 4. 患者相談室カンファレンス報告 5. 4月分死亡患者カルテ確認結果報告 6. 報告書管理体制加算について 7. 医薬品の安全使用のための業務手順書一部改訂について	
第3回	令和4年6月23日(木)
1. アクシデント事例2事例検討 2. 事例報告 3. 医療安全管理マニュアルの追加・修正 4. 医療安全推進委員会報告 5. 患者相談室カンファレンス報告 6. 5月分死亡患者カルテ確認結果報告 7. 重症患者初期支援充実加算取得の診療報酬上の施設基準について	
第4回	令和4年7月28日(木)
1. アクシデント事例1事例検討 2. カルテ作成手順に関して 3. 精神科閉鎖病棟における携帯電話の使用に関して 4. リブレによる血糖値持続モニタリング 5. 一人診療科バックアップ体制について 6. 医療安全推進委員会報告 7. 患者相談室カンファレンス報告 8. 6月分死亡患者カルテ確認結果報告	
第5回	令和4年8月31日(水)
1. アクシデント事例1事例検討 2. 新規同意書申請 3. 医療安全推進委員会報告 4. 患者相談室カンファレンス報告 5. 7月分死亡患者カルテ確認結果報告 6. 死亡事例報告	
第6回	令和4年9月22日(木)
1. アクシデント事例1事例検討 2. 医療安全推進委員会報告 3. 患者相談室カンファレンス報告 4. 8月分死亡患者カルテ確認結果報告 5. 入院案内の見直し 6. 室料差額同意書見直し修正	
第7回	令和4年10月27日(木)
1. 造影剤使用検査の説明と同意書の修正 2. 安全保護対策の説明と同意書の修正 3. 医療安全推進委員会報告 4. 患者相談室カンファレンス報告 5. 9月分死亡患者カルテ確認結果報告 6. 医療安全推進週間について	
第8回	令和4年11月24日(木)
1. ヒヤリハット事例1事例検討 2. 医薬品の安全使用のための業務手順書一部改訂 3. 医療安全推進委員会報告 4. 患者相談室カンファレンス報告 5. 10月分死亡患者カルテ確認結果報告	

第9回	令和4年12月21日(水)
1. 手術・処置で使用する医療材料の業務への依頼調査結果 2. 病院機能評価の模擬審査指摘項目 3. 医療安全推進委員会報告 4. 患者相談室カンファレンス報告 5. 11月分死亡患者カルテ確認結果報告 6. 報告書確認対策チームカンファレンス報告	
第10回	令和5年1月26日(木)
1. 選定療養費同意書について 2. 新規同意書申請 3. 造影超音波検査に関する説明と同意書 4. 患者相談対応手順の修正 5. 医療安全推進委員会報告 6. 患者相談室カンファレンス報告 7. 12月分死亡患者カルテ確認結果報告 8. QCサークル活動報告発表会評価結果	
第11回	令和5年2月22日(水)
1. アクシデント事例2事例検討 2. 輸血同意書・自己血同意書の一部修正 3. 医療安全管理マニュアルの保管 4. 医療安全推進委員会報告 5. 患者相談室カンファレンス報告 6. 1月分死亡患者カルテ確認結果報告	
第12回	令和5年3月23日(木)
1. 造影剤副作用報告書の運用変更 2. 医療安全推進委員会報告 3. 患者相談室カンファレンス報告 4. 2月分死亡患者カルテ確認結果報告 5. 救急カートから向精神薬(ミタゾラム注)の撤去 6. 報告書確認対策チーム報告	

19. 医療事故調査委員会	
目 的	本院に医療事故やクレーム等が発生した場合、速やかに事故原因の究明と今後の対策等について検討する。
委 員 長	出羽 明子(副院長 兼 医療安全推進室長)
第1回	令和4年7月7日(木) 16:00~17:00 応接室
出席者: 鈴木院長、大和田副院長、野田事務部長、鈴木看護部長、矢澤主任部長、清水主任部長、 菊田医事課長、富田総務課長代理、柳田師長、齋藤医療安全管理者	

20. 医療安全推進委員会	
目 的	医療事故防止対策の検討および推進を図る。
委 員 長	市川 剛(脳神経外科部長 兼 救急科部長)
副委員長	齋藤 明子(看護師長 兼 医療安全管理者)
第1回	令和4年4月15日(金)
1. 医療安全推進委員会メンバーについて 2. 3月の医療安全管理委員会報告 3. 令和3年度ヒヤリハット・アクシデント報告のまとめ 4. ワーキンググループ活動計画	
第2回	令和4年5月20日(金)
1. 4月の医療安全管理委員会報告 2. 病院機能評価受審について 3. ワーキンググループ活動	
第3回	令和4年6月17日(金)
1. 5月の医療安全管理委員会報告 2. ワーキンググループ活動	
第4回	令和4年7月15日(金)
1. 6月の医療安全管理委員会報告 2. ワーキンググループ活動	
第5回	令和4年8月 マイページ配信
1. 7月の医療安全管理委員会報告	

第6回	令和4年9月16日(金)
1. 8月の医療安全管理委員会報告 2. 東北ブロック赤十字病院医療安全推進担当者養成研修について 3. QCサークル活動について 4. ワーキンググループ活動	
第7回	令和4年10月21日(金)
1. 9月の医療安全管理委員会報告 2. ワーキンググループ活動	
第8回	令和4年11月18日(金)
1. 10月の医療安全管理委員会報告 2. ワーキンググループ活動	
第9回	令和4年12月16日(金)
1. 11月の医療安全管理委員会報告 2. NESコール・RRTコールのポスター変更について 3. ワーキンググループ活動	
第10回	令和5年1月20日(金)
1. 12月の医療安全管理委員会報告 2. ヒヤリハット事例報告 3. ワーキンググループ活動	
第11回	令和5年2月17日(金)
1. 1月の医療安全管理委員会報告 2. アクシデント事例2事例報告 3. 医療安全に関する研修受講について 4. ワーキンググループ活動	
第12回	令和5年3月17日(金)
1. 2月の医療安全管理委員会報告 2. 令和4年度ワーキンググループ活動報告	

令和5年8月の医療安全推進委員会は、新型コロナウイルス感染拡大のため開催を中止し紙面報告とした。

21. 院内感染対策委員会	
目 的	院内における微生物の感染を積極的に防止し、院内衛生管理の万全を期す。
委 員 長	鈴木 恭一(院長)
副委員長	管野 隆三(呼吸器外科部長)
第1回	令和4年4月12日(火)
1. 3月分データ報告 2. 3月分感染症発生届 3. ICT報告 1) JANIS耐性菌報告 2) 針刺し・血液体液曝露報告 3) ICTラウンド結果報告 4. AST報告について 5. 新型コロナウイルス感染症関連 1) 新型コロナウイルス感染症について 6. その他 1) 令和4年度感染防止対策加算合同カンファランスおよび相互評価実施について	
第2回	令和4年5月10日(火)
1. 4月分データ報告 2. 4月分感染症発生届 3. ICT報告 1) JANIS耐性菌報告 2) 針刺し・血液体液曝露報告 3) ICTラウンド結果報告 4. AST報告について 5. 新型コロナウイルス感染症関連 1) 新型コロナウイルス感染症について 6. その他 1) 感染対策マニュアルについて	

第3回	令和4年6月14日(火)
1. 5月分データ報告 2. 5月分感染症発生届 3. ICT報告 1) JANIS耐性菌報告 2) 針刺し・血液体液曝露報告 3) ICTラウンド結果報告 4. AST報告について 5. 新型コロナウイルス感染症関連 1) 新型コロナウイルス感染症について 6. その他 1) 検査部よりHIV検査結果提示について 2) 感染対策マニュアル改訂について	
第4回	令和4年7月12日(火)
1. 6月分データ報告 2. 6月分感染症発生届 3. ICT報告 1) JANIS耐性菌報告 2) 針刺し・血液体液曝露報告 3) ICTラウンド結果報告 4. AST報告について 5. 新型コロナウイルス感染症関連 1) 新型コロナウイルス感染症について 6. その他 1) 1F会計窓口付近の椅子の管理 2) 感染対策マニュアル	
第5回	令和4年8月9日(火)
1. 7月分データ報告 2. 7月分感染症発生届 3. ICT報告 1) JANIS耐性菌報告 2) 針刺し・血液体液曝露報告 3) ICTラウンド結果報告 4. AST報告について 5. 新型コロナウイルス感染症関連 1) 新型コロナウイルス感染症について 6. その他 1) 感染対策向上加算相互評価 2) 感染対策向上加算地域連携カンファレンス 3) ラゲブリオについて	
第6回	令和4年9月13日(火)
1. 8月分データ報告 2. 8月分感染症発生届 3. ICT報告 1) JANIS耐性菌報告 2) 針刺し・血液体液曝露報告 3) ICTラウンド結果報告 4. AST報告について 5. 新型コロナウイルス感染症関連 1) 新型コロナウイルス感染症について 6. その他 1) 感染対策向上加算相互評価 2) 新型コロナウイルス感染症に関する職員等の勤務および検査取扱い 3) レジオネラ水質検査 4) インフルエンザワクチンの入荷状況 5) 職員のコロナワクチン4回目について 審議事項：新型コロナウイルス感染症の患者に対する療養期間等の見直しについて	

第7回	令和4年10月11日(火)
1. 9月分データ報告 2. 9月分感染症発生届 3. ICT報告 1) JANIS耐性菌報告 2) 針刺し・血液体液曝露報告 3) ICTラウンド結果報告 4. AST報告について 5. 新型コロナウイルス感染症関連 1) 新型コロナウイルス感染症について 6. その他 1) 感染対策向上加算相互評価 2) 職員のインフルエンザワクチン接種予定について 3) 職員のコロナワクチン4回目について 審議事項 1) 結核患者接触者健診について 2) HIV検査結果表示について 3) 感染性医療廃棄物容器ミッペールについて	
第8回	令和4年11月8日(火)
1. 10月分データ報告 2. 10月分感染症発生届 3. ICT報告 1) JANIS耐性菌報告 2) 針刺し・血液体液曝露報告 3) ICTラウンド結果報告 4. AST報告について 5. 新型コロナウイルス感染症関連 1) 新型コロナウイルス感染症について 6. その他 1) インフルエンザワクチン予防接種について 2) 感染性医療廃棄物容器ミッペールlightについて 審議事項：感染対策マニュアル標準予防策PPE改善案について	
第9回	令和4年12月13日(火)
1. 11月分データ報告 2. 11月分感染症発生届 3. ICT報告 1) JANIS耐性菌報告 2) 針刺し・血液体液曝露報告 3) ICTラウンド結果報告 4. AST報告について 5. 新型コロナウイルス感染症関連 1) 新型コロナウイルス感染症について 6. その他 1) 手指消毒について 2) 止血バンドのディスプレイ化についてについて 3) 尿路感染サーベイランスについて・手洗い表示について 4) 全体研修について 5) 高病原性鳥インフルエンザについて	
第10回	令和5年1月10日(火)
1. 12月分データ報告 2. 12月分感染症発生届 3. ICT報告 1) JANIS耐性菌報告 2) ICTラウンド結果報告 4. AST報告について 5. 新型コロナウイルス感染症関連 1) 新型コロナウイルス感染症について 6. その他 1) 高病原性鳥インフルエンザについて 2) 県高齢者施設等職員抗原キット検査配布について	

第11回	令和5年2月14日(火)
1. 1月分データ報告 2. 1月分感染症発生届 3. ICT報告 1) JANIS耐性菌報告 2) 針刺し・血液体液曝露報告 3) ICTラウンド結果報告 4. AST報告について 5. 新型コロナウイルス感染症関連 1) 新型コロナウイルス感染症について 6. その他 1) インフルエンザワクチンについて 2) 2月1日から導入された止血バンドについて状況報告 3) 県高齢者施設等職員抗原キット活用について 4) 電子カルテ内の感染症表記にHIVが追加について 5) 5月8日から新型コロナウイルス感染症を感染症法上の5類感染症法に位置変更について 6) 2月10日付厚生労働省事務連絡より、マスク着用の考え方の見直しについて 7) 感染全体研修の受講状況について	
第12回	令和5年3月14日(火)
1. 2月分データ報告 2. 2月分感染症発生届 3. ICT報告 1) JANIS耐性菌報告 2) 針刺し・血液体液曝露報告 3) ICTラウンド結果報告 4. AST報告について 5. 新型コロナウイルス感染症関連 1) 新型コロナウイルス感染症について 6. その他 1) 県高齢者施設等職員抗原キット活用について 2) 北海道・東北ブロック「日本赤十字社 感染管理ネットワーク研修」開催について 3) 第4回合同カンファランス開催について 4) 針捨てBOX変更について	

22. 医療従事者負担軽減対策委員会	
目 的	医療従事者の負担軽減および処遇改善に係る計画の策定と実行、評価。
委 員 長	鈴木 恭一(院長)
副委員長	阪本 貴之(医局長 兼 循環器内科部長)
第1回	令和4年8月8日(月)
1. 医療従事者の負担軽減および処遇改善計画 令和3年度目標の達成状況等について 他	
第2回	令和4年9月29日(木)
1. 医師の働き方改革について 2. 委員について	
第3回	令和4年11月17日(木)
1. 医療従事者の負担軽減および処遇改善計画 ア. 令和4年度の『目標の達成状況』について	



4. 診療に関する委員会

23. クリニカルパス委員会	
目 的	良質な医療を提供するため各部門参画によるチーム医療の推進を図る。
委 員 長	阪本 貴之(医局長 兼 循環器内科部長)
副委員長	多田 靖宏(耳鼻咽喉科部主任部長 兼 医療情報部門責任者) 柳田 美穂(4階病棟看護師長)
第1回	令和4年6月21日(火)
・今年度委員の紹介 ・電子パス移行の進捗 ・修正パスの承認 ・内服の指示簿指示 ・看護記録と電子パス	
第2回	令和4年10月13日(木)
・電子パス移行の進捗 ・パス通信の創刊 ・パスの作成、修正に関する運用ルール ・パスの承認	
第3回	令和5年1月26日(木)
・電子パス移行の進捗 ・パス通信について ・パスの承認 ・パスの作成、修正について	

24. 輸血療法委員会	
目 的	輸血療法の適応、血液製剤の保管管理、使用状況、適正使用の徹底および輸血療法に伴う事故や副作用・合併症対策について検討し、適正な輸血療法を推進する。
委 員 長	遠藤 豪一(外科部主任部長)
副委員長	出羽 明子(副院長 兼 医療安全推進室長)
第1回	令和4年5月25日(水)
1. 血液製剤の使用状況について(3月、4月分) 2. 血液製剤払い出し時のダブルチェックとサインについて 3. 血液製剤払い出し控え専用クリアファイル作成・運用	
第2回	令和4年7月27日(水)
1. 血液製剤の使用状況について(5月、6月分) 2. 血液製剤払い出し控えの再発行と移動(保管場所)について	
第3回	令和4年9月28日(水)
1. 血液製剤の使用状況について(7月、8月分) 2. 輸血研修会について	
第4回	令和4年11月30日(水)
1. 血液製剤の使用状況について(9月、10月分) 2. 輸血研修会の動画視聴について	
第5回	令和5年2月7日(火)
1. 血液製剤の使用状況について(11月、12月分) 2. 令和4年血液製剤使用状況まとめ 3. 血小板製剤の輸血による細菌感染が疑われた事例について(輸血同意書の見直し) 4. 赤血球液-LRの有効期間変更について 5. COVID19の輸血へのリスクについて	
第6回	令和5年3月29日(水)
1. 血液製剤の使用状況について(1月、2月分)	

25. 臨床検査適正化委員会	
目 的	この臨床適正化委員会は福島赤十字病院臨床検査の管理、運営上の適正化を図るとともに重要事項を審議し、管理運営に万全を期するため、院内各部局と連携を密にし、もって当院の発展に寄与する事を目的とする。
委 員 長 副委員長	田崎 和洋(検査部長) 黒田 聖仁(消化器内科部主任部長)
第 1 回	令和 4 年 4 月 21 日 (木)
1. 令和 3 年度日本医師会臨床検査精度管理調査結果報告。 2. その他。 令和 4 年度診療報酬改定について。 尿中レジオネラ抗原検査試薬変更について。	
第 2 回	令和 4 年 11 月 17 日 (木)
1. 2022 年度日本臨床検査技師会精度管理調査結果報告。 2. プロラクチン外注検査への移行について。 3. HBc抗体、NTPro-BNP、インフルエンザ抗原定量検査院内実施について	

26. 診療情報管理委員会	
目 的	本院における診療情報の適正な保管・管理を図るとともに、診療・調査研究等に対し有効に活用できることを定める。
委 員 長 副委員長	多田 靖宏(耳鼻咽喉科部主任部長 兼 医療情報部門責任者) 渡部 研一(循環器内科部主任部長 兼 医療技術部長)
第 1 回	令和 4 年 6 月 22 日 (水)
《協議事項》	1. 新規文書登録について ①プロフィールNo.1
《報告事項》	なし
第 2 回	令和 4 年 7 月 20 日 (水)
《協議事項》	1. 新規文書登録について ①リハビリテーション実施計画書 ②ASV療法実施確認書・装置預り書・指示書・同意書
《協議事項》	2. スキャンフォルダの整理(説明同意書・クリニカルパス)について
第 3 回	令和 4 年 8 月 26 日 (金)
《協議事項》	1. 新規文書登録について ①小児診察所見記入シート
《報告事項》	2. 新規文書登録について(登録済み) ①診断書(おもいやり駐車場利用制度申請用)
第 4 回	令和 4 年 9 月 15 日 (木)
《協議事項》	1. 薬剤師による「検体検査オーダー」の代行入力権限付与について
《報告事項》	2. 新規文書登録について(登録済み) ①下肢創傷処置治療計画書 ②一般不妊治療計画書
第 5 回	令和 5 年 1 月 24 日 (火)
《協議事項》	1. 複合手術同意書(仮称)の取り扱いについて 2. 同意書内④の表記削除について
《報告事項》	3. 退院療養計画書(新様式)の使用促進について 4. 診療情報管理規程改訂
第 6 回	令和 5 年 2 月 24 日 (金)
《協議事項》	1. 外来診療記録(紙カルテ)廃棄について
《報告事項》	なし

27. DPC・経営改善委員会	
目 的	適切なコーディングの周知および健全な病院経営。
委 員 長 副委員長	鈴木 恭一(院長) 野田 誠(事務部長)
第 1 回	令和 4 年 7 月 15 日(金)
定期報告	■DPC請求項目の医師のチェックについて 令和 4 年度診療報酬改定 ■DPC II より I に近い方が良い コーディングテキストより ■DPC III 超えの化学療法について その他DPCに関する重要事項
第 2 回	令和 4 年 11 月 11 日(金)
定期報告	■DPC請求項目の医師のチェックについて ■再入院とは？ ■臨床指標・質評価について ■コーディング例
第 3 回	令和 4 年 12 月 23 日(金)
定期報告	■DPC請求項目の医師のチェックについて ■予定入院の II 以内退院 ■コーディング例
第 4 回	令和 5 年 2 月 24 日(金)
定期報告	■DPC請求項目の医師のチェックについて ■令和 5 年度機能評価係数 II ■臨床指標・質評価について ■コーディング例

28. 手術室運営委員会	
目 的	手術室の円滑な運営を図るため。
委 員 長 副委員長	出羽 明子(副院長 兼 医療安全推進室長) 江花 英明(麻酔科副部長) 泉 弘子(看護師長)
第 1 回	令和 4 年 4 月 21 日(木)
1. 委員会規定 2. 運営委員会委員について 3. 手術スケジュールについて 4. 副委員長兼麻酔科部長出羽医師より 5. 手術室より 6. 用度施設課より	

29. 救急センター運営委員会	
目 的	ERを利用する救急患者への対応に関する事項を審議し、ERにおける業務の適正かつ円滑な運営を図る。
委 員 長 副委員長	市川 剛(脳神経外科部長 兼 救急科部長) 渡邊あゆみ(外来看護師長)
委員会の開催なし	

30. ハイケアユニット運営委員会	
目 的	ハイケアユニットの適正な運営を図る。
委 員 長 副委員長	江花 英朗(麻酔科副部長) 出羽 明子(副院長 兼 医療安全推進室長)

第1回	令和4年6月20日(月)
1. 今年度の役員について 2. 昨年度のHCUの入室状況 3. 診療報酬改定に伴い当院で算定届け出予定のもの 4. その他	

31. NST委員会	
目 的	入院患者に適切かつ効果的な栄養管理を行い、治療効果の向上を図る。
委 員 長 副委員長	遠藤 豪一(外科部主任部長) 元木 良和(皮膚科部長)
第1回	令和4年4月20日(水)
1. 令和4年度NSTメンバー報告 2. NST加算運用に向けての進捗 3. 機能評価に向けて 4. 議事録の運用	
第2回	令和4年6月15日(水)
1. NST介入依頼書 2. NST届出書添付書類 3. 機能評価に向けて 4. その他	
第3回	令和4年7月20日(水)
1. NST依頼の電カル操作説明 2. 今後のNSTラウンド 3. その他	
第4回	令和4年10月19日(水)
1. 商品紹介 2. NSTラウンドについて 3. その他	
第5回	令和4年11月16日(水)
1. NSTマニュアル変更について 2. その他	
第6回	令和4年12月21日(水)
1. 委員会メンバー変更 2. アルブミン測定に関する報告 3. その他	
第7回	令和5年2月15日(水)
1. アルブミン測定報告 2. NST委員会開催日について 3. その他	

32. 化学療法検討委員会	
目 的	がん化学療法を実施するにあたって、施設・設備などのハードウェア面、医師・看護師・薬剤師などのスタッフ面、セーフティーマネジメントなどの運用面など、充足すべき課題を検討し、化学療法を安全に、安心して実施するための基本的な考え方、具体的な方法を審議する。また、外来化学療法を実施するための運用についても審議し、実施される化学療法のレジメン(治療内容)の妥当性を評価し承認する委員会を兼ねる。
委 員 長 副委員長	管野 隆三(呼吸器外科部長) 矢澤 浩之(産婦人科部長)
第1回	令和4年6月28日(火)
1. 定例報告(外来化学療法実施件数、調製件数、栄養指導件数) 2. 新規、変更申請レジメンの承認、削除レジメンの検討 3. 遺伝子情報の取り扱いについて 4. 指導料件数報告 5. 外来腫瘍化学療法診療料口について	
第2回	令和4年8月18日(木)
1. 定例報告(外来化学療法実施件数、調製件数、栄養指導件数) 2. コメディカルによる化学療法に起因するB型肝炎対策支援プロトコル 3. 化学療法時のリハビリ対応 4. 指導料件数報告 5. DPC期間Ⅲを超える化学療法の実施について	

第3回	令和4年11月15日(火)
1. 定例報告(外来化学療法実施件数、調製件数、栄養指導件数) 2. 新規申請レジメン承認 3. 化学療法時のリハビリ介入基準と方法について 4. 有害事象およびトラブル対応症例 5. 指導料件数報告	
第4回	令和5年2月21日(火)
1. 定例報告(外来化学療法実施件数、調製件数、栄養指導件数) 2. 新規申請レジメン承認 3. 有害事象およびトラブル対応症例 4. 医師の負担軽減について	
第5回	令和5年3月22日(水)(紙面開催)
1. 抗がん剤血管外漏出時のデカドロン局注処置の見直しについて	

33. 緩和ケア委員会	
目 的	生命を脅かす疾患に直面した全ての患者とその家族に早期より全人的苦痛に対する適切な緩和ケア提供を推進する。
委 員 長 副委員長	出羽 明子(副院長 兼 医療安全推進室長) 清和 彩子(看護師長)
第1回	令和4年5月24日(火)
1. 管理料について(穴澤さんより説明) 2. 緩和ケアチームの活動報告について 3. 緩和ケアマニュアルの見直し 4. その他	
第2回	令和4年11月22日(火)
1. 今年度の院内研修開催について 2. 算定件数の推進 3. その他	
第3回	令和5年2月21日(火)
1. 緩和ケアチーム活動の年間報告と来年度からの運用について 2. 緩和ケアマニュアルの見直し・運用について 3. 研修参加の報告について 4. 来年度の研修企画について 5. その他	

34. 褥瘡対策委員会	
目 的	本院における褥瘡予防対策の確立や褥瘡治癒促進に向けて、褥瘡対策マニュアルの作成、褥瘡に関する情報の収集と共有、褥瘡対策についての教育研修の計画および実施などを通し、褥瘡対策および関連する事項について調査・審議する。
委 員 長 副委員長	元木 良和(皮膚科部長) 佐藤 美絵(看護係長、皮膚・排泄ケア認定看護師)
第1回	令和4年4月26日(火)
1. 診療報酬関連の情報・データ報告 2. 令和3年度活動報告 3. 症例報告 4. 令和4年度活動案 5. ラウンド 6. その他：マットレス管理について	
第2回	令和4年5月24日(火)
1. 前月分褥瘡報告 2. 令和3年度褥瘡関連データ報告 3. ラウンド 4. その他：褥瘡管理マニュアルについて マットレス管理について	
第3回	令和4年6月28日(火)
1. 前月分褥瘡報告 2. 症例検討 3. ラウンド 4. その他：メジャーシールについて 勉強会 褥瘡管理マニュアルについて	
第5回	令和4年9月27日(火)
1. 前月分褥瘡報告 2. 症例検討 3. その他：マットレス管理について	

第6回	令和4年10月25日(火)
1. 前月分褥瘡報告 2. 症例検討 3. 勉強会 4. その他：看護計画について	
第7回	令和4年11月22日(火)
1. 前月分褥瘡報告 2. 症例検討 3. ラウンド 4. 勉強会	
第8回	令和4年12月27日(火)
1. 前月分褥瘡報告 2. 症例検討 3. 勉強会 4. ラウンド	
第9回	令和5年1月24日(火)
1. 前月分褥瘡報告 2. 勉強会 3. ラウンド	
第10回	令和5年2月28日(火)
1. 前月分褥瘡報告 2. 症例検討 3. ラウンド 4. その他：ケアや記録について 今年度の振り返り	
第11回	令和5年3月28日(火)
1. 前月分褥瘡報告 2. 症例検討 3. ラウンド 4. その他：1年を振り返って	

35. 認知症ケア運営委員会	
目 的	認知症を有する患者ケアを行うために病棟での対応力とケアの質の向上を図る。
委 員 長	山本慎之助(精神科部副部長)
副委員長	武田 里美(看護師長)
第1回	令和4年4月11日(月)
1. 令和4年度メンバー変更について 2. 委員会開催日変更 3. 今年度の活動の進め方について ・アクションプランの作成 ・ラウンドとラウンド前カンファレンスの開催について ・勉強会について ・活動内容について	
第2回	令和4年5月9日(月)
1. 今後の認知症ケアチームラウンドについて 2. 「福島市もの忘れ相談医連携フォーラム(藤森先生編)」の映像を用いて勉強会を開催 3. 勉強会開催予定月と担当者の決定 7月 看護師：佐川奈美子 9月 地域医療連携課 11月 薬剤部 1月 リハビリテーション課 3月 栄養課	
第3回	令和4年6月9日(木)
1. 「退院支援アセスメントシート」、「認知症アセスメントシート」のテンプレート化について 2. ラウンド前のカンファレンス	
第4回	令和4年7月7日(木)
1. 「退院支援アセスメントシート」、「認知症アセスメントシート」のテンプレート化に伴う、認知症ケアチームの介入依頼方法の変更について 2. ラウンド前のカンファレンス	
第5回	令和4年8月4日(木)
1. 佐川認定看護師による「認知症患者との接し方」に関する勉強会開催 2. 勉強会開催予定月の変更について 開催月：10月・12月・2月・4月 3. ラウンド前のカンファレンス	
第6回	令和4年9月1日(木)
1. 9月より委員会メンバーの変更について 2. 『認知症ケアチーム規程』の見直し 3. ラウンド前のカンファレンス	

第7回	令和4年10月6日(木)
1. 『認知症ケアマニュアル』の見直し 2. PSW菅野さんによる「ソーシャルワーカーの視点」に関する勉強会開催 3. ラウンド前のカンファレンス	
第8回	令和4年11月10日(木)
1. 矢葺薬剤師による「認知症患者さんの服薬支援」に関する勉強会開催 2. 認知症ケア運営委員会メンバーの集合写真(システム揭示版掲載用) 3. ラウンド前のカンファレンス	
第9回	令和4年12月15日(木)
1. 『認知症ケアチーム規程』の差し替え 2. ラウンド前のカンファレンス	
第10回	令和5年1月19日(木)
1. 委員会議事録の管理・閲覧場所について 2. 相田理学療法士による「リハビリアセスメント」に関する勉強会開催 3. ラウンド前のカンファレンス	
第11回	令和5年2月9日(木)
1. システム揭示版の「認知症ケア運営委員会」「認知症ケアチーム」ページの更新について 2. ラウンド前のカンファレンス	
第12回	令和5年3月23日(木)
1. 来年度の認知症ケア運営委員会の開催予定日 2. 来年度の認知症ケア運営委員会メンバー 3. 病院機能評価の結果 認知症ケア運営委員会に関する質疑はなかった。	



5. 教育・研究に関する委員会

36. 医師臨床研修管理委員会	
目 的	本院と臨床協力病院および臨床研修協力施設とが共同で行う医師の臨床研修の実施を統括管理する。
委 員 長 副委員長	鈴木 恭一(院長) 出羽 明子(副院長 兼 医療安全推進室長)
第 1 回	令和 4 年 9 月 28 日(水)
1. 令和 5 年度採用初期臨床研修医の選考について	
第 2 回	令和 5 年 3 月 10 日(金)
1. 令和 3 年度採用初期臨床研修医の研修修了認定 2. 医師臨床研修管理委員会規程の改訂について	

37. 医師臨床研修プログラム委員会	
目 的	医師の臨床研修の円滑な運営を図る。
委 員 長 副委員長	渡部 研一(循環器内科部主任部長 兼 医療技術部長) 出羽 明子(副院長 兼 医療安全推進室長)
第 1 回	令和 4 年 4 月 11 日(月)
1. 2 年目 OSCE について 2. 研修医評価フィードバックとメンターについて 3. 病歴要約について	
第 2 回	令和 4 年 6 月 6 日(月)
1. 研修医のインシデントレポートに提出について	
第 3 回	令和 4 年 8 月 15 日(月)
1. 令和 4 年度福島県地域医療症例検討会の症例発表について 2. 今年度の研修で必要な項目について	
第 4 回	令和 4 年 10 月 17 日(月)
1. EPOC 入力について	
第 5 回	令和 4 年 12 月 5 日(月)
1. 臨床研修管理委員会規約の見直し 2. 研修医の行う医療行為についての確認 3. 精神科研修に関して	
第 6 回	令和 5 年 2 月 6 日(月)
1. 次年度の研修プログラム委員	

38. 図書委員会	
目 的	本院全体における診療その他に必要な図書の整備、購入、利用、管理等を検討するとともに、病院図書の有効利用を図る。
委 員 長 副委員長	遠藤 豪一(外科部主任部長) 阪本 貴之(医局長 兼 循環器内科部長)
第 1 回	令和 4 年 12 月 7 日(水)
1. 図書委員会規程について 2. 今年度の図書購入実績について 3. 来年度の図書購入予定について 4. その他	



6. 労務および安全管理に関する委員会

39. 安全衛生委員会	
目 的	職員の安全衛生および健康管理に関する事項について調査審議し、快適な職場環境を形成する。
委 員 長	守谷 新(脳神経内科部長)
副委員長	山本慎之助(精神科部副部長)
第1回	令和4年4月27日(水)
	1. 4月分労働者傷病報告 2. 長時間労働者の面接指導について 3. 今年度の安全衛生委員会メンバーについて
第2回	令和4年5月25日(水)
	1. 5月分労働者傷病報告 2. 長時間労働者の面接指導について 3. 職員の健康管理について
第3回	令和4年6月29日(水)
	1. 6月分労働者傷病報告 2. 暴言・暴力・セクシャルハラスメント報告 3. 長時間労働者の面接指導について 4. ストレスチェック外部委託について
第4回	令和4年7月27日(水)
	1. 7月分労働者傷病報告 2. 長時間労働者の面接指導について 3. ストレスチェックの集団分析する際のグループ分けについて
第5回	令和4年8月31日(水)
	1. 8月分労働者傷病報告 2. 長時間労働者に対する面接指導について
第6回	令和4年9月28日(水)
	1. 9月分労働者傷病報告 2. 暴言・暴力・セクシャルハラスメント報告 3. 長時間労働者の面接指導について 4. 作業環境測定結果報告
第7回	令和4年10月26日(水)
	1. 10月分労働者傷病報告 2. 長時間労働者の面接指導について 3. ストレスチェックについて
第8回	令和4年11月30日(水)
	1. 11月分労働者傷病報告 2. 長時間労働者に対する面接指導について 3. 職場巡視について
第9回	令和4年12月21日(水)
	1. 12月分労働者傷病報告 2. 長時間労働者に対する面接指導について 3. 職場巡視について
第10回	令和5年1月25日(水)
	1. 1月分労働者傷病報告 2. 長時間労働者に対する面接指導について 3. 職場巡視について 4. 令和4年度前期職員健康診断追跡調査結果
第11回	令和5年2月22日(水)
	1. 2月分労働者傷病報告 2. 長時間労働者に対する面接指導について 3. 職場巡視について
第12回	令和5年3月29日(水)
	1. 3月分労働者傷病報告 2. 長時間労働者に対する面接指導について 3. 職場巡視について 4. 作業環境測定結果報告 5. 令和5年度委員会開催予定日について

40. 医療ガス安全管理委員会	
目 的	医療ガスに関わる安全管理・安全使用の推進を図る。
副委員長 委 員 長	管野 隆三(呼吸器外科部長) 出羽 明子(副院長 兼 医療安全推進室長)
第1回	令和5年3月1日(水)
1. 委員会名簿変更について 2. 医療ガス設備保守点検結果報告 3. 医療ガス研修会開催について 4. その他	

*オンライン(マイページ)開催

VI

研究発表

1. 学会・研究会・研修会

1. 診療科部

所属名	期間	発表者名	場所	学会名、研究・研修会名	演題名
(1)消化器内科	4月21日 ～ 4月23日	浅間 宏之	東京都	第108回日本消化器病学会総会	福島県における切除不能膀胱癌に対するがんゲノム医療の現状
(10)リウマチ・膠原病内科	4月27日	宮田 昌之	横浜市	第66回日本リウマチ学会総会	高齢発症関節リウマチ(EORA)の病像の分析・・・75歳以上を高齢とした場合
(3)循環器内科	5月19日	渡部 研一	オンライン	バイエル薬品講演会	心不全について
(7)心臓血管外科	5月25日 ～ 5月27日	籠島 彰人	北九州市	第50回日本血管外科学会学術総会	孤立性上腸管膜動脈解離に対する4DCTの評価の1例
(3)循環器内科	5月31日	渡部 研一	オンライン	TERUMO Nagomi症例検討会	Ultimaster Nagomiの使用経験
(10)リウマチ・膠原病内科	6月17日	宮田 昌之	東京都	第38回膠原病臨床病理研究会	メトトレキサート関連肝障害の組織所見とリスク因子について
(10)リウマチ・膠原病内科	6月29日	宮田 昌之	郡山市	福島県RA Expert Meeting	当院におけるウバダシニブの使用における実際
(6)外科	6月30日 ～ 7月1日	塚田 学	大阪府	第44回日本癌局所療法研究会	子宮癌に対する放射線治療50年後に回腸穿孔性腹膜炎を発症した1例
(1)消化器内科	7月1日 ～ 7月2日	石崎 優斗	山形市	第213回消化器病学会・第168回日本消化器内視鏡学会	6年間の経過観察後に内視鏡的粘膜下層剥離術にて切除した直腸MALTリンパ腫の1例
(1)消化器内科	7月2日	鈴木 賛	山形市	第168回日本消化器内視鏡学会東北支部例会	経口腸管洗浄剤の服用を契機に低Na血症による意識障害を呈した一例
(7)心臓血管外科	7月7日 ～ 7月8日	佐戸川弘之	東京都	第42回日本静脈学会総会	①血管内焼灼術20周年②日本でのコロナウイルス感染症と静脈血栓塞栓症
(5)精神科	7月8日 ～ 7月10日	長岡 敦子	岡山市	第7回クリニカルバイオバンク学会シンポジウム	福島精神疾患ブレインバンクの取り組みについて
(9)産婦人科	7月14日 ～ 7月16日	矢澤 浩之	福岡市	第64回日本産婦人科腫瘍学会	術前に進行卵巣がんが疑われたpolypoid endometriosisの1例
(6)外科	7月20日 ～ 7月22日	大須賀文彦	横浜市	第77回日本消化器科外科学会	A case of superior mesenteric artery syndrome following transverse colon cancer surgery
(3)循環器内科	7月28日	阪本 貴之	福島市	持田製薬社員教育講師	急性心不全の現況
(5)精神科	8月24日	長岡 敦子	福島市	福島薬剤師会・福島県病院薬剤師会福島支部 2022年8月合同研修会	うつ病治療 update
(7)心臓血管外科	9月3日	佐戸川弘之	福島市	第7回東北静脈フォーラム学術集会	女性ホルモン製剤使用中に発症した静脈血栓塞栓症の2例
(3)循環器内科	9月4日	渡部 研一	オンライン	基本的臨床能力評価試験シンポジウム	福島赤十字病院病院紹介
(9)産婦人科	9月8日 ～ 9月10日	矢澤 里穂	横浜市	第62回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会	異所性妊娠の手術症例における希少部位妊娠と大量出血例の成績－20年間、259件の異所性妊娠手術症例からの検討－
(9)産婦人科	9月8日 ～ 9月10日	矢澤 里穂	横浜市	第62回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会	当院における異所性妊娠の手術成績と管理の現状－妊娠部位別の結果と大量出血例の検討－

所属名	期間	発表者名	場所	学会名、研究・研修会名	演題名
(9)産婦人科	9月9日 ～ 9月10日	矢澤 浩之	横浜市	第62回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会	当院におけるTLHの合併症報告：3回の帝王切開既往患者での膀胱損傷例の報告と損傷回避への工夫
(10)リウマチ・膠原病内科	9月22日 ～ 9月24日	松岡 直紀	札幌市	第32回日本リウマチ学会 北海道・東北支部学術集会	MTX中止後、JAK阻害薬治療で縦隔リンパ節腫大が再燃したRAの一例
(10)リウマチ・膠原病内科	9月22日 ～ 9月24日	田中竜太郎	札幌市	第32回日本リウマチ学会 北海道・東北支部学術集会	特発性多中心性Castleman病に関節リウマチを合併した一例
(10)リウマチ・膠原病内科	9月22日 ～ 9月24日	石井三千花	札幌市	第32回日本リウマチ学会 北海道・東北支部学術集会	異所性、経時的に医原性免疫不全関連リンパ増殖性疾患が発生し polymorphic/lymphoplasmacytic infiltrates-typeからホジキン病に進展したと考えられる関節リウマチの一例
(9)産婦人科	9月25日	矢澤 里穂	福島市	福島県産婦人科学会秋季学術集会	当院で経験した腹膜偽粘液種の4例
(3)循環器内科	9月29日	渡部 研一	福島市	不整脈薬物治療 ON SITE	ガイドラインに基づいた不整脈の薬物治療と注意点
(9)産婦人科	10月15日 ～ 10月16日	矢澤 里穂	岩手県	第69回北日本産科婦人科学会総会学術講演会	当院における異所性妊娠の手術成績と管理の現状－診断・術式・発生頻度とリスク因子の関連に関して－
(8)脳神経外科	10月26日	市川 剛	日本赤十字社 愛知医療センター	第22回赤十字脳神経外科Web Conference	福島式脳室穿孔機器の紹介
(7)心臓血管外科	10月27日 ～ 10月29日	籠島 彰人	横浜市	第63回日本脈管学会総会	緊急避難的にステントグラフトを使用した鼠径部感染性動脈瘤に対して閉鎖孔バイパスを行った一例
(2)糖尿病・代謝内科	11月5日	佐藤 義憲	仙台市	第60回日本糖尿病学会東北地方会	DKAに中等度胃液貯留を伴ったミトコンドリア糖尿病の1例
(2)糖尿病・代謝内科	11月5日	佐藤 義憲	仙台市	第60回日本糖尿病学会東北地方会	DKAに高cl性代謝性アシドーシスを併発した急性発症1型糖尿病の1例
(3)循環器内科	11月9日	渡部 研一	福島市	赤十字健康講演	心臓病のはなし～心筋こうそくを知ろう～
(8)脳神経外科	11月10日 ～ 11月12日	佐々木拓真	大阪府	第38回日本脳神経血管内治療学会学術集会	血管内治療でトラッピングを行った非外傷性外頸動脈瘤の1例
(8)脳神経外科	11月10日 ～ 11月12日	鎌村 美歩	大阪府	第38回日本脳神経血管内治療学会学術集会	Aberrant right subclavian arteryと総頸動脈共通幹を有する頸動脈ステント留置術
(9)産婦人科	11月11日	矢澤 浩之	金沢市	第45回日本産科婦人科手術学会	大量の腹水貯留、CA125の著明な上昇を伴い悪性卵巣腫瘍が疑われた卵巣甲状腺腫の1例
(6)外科	11月24日 ～ 11月26日	大須賀文彦	福岡市	第84回日本臨床外科学会総会	穿刺胆汁培養により適切に感染抑制し得た十二指腸潰瘍穿孔術後真菌性胆嚢炎の1例
(10)リウマチ・膠原病内科	11月25日	宮田 昌之	福島市	D2T RA Conference	高齢発症関節リウマチ(Eora)の治療・・・IL-6阻害療法の有用性について

所属名	期間	発表者名	場所	学会名、研究・研修会名	演題名
(1)消化器内科	11月25日 ～ 11月26日	菅野有紀子	仙台市	第44回日本肝臓学会東部会・後期教育講演会	当院におけるアルコール関連疾患患者の出血リスクおよび治療についての検討
(10)リウマチ・膠原病内科	12月1日、 12月3日	宮田 昌之	福島市	Lilly RA JAK Seminar	バリシチニブの6か月観察時の安全性について4731例の全国調査より
(10)リウマチ・膠原病内科	12月16日	宮田 昌之	福島市	第8回福島県IL-6講演会	「関節リウマチにおける肝障害とトシリズマブの治療戦略」
(3)循環器内科	2月4日	芳賀 文香	福島市	第52回日本心血管インターベンション治療学会東北地方会	血栓療法を用いて二期的にPCIを施行した2例・LCx近位部の血栓閉塞に対してバルーン拡張を行い、10日後の造影で75%狭窄と血栓の消失を確認したが、3ヶ月後の造影で99%狭窄を呈した一例
(3)循環器内科	2月4日	佐藤 智基	福島市	日本心血管インターベンション治療学会東北地方会	高度石灰化を伴う右冠動脈入口部瘤後狭窄病変に対してRotablatorを使用した一例
(7)心臓血管外科	3月28日	佐戸川弘之	福島市	福島静脈Webセミナー	静脈血栓塞栓症に対する抗凝固療法－特にDOAC治療のポイントについて－

2. リハビリテーション科部

所属名	期間	発表者名	場所	学会名、研究・研修会名	演題名
	1月21日	秋元 礼智	福島市	2022年第2回福島県理学療法士県北支部学術研修大会	シンポジウム(運動器)

3. 医療技術部

所属名	期間	発表者名	場所	学会名、研究・研修会名	演題名
(1)臨床工学技術課	10月29日	齋藤 巧	石巻市	第12回日本赤十字社臨床工学技士会東北ブロック研修会	シンポジウム1 災害対策について
(1)臨床工学技術課	10月30日	村上 風太	石巻市	第12回日本赤十字社臨床工学技士会東北ブロック研修会	医師のタスクシフト Pros&Cons
(1)臨床工学技術課	2月4日	村上 風太	福島市	第52回日本心血管インターベンション治療学会 東北地方会	当院における12誘導心電図伝送システムを用いた緊急PCIについて

4. 事務部

所属名	期間	発表者名	場所	学会名、研究・研修会名	演題名
(1)経営企画課	7月30日	金子 瑛	オンライン	第1回医療経営士実践研究大会東北支部大会	シンポジウム パネリスト
(2)医事課	7月30日	穴澤 詩織	オンライン	第1回医療経営士実践研究大会東北支部大会	400万の医療費未払いを経験した当院の未収金対策
(2)医事課	3月9日 ～ 3月11日	三浦 有樹	盛岡市	日本災害医学会総会・学術集会	通信途絶環境下でも使用可能なファイル共有システムの検討
(2)医事課	3月9日 ～ 3月11日	三浦 有樹	盛岡市	日本災害医学会総会・学術集会	感染症対策支援チームにおける、Google Workspaceの情報セキュリティ対策
(2)医事課	3月9日 ～ 3月11日	三浦 有樹	盛岡市	日本災害医学会総会・学術集会	東日本大震災時の被災地における実地研修で通信体制確立を行なった経験

5. 地域医療連携室

所属名	期間	発表者名	場所	学会名、研究・研修会名	演題名
	3月2日	菅野 直樹	福島市	児童相談所職員専門性向上研修精神障がい児・者への支援」(基礎)(実際)	(基礎)精神保健医療福祉の現状を踏まえた支援(実際)アセスメントを深めるー他職種・多機能協同のためにー

2. 論文発表

診療科	著者	論文名	誌名・巻(号)・ページ
(7)心臓血管外科	Nakamura J, Tsujino I, Yachi S, Takeyama M, Nishimoto Y, Konno S, Yamamoto N, Nakata H, Ikeda S, Umetsu M, Aikawa S, Hayashi H, Satokawa H, Okuno Y, Iwata E, Ogihara Y, Ikeda N, Kondo A, Iwai T, Yamada N, Ogawa T, Kobayashi T, Mo M, Yamashita Y	CLOT-COVID Study Investigators: Incidence, risk factors, and clinical impact of major bleeding in hospitalized patients with COVID-19: a sub-analysis of the CLOT-COVID Study.	Thrombosis Journal 2022 Sep 20; 20(1) : 53.
(7)心臓血管外科	Hayashi H, Izumiya Y, Fukuda D, Wakita F, Mizobata Y, Fujii H, Yachi S, Takeyama M, Nishimoto Y, Tsujino I, Nakamura J, Yamamoto N, Nakata H, Ikeda S, Umetsu M, Aikawa S, Satokawa H, Okuno Y, Iwata E, Ogihara Y, Ikeda N, Kondo A, Iwai T, Yamada N, Ogawa T, Kobayashi T, Mo M, Yamashita Y, on behalf of the CLOT-COVID Study Investigators	Real-World Management of Pharmacological Thromboprophylactic Strategies for COVID-19 Patients in Japan From the CLOT-COVID Study	JACC Asia. 2022 Dec; 2(7) : 897-907.
(7)心臓血管外科	Ogihara Y, Yachi S, Takeyama M, Nishimoto Y, Tsujino I, Nakamura J, Yamamoto N, Nakata H, Ikeda S, Umetsu M, Aikawa S, Hayashi H, Satokawa H, Okuno Y, Iwata E, Ikeda N, Kondo A, Iwai T, Yamada N, Ogawa T, Kobayashi T, Mo M, Yamashita Y, CLOT-COVID Study Investigators	Influence of obesity on incidence of thrombosis and disease severity in patients with COVID-19. From the CLOT-COVID study	Journal of Cardiology 2023 Jan; 81(1) : 105-110
(10)リウマチ・膠原病内科	Temmoku J, Miyata M, Suzuki E, Sumichika Y, Saito K, Yoshida S, Matsumoto H, Fujita Y, Matsuoka N, Asano T, Sato S, Watanabe H, Migita K	Comparing the effectiveness and safety of Abatacept and Tocilizumab in elderly patients with rheumatoid arthritis.	PLoS One. 2022 Sep 19;17(9): e0274775. doi : 10.1371/journal.pone.0274775. eCollection 2022
(10)リウマチ・膠原病内科	Temmoku J, Migita K, Yoshida S, Matsumoto H, Fujita Y, Matsuoka N, Yashiro-Furuya M, Asano T, Sato S, Suzuki E, Watanabe H, Miyata M	Real-world comparative effectiveness of bDMARDs and JAK inhibitors in elderly patients with rheumatoid arthritis.	Medicine (Baltimore). 2022 Oct 21;101(42) : e31161. doi : 10.1097/MD.00000000000031161.
(3)循環器内科	Takayuki Ohwada, Takayuki Sakamoto, Satoshi Suzuki, Yukiko Sugawara, Kazuya Sakamoto, Ayano Ikeda, Fumika Haga, Tomoki Sato, Kazuhiko Nakazato, Yasuchika Takeishi & Kenichi Watanabe	Apolipoprotein C3 and necrotic core volume are correlated but also associated with future cardiovascular events	Scientific Reports(2022) 12 : 14554

福島赤十字病院
令和 4 年度 病院年報

通算第12号

令和 6 年 3 月発行

編集◎福島赤十字病院 事務部経営企画課

発行◎福島赤十字病院

〒960-8530 福島県福島市八島町 7 - 7

TEL 024-534-6101(代表) FAX 024-531-1721

<http://www.fukushima-med-jrc.jp/>

copyright©JAPANESE RED CROSS FUKUSHIMA HOSPITAL All rights reserved.



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

人間を救うのは、人間だ。 Our world. Your move.